第3章　対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域及びその周囲における自然的状況及び社会的状況について、環境影響評価にあたって必要と考えられる範囲を対象に、入手可能な最新の文献その他の既存資料により把握した。

なお、対象事業実施区域及びその周囲の概況を把握する関係地域については、「発電所の設置又は変更の工事の事業に係る計画段階配慮事項の選定並びに当該計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の手法に関する指針、環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針並びに環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」（平成 10 年通商産業省令第 54 号、改正：令和 5 年経済産業省令第 46 号）、「発電所に係る環境影響評価の手引」（経済産業省、令和 7 年 2 月）に基づき、本事業により環境影響が及ぶ可能性がある地域とした。本準備書では、環境影響を受ける範囲と認められる地域の概況を網羅するために、対象事業実施区域から 2 ㎞の範囲に含む図郭を基本図郭とし、環境影響評価項目ごとに調査、予測及び評価を行うにあたり必要と認める範囲まで図郭を拡大するなど、適宜情報を収集した。

3.1　自然的状況

3.1.1　気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

(1) 気象の状況

1) 気象特性

対象事業実施区域は富山県の北東端付近に位置し、北は日本海に面して、気候は概して比較的温暖であり多雨多雪である。

2) 気象概要

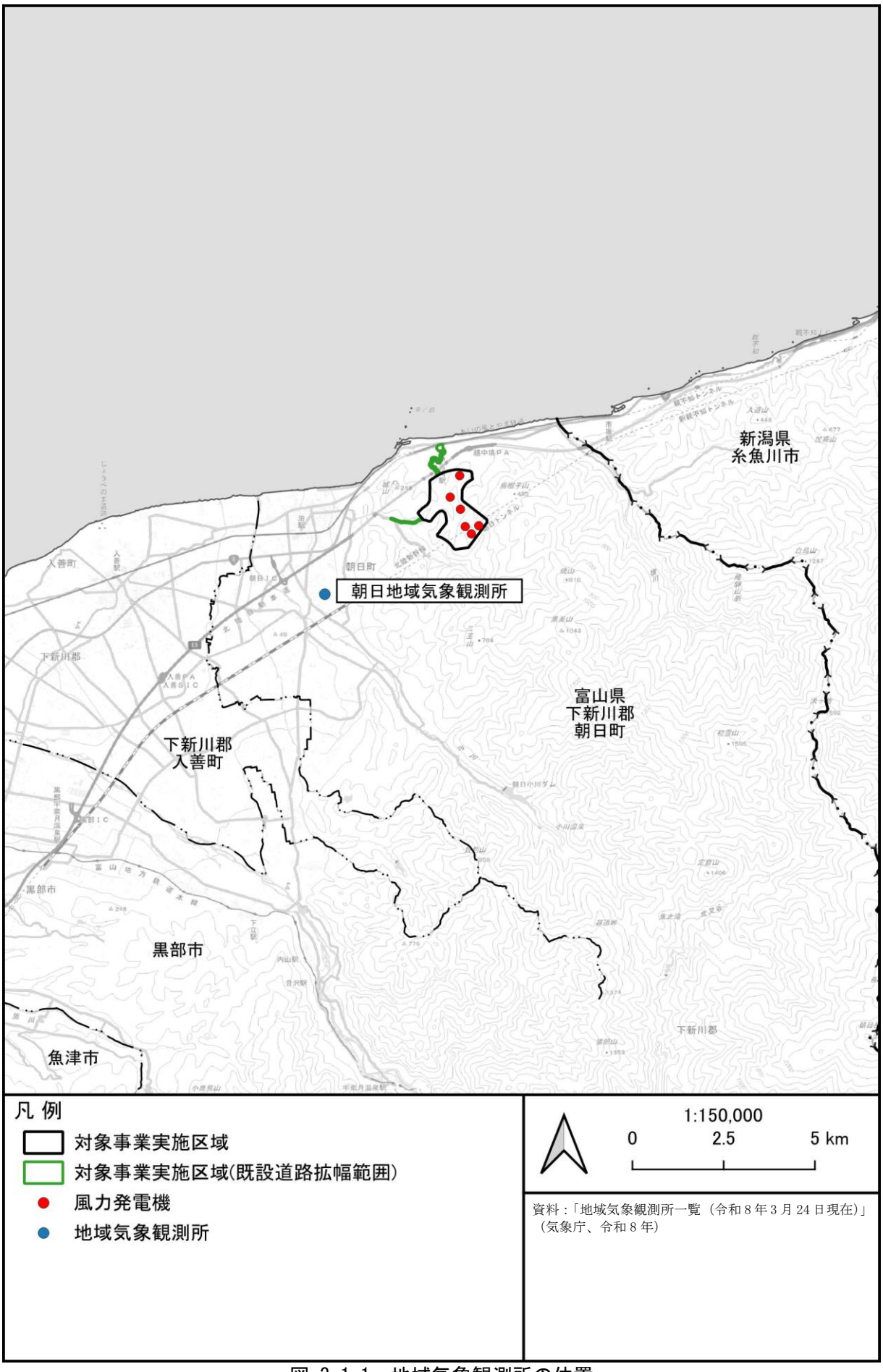
対象事業実施区域の周囲には朝日地域気象観測所があり、観測所における観測項目は表 3.1-1 に示すとおりである。また、観測所の位置は図 3.1-1 に示すとおりであり、対象事業実施区域との距離は約 3.4km である。ここでは、朝日地域気象観測所について、気象概況及び風向風速の整理結果を示す。

朝日地域気象観測所における気象概況は表 3.1-2、風向出現頻度及び風向別平均風速は表 3.1-3 に、風配図は図 3.1-2 に示すとおりであり、令和 7 年の年平均気温は 15.0℃、年平均風速は 3.2m/s、年最多風向は南南東である。

表 3.1-1　地域気象観測所の観測項目

観測所名	所在地	緯度経度	海面上の高さ	風速計の高さ	温度計の高さ	観測項目				
						気温	風	降水量	日照	積雪
朝日	下新川郡朝日町南保町	緯度 036° 56.2′ 経度 137° 33.8′	43m	10.1m	2m	○	○	○	-	○

注：観測項目の「○」は観測が行われていること、「-」は行われていないことを示す。
資料：「地域気象観測所一覧（令和 8 年 3 月 24 日現在）」（気象庁、令和 8 年）



資料：「地域気象観測所一覧（令和８年３月24日現在）」（気象庁、令和８年）

図 3.1-1　地域気象観測所の位置

表 3.1-2(1)　朝日地域気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温(℃)	14.4	3.4	3.6	6.8	11.9	17.1	20.9	25.1	26.6	22.7	17.2	11.5	6.2
日最高気温(℃)	18.4	6.4	7.1	11.1	16.5	21.7	24.8	29.1	30.8	26.8	21.3	15.5	9.6
日最低気温(℃)	11.0	0.7	0.5	2.9	7.7	13.2	17.7	22.1	23.1	19.3	13.6	7.9	3.1
日照時間(時間)	1632.6	49.5	79.2	130.2	179.4	205.1	164.2	160.7	215.3	148.9	141.9	96.1	56.6
降水量(mm)	2748.7	279.1	184.7	194.3	167.6	155.0	188.4	253.4	214.5	242.4	228.0	309.2	350.0
降雪の深さ合計(cm)	240	104	86	15	1	0	0	0	0	0	0	0	37
最深積雪(cm)	44	35	33	8	1	0	0	0	0	0	0	0	14

注1：平年値は平成3（1991）年～令和2（2020）年の30年間の平均値である。
注2：平均風速は、「欠測または観測を行っていない場合」、「欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められない場合」の記号で示されているため、記載を省略した。
資料：「気象統計情報　平年値」（気象庁HP、閲覧：令和8年4月）

表 3.1-2(2)　朝日地域気象観測所の気象概況（令和7年）

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)					日照時間(時間)	雪(cm)		
	合計	最大			平均			最高	最低	平均	最大風速		最大瞬間風速			降雪		最深積雪
		日	1時間	10分間	日平均	日最高	日最低			風速	風速	風向	風速	風向		合計	日合計の最大	
1	358.5	40.0	9.0	3.0	3.3	6.7	0.5	12.2	-1.9	3.8	12.2	南南西	20.1	南	65.8	58	16	21
2	260.5	46.0	7.5	2.5	1.7	4.9	-1.3	9.8	-6.7	4.1	15.5	南南西	23.6	南	47.0	196	43	81
3	226.5	53.5	8.0	2.5	7.5	12.0	3.1	29.1	-1.5	3.7	13.0	南西	19.6	南	129.1	0	0	27
4	110.0	19.5	7.0	2.5	12.4	17.7	8.0	26.7	1.6	3.3	13.0	南西	19.3	南西	147.8	0	0	0
5	137.0	22.0	8.5	2.0	17.0	22.1	13.0	30.3	7.3	2.8	10.5	北北東	17.7	北北東	179.6	0	0	0
6	168.0	31.5	17.5	5.0	22.7	27.4	19.0	34.9	13.6	2.4	9.7	南南西	15.7	南南西	171.3	0	0	0
7	4.5	3.5	1.5	1.0	27.9	33.0	23.7	35.5	21.4	2.4	7.7	北東	12.2	北東	283.1	0	0	0
8	364.0	129.0	28.5	10.0	27.5	32.3	23.8	36.5	20.5	2.8	10.1	南東	15.0	西南西	235.9	0	0	0
9	252.5	52.5	22.0	10.0	24.6	29.4	20.9	35.7	15.6	2.7	9.4	北東	14.3	北東	161.9	0	0	0
10	428.0	102.5	28.5	8.0	17.7	21.4	14.3	29.8	6.0	3.0	10.1	北北東	16.8	北北東	105.5)	0	0	0
11	236.5	51.5	9.5	5.0	11.1	15.7	7.2	20.8	3.2	3.4	11.3	南南西	17.4	南	129.2	0	0	0
12	344.5	50.5	9.5	4.0	7.0	11.6	3.1	21.0	-1.1	3.9	12.7	南南西	27.1	北北東	80.1	1	1	1
年	2890.5	129.0	28.5	10.0	15.0	19.5	11.3	36.5	-6.7	3.2	15.5	南南西	27.1	北北東	1736.3	260	43	81

注：「)」統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱うもの（準正常値）を示す。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。
資料：「気象統計情報」（気象庁HP、閲覧：令和8年5月）

表 3.1-3　朝日地域気象観測所の風向出現頻度及び風向別平均風速（令和 7 年）

季節 風向	春季(3～5 月)		夏季(6～8 月)		秋季(9～11 月)		冬季(12～2 月)		年間	
	風向頻度 (%)	平均風速 (m/s)	風向頻度 (%)	平均風速 (m/s)	風向頻度 (%)	平均風速 (m/s)	風向頻度 (%)	平均風速 (m/s)	風向頻度 (%)	平均風速 (m/s)
北北東	9.8	4.1	9.4	2.8	9.8	4.3	2.5	3.7	7.9	3.7
北東	5.5	3.5	4.5	2.9	6.9	3.9	2.4	3.5	4.8	3.5
東北東	3.0	1.8	2.6	1.5	3.7	22.5	1.9	2.3	2.8	2.0
東	2.6	1.5	2.7	1.1	3.0	1.8	1.0	1.8	2.3	1.5
東南東	3.7	1.5	4.2	1.1	3.6	1.4	1.7	1.4	3.3	1.3
南東	9.5	2.0	8.7	1.8	12.7	2.2	9.2	2.7	10.0	2.2
南南東	20.6	3.2	23.5	2.7	28.0	3.0	28.2	3.4	25.1	3.1
南	9.2	3.9	10.0	2.9	11.6	3.5	21.2	4.6	12.9	3.9
南南西	7.9	4.9	5.9	3.2	5.9	3.6	14.0	5.8	8.4	4.7
南西	7.0	5.5	5.0	3.3	2.7	3.7	5.7	4.2	5.1	4.4
西南西	4.5	4.5	3.9	3.5	2.5	3.6	2.6	3.6	3.4	3.9
西	2.4	3.0	2.0	2.7	1.9	2.4	2.2	3.4	2.1	2.9
西北西	1.4	2.2	2.3	2.1	1.4	2.4	3.1	4.1	2.0	2.9
北西	1.9	1.9	1.7	1.7	0.7	2.1	1.6	3.2	1.5	2.2
北北西	3.9	2.1	3.5	2.1	1.6	1.7	1.6	3.5	2.7	2.2
北	7.0	2.4	10.0	2.2	4.0	2.4	1.2	2.2	5.6	2.3
静穏	0.0	0.2	0.1	0.2	-	0.0	-	0.0	0.0	0.2
合計・平均	99.9	3.3	100.0	2.5	100.0	3.0	100.1	4.0	99.9	3.2
(欠測)	-		-		0.1		-		0.0	

注：1. 静穏は風速 0.2 m/s 以下とする。
　　2. 四捨五入の関係で各風向の出現頻度の合計が 100%にならないことがある。
　　3. 頻度の「-」は出現しなかったことを示す。
資料：「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）

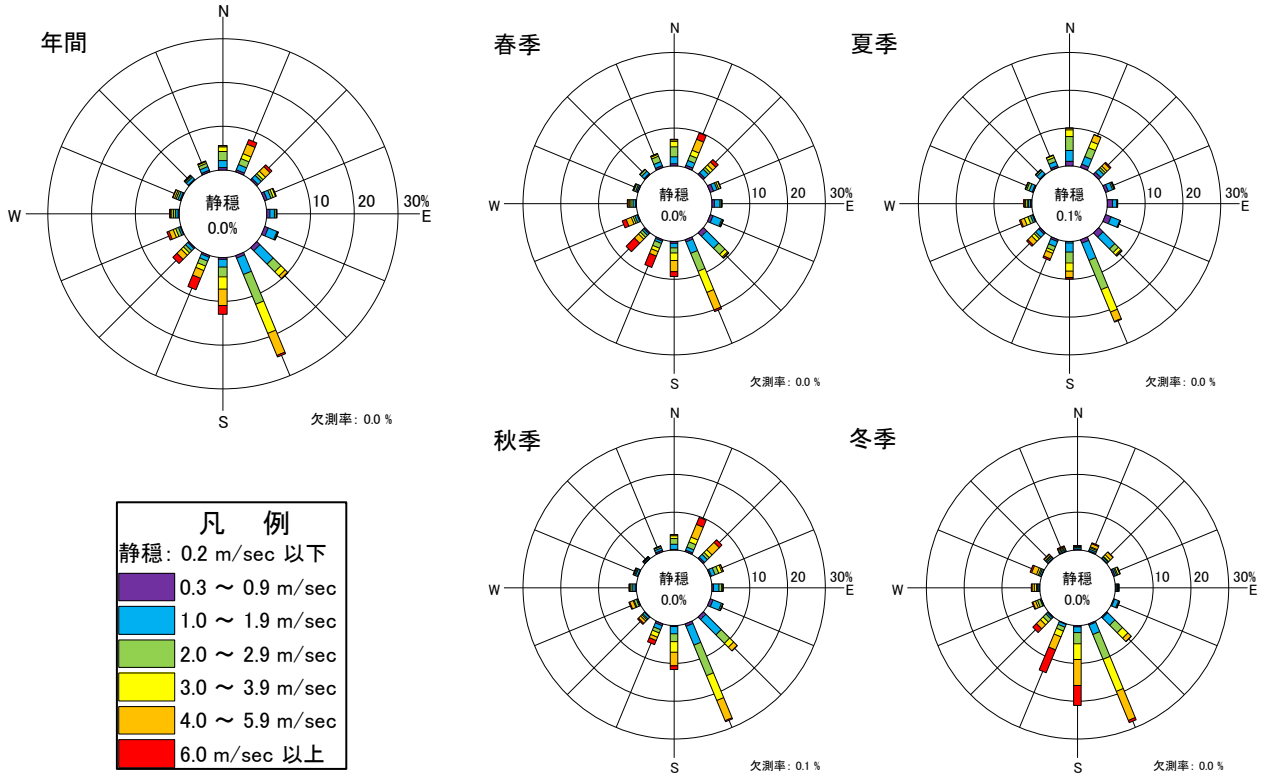


図 3.1-2　朝日地域気象観測所の風配図（令和 7 年）

資料：「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：令和 8 年 5 月）

(2) 大気質の状況

対象事業実施区域及びその周囲の測定局として、一般環境測定局（以下「一般局」という）が入善町の入善町立入善小学校に設置されており、表 3.1-4 に示す項目について常時監視が行われている。一般局の位置は図 3.1-3 に示すとおりである。

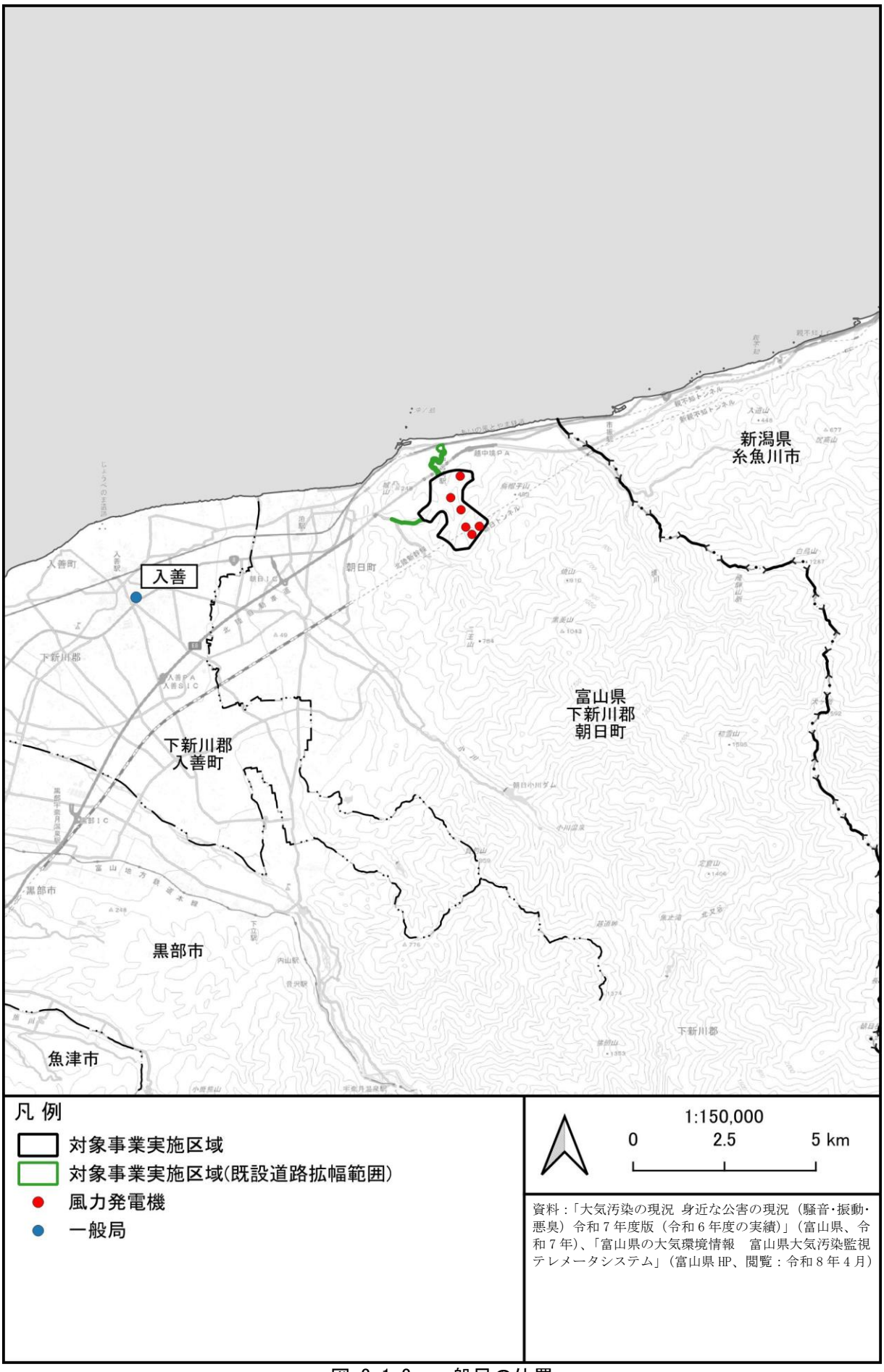
なお、対象事業実施区域及びその周囲では、自動車排出ガス一般局は設置されていない。

表 3.1-4　一般局の測定項目

区分	所在自治体	局名	用途地域	設置場所	測定項目						
					二酸化硫黄 (SO_2)	二酸化窒素 (NO_2)	一酸化炭素 (CO)	光化学オキシダント (O_X)	炭化水素 (HC)	浮遊粒子状物質 (SPM)	微小粒子状物質 (PM2.5)
一般局	入善町	入善	住	入善小学校	(○)	○	-	○	-	○	○

注：1.測定項目の「○」は測定が行われていること、「-」は行われていないことを示す。
2.用途地域については以下のとおりである。
住：「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号、最終改正：令和 7 年法律第 51 号）第 8 条第 1 項第 1 号の用途地域のうち、「第 1 種低層住居専用地域」、「第 2 種低層住居専用地域」、「第 1 種中高層住居専用地域」、「第 2 種中高層住居専用地域」、「第 1 種住居地域」、「第 2 種住居地域」、「準住居地域」及び「田園住居地域」に該当する地域
3.「令和 3 年版環境白書（全体版）」（富山県、令和 3 年）によると、二酸化硫黄の測定は令和元年度に終了している。

資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）
「富山県の大気環境情報　富山県大気汚染監視テレメータシステム」（富山県 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）



資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和７年度版（令和６年度の実績）」（富山県、令和７年）、「富山県の大気環境情報　富山県大気汚染監視テレメータシステム」（富山県 HP、閲覧：令和８年４月）

図 3.1-3　一般局の位置

1)二酸化硫黄

入善局では令和元年度に二酸化硫黄の測定が終了したため、平成 30 年度の測定結果が入手可能な最新のデータである。平成 30 年度における二酸化硫黄の測定結果は、表 3.1-5 に示すとおりであり、短期的評価及び長期的評価ともに環境基準に適合している。

また、平成 26 年度～平成 30 年度の年平均値の経年変化は表 3.1-6 及び図 3.1-4 に示すとおりである。

＜環境基準とその評価＞
環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。
短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。
長期的評価：1 日平均値の年間 2%除外値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

表 3.1-5　二酸化硫黄の測定結果（平成 30 年度）

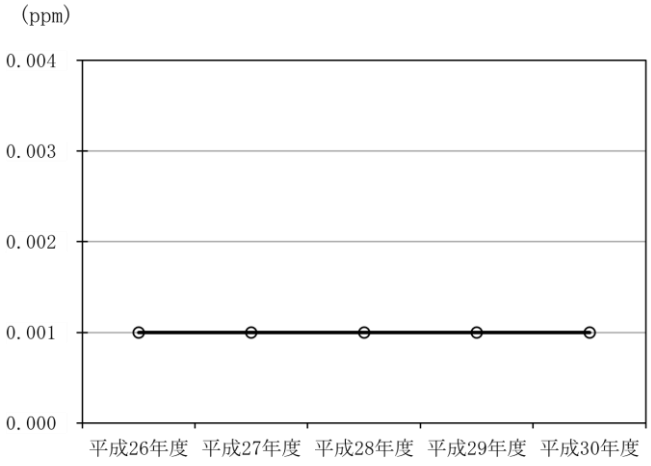
区分	所在自治体	局名	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数	日平均値が 0.04ppm を超えた日数	1 時間値の最高値	日平均値の最高値	1 日平均値の年間 2%除外値	環境基準の適否	
												短期的評価	長期的評価
				日	時間	ppm	時間	日	ppm	ppm	ppm	適(○)否(×)	適(○)否(×)
一般局	入善町	入善	住	365	8,694	0.001	0	0	0.009	0.003	0.002	○	○

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「大気汚染の現況　身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和元年度版（平成 30 年度の実績)」（富山県、令和元年)
「令和元年版環境白書（全体版)」（富山県、令和元年）

表 3.1-6　二酸化硫黄の年平均値の経年変化

区分	所在自治体	局名	用途地域	年平均値（ppm）				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	入善町	入善	住	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「令和元年版環境白書（全体版)」（富山県、令和元年）



資料：「令和元年版環境白書（全体版)」（富山県、令和元年）

図 3.1-4　二酸化硫黄の年平均値の経年変化

2) 二酸化窒素

令和 6 年度における二酸化窒素の測定結果は、表 3.1-7 に示すとおりであり、環境基準に適合している。

また、令和 2 年度～令和 6 年度の年平均値の経年変化は表 3.1-8 及び図 3.1-5 に示すとおりである。

＜環境基準とその評価＞
環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。
環境基準の評価：1 日平均値の年間 98%値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

表 3.1-7　二酸化窒素の測定結果（令和 6 年度）

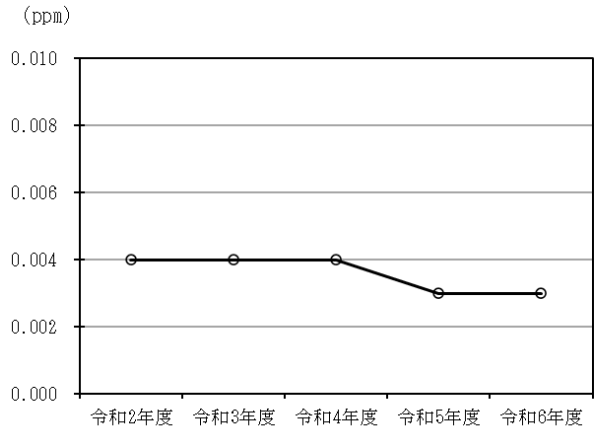
区分	所在自治体	局名	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数	日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数	日平均値の年間 98%値	環境基準の適否
				日	時間	ppm	ppm	ppm	日	日	ppm	適(○) 否(×)
一般局	入善町	入善	住	364	8,685	0.003	0.023	0.009	0	0	0.006	○

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）

表 3.1-8　二酸化窒素の年平均値の経年変化

区分	所在自治体	局名	用途地域	年平均値（ppm）				
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	入善町	入善	住	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）



資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）

図 3.1-5　二酸化窒素の年平均値の経年変化

3)光化学オキシダント

令和 6 年度における光化学オキシダントの測定結果は表 3.1-9 に示すとおりであり、環境基準に適合していない。

令和 2 年度～令和 6 年度における年平均値の経年変化は表 3.1-10 及び図 3.1-6 に示すとおりである。

＜環境基準とその評価＞
環境基準：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。
環境基準の評価：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

表 3.1-9　光化学オキシダントの測定結果（令和 6 年度）

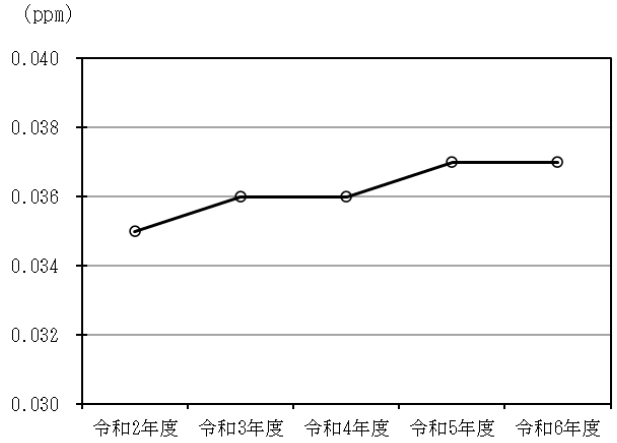
区分	所在自治体	局名	用途地域	昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数と時間数		昼間の 1 時間値の最高値	環境基準の適否
				日	時間	日	時間	日	時間	ppm	適(○)否(×)
一般局	入善町	入善	住	363	5,397	64	374	0	0	0.083	×

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）

表 3.1-10　光化学オキシダントの年平均値の経年変化

区分	所在自治体	局名	用途地域	年平均値（ppm）				
				令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
一般局	入善町	入善	住	0.035	0.036	0.036	0.037	0.037

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）



資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）

図 3.1-6　光化学オキシダントの年平均値の経年変化

4)浮遊粒子状物質

令和6年度における浮遊粒子状物質の測定結果は表 3.1-11 に示すとおりであり、短期的評価及び長期的評価ともに環境基準に適合している。また、令和2年度～令和6年度の年平均値の経年変化は表 3.1-12 及び図 3.1-7 に示すとおりである。

＜環境基準とその評価＞

環境基準：1時間値の1日平均値が 0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が 0.20mg/m³以下であること。

短期的評価：1時間値の1日平均値が 0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が 0.20mg/m³以下であること。

長期的評価：1日平均値の年間 2%除外値が 0.10mg/m³以下であり、かつ、1日平均値が 0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続しないこと。

表 3.1-11　浮遊粒子状物質の測定結果（令和6年度）

区分	所在自治体	局名	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が 0.20 mg/m³を超えた時間数	日平均が 0.10 mg/m³を超えた日数	1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値の年間2%除外値	環境基準の適否	
												短期的評価	長期的評価
				日	時間	mg/m³	時間	日	mg/m³	mg/m³	mg/m³	適(○)否(×)	
一般局	入善町	入善	住	361	8,684	0.008	0	0	0.099	0.037	0.024	○	○

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。

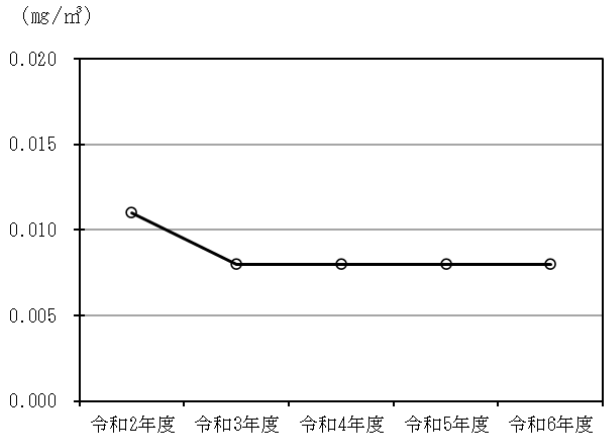
資料：「大気汚染の現況　身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和7年度版（令和6年度の実績）」（富山県、令和7年）

表 3.1-12　浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	所在自治体	局名	用途地域	年平均値（mg/m³）				
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	入善町	入善	住	0.011	0.008	0.008	0.008	0.008

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。

資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和7年度版（令和6年度の実績）」（富山県、令和7年）



資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和7年度版（令和6年度の実績）」（富山県、令和7年）

図 3.1-7　浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

5)微小粒子状物質

令和6年度における微小粒子状物質の測定結果は表 3.1-13 に示すとおりであり、環境基準に適合している。また、令和2年度～令和6年度の年平均値の経年変化は表 3.1-14 及び図 3.1-8 に示すとおりである。

＜環境基準とその評価＞
環境基準：1年平均値が 15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が 35μg/m³以下であること。
短期基準：1日平均値のうち年間 98 パーセンタイル値が 35μg/m³以下であること。
長期基準：1年平均値が 15μg/m³以下であること。

表 3.1-13　微小粒子状物質の測定結果（令和6年度）

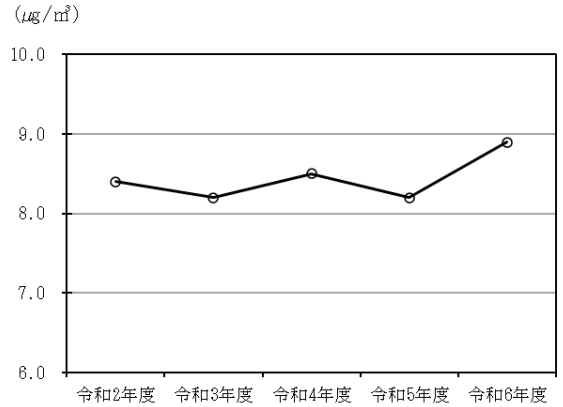
区分	所在自治体	局名	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	日平均値の最高値	日平均値が35μg/m³を超えた日数	日平均値の年間98%値	環境基準の適否	
										短期基準に関する評価	長期基準に関する評価
				日	時間	μg/m³	μg/m³	日	μg/m³	適(○)否(×)	
一般局	入善町	入善	住	363	8,719	8.9	34.7	0	20.9	○	○

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音・振動・悪臭）令和7年度版（令和6年度の実績）」（富山県、令和7年）

表 3.1-14　微小粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	所在自治体	局名	用地地域	年平均値（μg/m³）				
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	入善町	入善	住	8.4	8.2	8.5	8.2	8.9

注：用途地域は、表 3.1-4 の注：2 を参照。
資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音・振動・悪臭）令和7年度版（令和6年度の実績）」（富山県、令和7年）



資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音・振動・悪臭）令和7年度版（令和6年度の実績）」（富山県、令和7年）

図 3.1-8　微小粒子状物質の年平均値の経年変化

6)有害大気汚染物質

対象事業実施区域及びその周囲において、有害大気汚染物質の測定は行われていない。

7)ダイオキシン類

「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭） 令和6年度版（令和5年度の実績)」（富山県、令和6年）によると、対象事業実施区域及びその周囲において、令和5年度に朝日町月山でダイオキシン類の測定が行われている。測定結果は表 3.1-15に示すとおりであり、環境基準に適合している。

＜環境基準＞
ダイオキシン類の環境基準：1年平均値が0.6pg-TEQ/m³以下であること。

表 3.1-15 ダイオキシン類の測定結果（令和5年度）

測定地点	区分	採取日	ダイオキシン類 濃度(pg-TEQ/m³)
朝日町月山	廃棄物焼却施設周辺 （固定発生源周辺）	令和5年8月23日～8月30日	0.033
		令和6年2月2日～2月9日	0.0022
		年平均値	0.018

資料：「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和6年度版（令和5年度の実績)」（富山県、令和6年）

8)大気汚染に係る苦情の発生状況

対象事業実施区域及びその周囲における大気汚染に係る苦情は、「公害苦情の受理等の状況（令和6年度)」（富山県、令和7年）によると、令和6年度は朝日町で1件発生している。

(3)騒音の状況

1)一般環境騒音

「大気汚染の現況　身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績)」（富山県、令和 7 年）及び朝日町へのヒアリング（朝日町住民・子ども課、令和 8 年 7 月）によると、朝日町では令和 6 年度に 4 地点で環境騒音の調査が行われており、いずれの地点でも環境基準に適合している。

2)自動車交通騒音の状況

対象事業実施区域及びその周囲では、令和 4 年度及び令和 5 年度に図　3.1-9 に示す区間で自動車交通騒音の測定等が行われており、測定結果は表　3.1-16 に示すとおりである。番号 3、5、6、8、9、10 の評価区間は、夜間に環境基準を超過している住居があり、番号 7 の評価区間は、昼間・夜間ともに環境基準を超過している住居があった。その他の評価区間においてはいずれの住居についても環境基準に適合している。

表 3.1-16　自動車交通騒音の面的評価結果

番号	測定年度	路線名	車線数	評価区間の始点	評価区間の終点	評価区間の延長	評価対象住居等戸数	昼間・夜間とも基準値以下	昼間のみ基準値以下	夜間のみ基準値以下	昼間・夜間とも基準値超過
						(km)	(戸)	(戸)	(戸)	(戸)	(戸)
1	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町境	下新川郡 朝日町境	0.2	3	3	0	0	0
2	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町境	下新川郡 朝日町境	0.3	9	9	0	0	0
3	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町境	下新川郡 朝日町境	1.0	11	5	6	0	0
4	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町境	下新川郡 朝日町境	0.4	2	2	0	0	0
5	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町境	下新川郡 朝日町宮崎	1.4	19	15	4	0	0
6	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町宮崎	下新川郡 朝日町元屋敷	2.1	13	12	1	0	0
7	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町元屋敷	下新川郡 朝日町横尾	0.3	1	0	0	0	1
8	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町横尾	下新川郡 朝日町横尾	0.8	41	31	10	0	0
9	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町横尾	下新川郡 朝日町道下	1.2	36	33	3	0	0
10	令和 4 年	一般国道 8 号	2	下新川郡 朝日町道下	下新川郡 朝日町平柳	0.3	16	14	2	0	0
11	令和 5 年	主要地方道 入善朝日線	2	下新川郡 朝日町沼保	下新川郡 朝日町宮崎	4.0	234	234	0	0	0
12	令和 5 年	一般県道山崎泊線	2	下新川郡 朝日町山崎	下新川郡 朝日町沼保	8.5	440	440	0	0	0

資料：「環境 GIS+　自動車騒音の常時監視結果」（国立環境研究所 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）

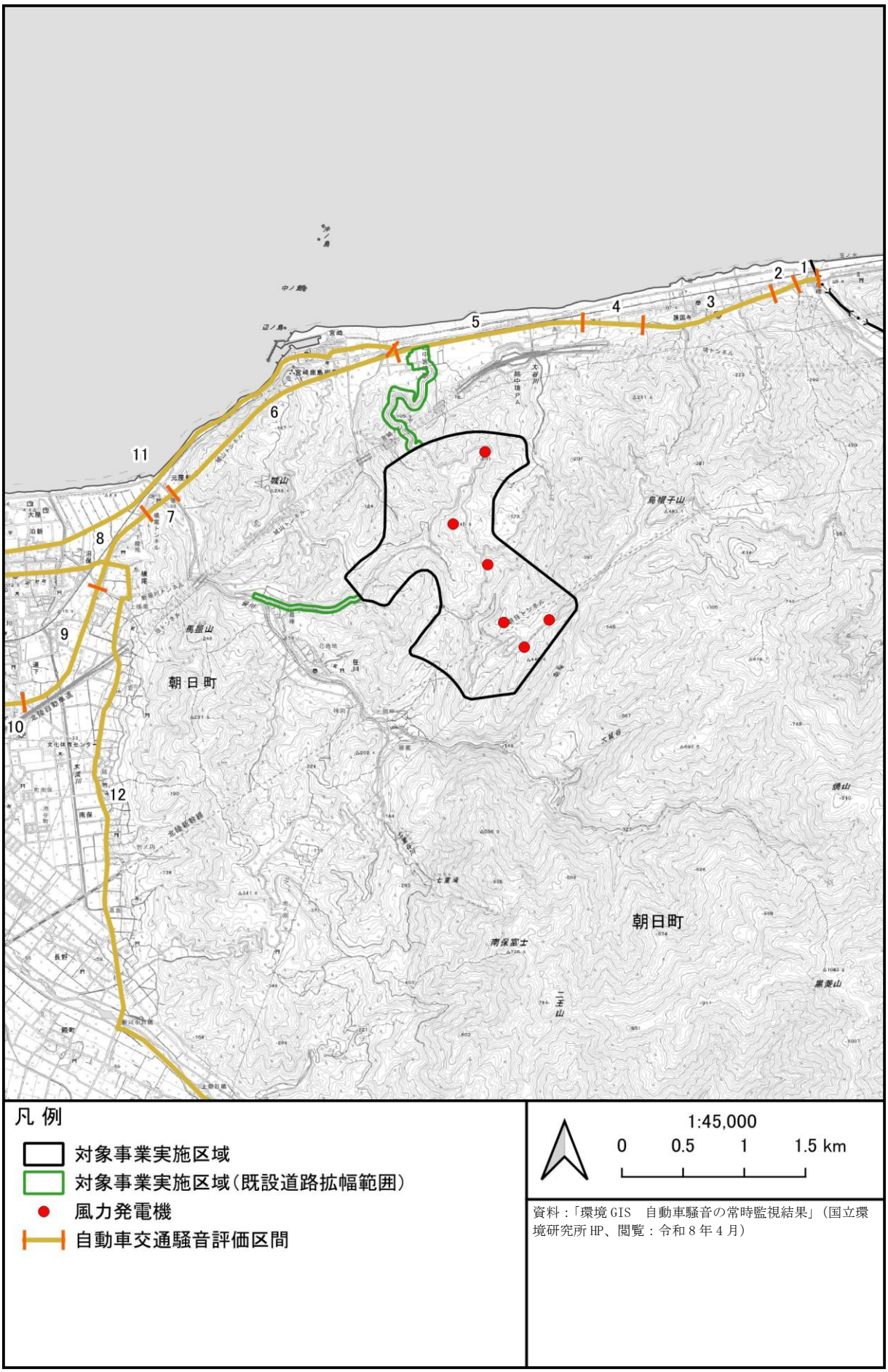


図 3.1-9　自動車交通騒音の評価区間

3)新幹線鉄道騒音の状況

「令和元年版環境白書（全体版）」（富山県、令和元年）及び「令和 3 年版環境白書（全体版）」（富山県、令和 3 年）によると、朝日町では平成 30 年度に朝日町下山新付近で、令和 2 年度に朝日町大家庄付近で、北陸新幹線鉄道に係る騒音調査が実施されている。朝日町下山新付近では環境基準に適合したが、朝日町大家庄付近は環境基準に適合していなかった。なお、いずれの地点も対象事業実施区域及びその周囲から離れた地点である。

4)騒音に係る苦情の発生状況

対象事業実施区域及びその周囲における騒音に係る苦情は、「公害苦情の受理等の状況（令和 6 年度）」（富山県、令和 7 年）によると、令和 6 年度には朝日町で発生していない。

(4) 振動の状況

1) 道路交通振動の状況

「大気汚染の現況　身近な公害の現況（騒音・振動・悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）によると、朝日町では令和 6 年度に 5 地点で道路交通振動の調査が行われており、いずれの地点においても道路交通振動に係る公安委員会への要請限度と比較して低い値である。

2) 振動に係る苦情の発生状況

対象事業実施区域及びその周囲における騒音に係る苦情は、「公害苦情の受理等の状況（令和 6 年度）」（富山県、令和 7 年）によると、令和 6 年度には朝日町で発生していない。

3.1.2　水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

(1)水象の状況

1)河川

対象事業実施区域及びその周囲の主要な河川の状況は、図 3.1-10 に示すとおりである。対象事業実施区域及びその周囲の南側には2級河川笹川水系河川が、東側には2級河川境川が、北側には普通河川大谷川等が、西側には2級河川木流川等が存在している。

2)湖沼

対象事業実施区域及びその周囲には湖沼は存在しない。

3)海域

対象事業実施区域及びその周囲の海域の状況は、図 3.1-10 に示すとおりである。対象事業実施区域の北側には日本海が広がっている。

4)湧水

対象事業実施区域及びその周囲には代表的な湧水は存在しない。

なお、朝日町の代表的な湧水である塩工場跡（朝日町浜草野）があるが、対象事業実施区域から西方向に約 3.3km 離れている。

資料：湧水保全ポータルサイト（環境省、https://www.env.go.jp/water/yusui/、閲覧：令和8年7月）

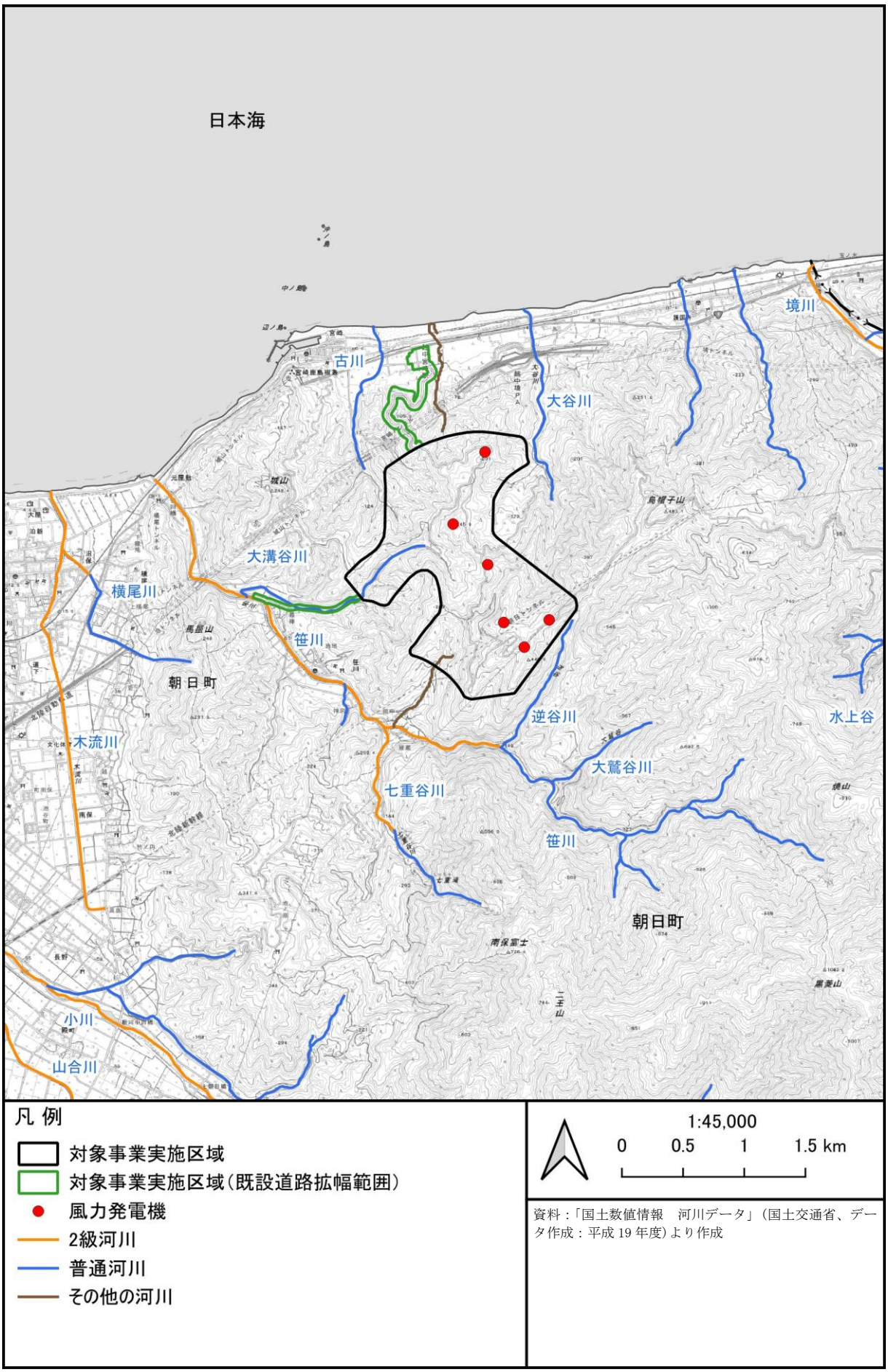


図 3.1-10(1)　主要な河川及び海域の状況

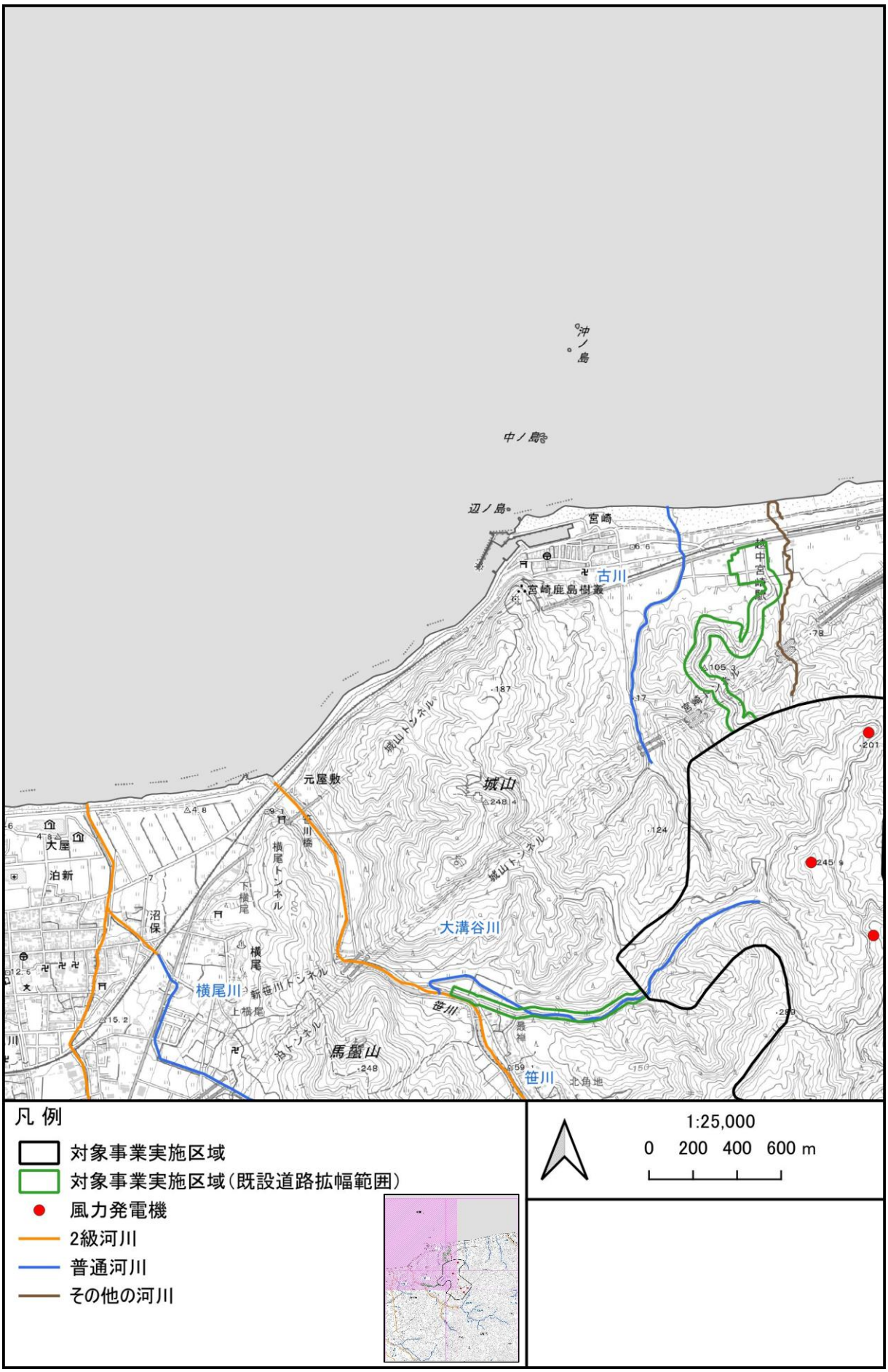


図 3.1-10(2)　主要な河川及び海域の状況（拡大図－左上）

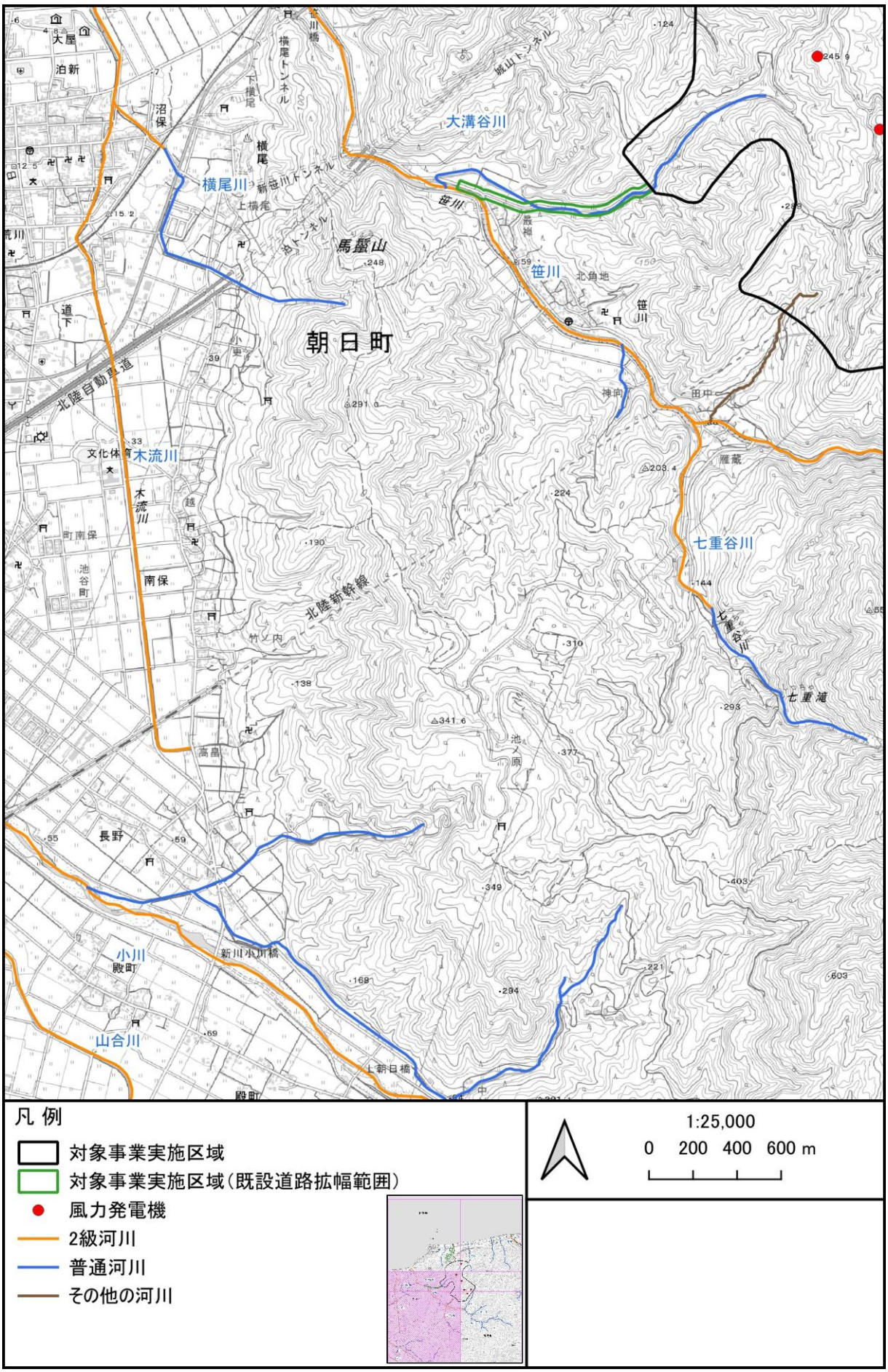


図 3.1-10(3)　主要な河川及び海域の状況（拡大図－左下）

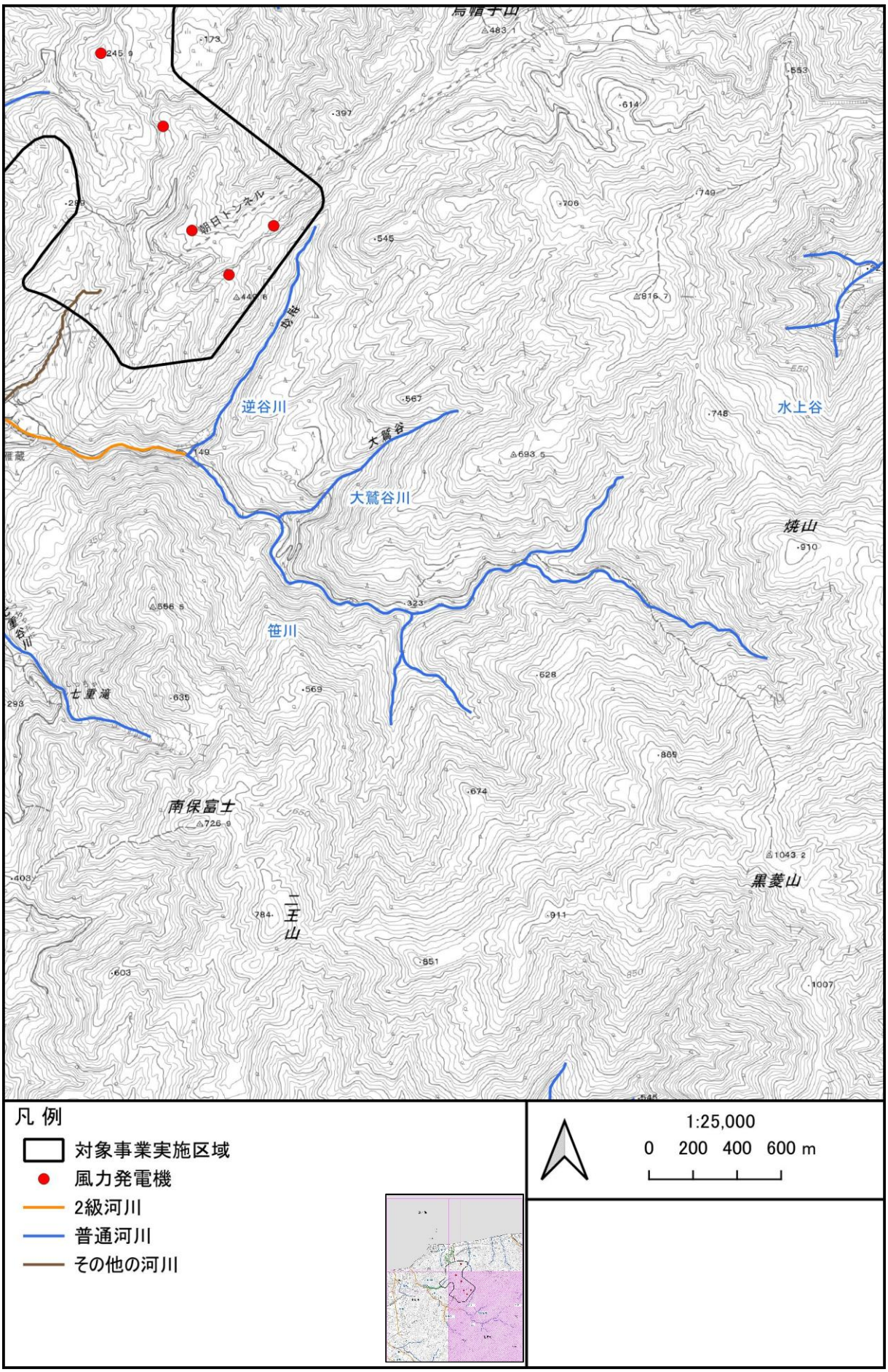


図 3.1-10(4)　主要な河川及び海域の状況（拡大図－右下）

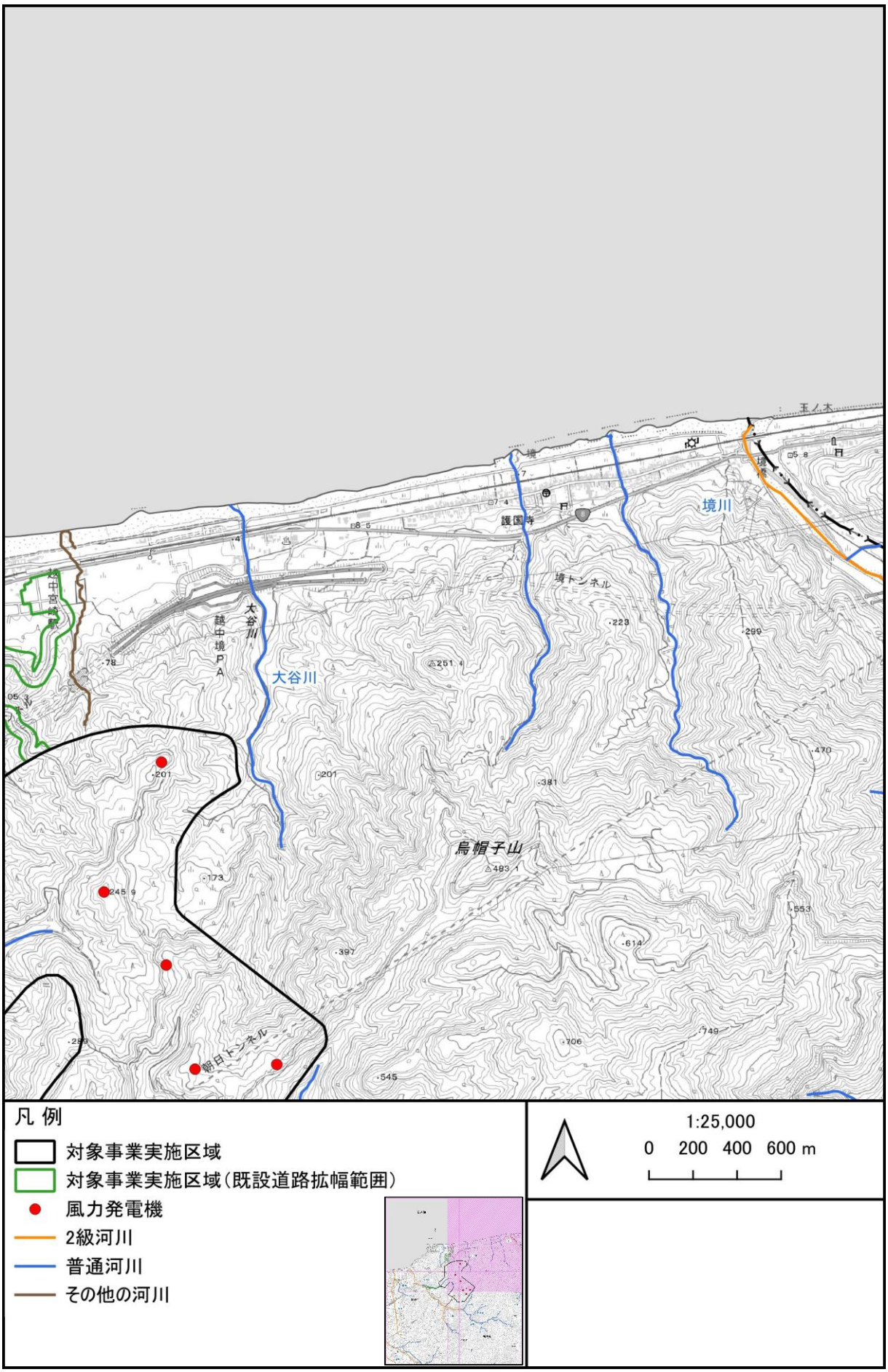


図 3.1-10(5)　主要な河川及び海域の状況（拡大図－右上）

(2)水質の状況

1)河川

対象事業実施区域及びその周囲では、3 地点で公共用水域の水質測定が行われており、測定地点は図 3.1-11 に示すとおりである。令和 6 年度の水質測定結果は表 3.1-17 に示すとおりである。いずれの水域も環境基準に適合している。

表 3.1-17　河川における水質測定結果（生活環境の保全に関する項目・令和 6 年度）

水域名		木流川					笹川					境川					環境基準
測定地点名		末端					笹川橋					境橋					
類型区分		A					AA					AA					
測定項目	単位	平均 (75%値) [90%値]	最小	最大	m	n	平均 (75%値) [90%値]	最小	最大	m	n	平均 (75%値) [90%値]	最小	最大	m	n	
pH	－	7.5	7.3	7.8	0	12	7.8	7.4	8.0	0	12	7.7	7.4	8.0	0	12	6.5 以上 8.5 以下
DO	mg/L	10	7.6	13	0	12	10	7.9	13	0	12	9.8	6.7	13	1	12	7.5 以上
BOD	mg/L	0.6 (0.6)	<0.5	1.1	0	12	0.6 (<0.5)	<0.5	1.3	1	12	0.5 (<0.5)	<0.5	0.5	0	12	AA:1 以下 A:2 以下
SS	mg/L	6	1	16	0	12	2	<1	9	0	12	2	<1	8	0	12	25 以下
大腸菌数	CFU/100mL	130 [260]	50	270	0	12	57 [100]	11	110	1	12	15 [30]	4	30	0	6	AA:100 以下 A:300 以下

注：1.「m」は環境基準に適合しない検体数、「n」は総検体数を示す（BOD については、「m」は環境基準に適合しない日数、「n」は総測定日数を示す）。

2.「類型区分 AA」の利用目的の適応性は、水道 1 級（ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの）、自然環境保全、水産 1 級（ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級（サケ科魚類及びアユ等）及び水産 3 級（コイ、フナ等）の水産生物用）、水浴等である。「類型区分 A」の利用目的の適応性は、水道 2 級（沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの）、水産 1 級（ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級（サケ科魚類及びアユ等）及び水産 3 級（コイ、フナ等）の水産生物用）、水浴等である。

資料：「水質汚濁の現況　令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）

2)海域

対象事業実施区域及びその周囲では、富山湾（その他富山湾海域）の1地点において公共用水域の水質測定が行われており、測定地点は図 3.1-11 に示すとおりである。令和6年度の水質測定結果は表 3.1-18 に示すとおりである。環境基準に適合している。

表 3.1-18　海域における水質測定結果（生活環境の保全に関する項目・令和6年度）

水域名		富山湾(その他富山湾海域)					環境基準
測定地点名		その他 10					
類型区分		A					
測定項目	単位	平均 (75%値) [90%値]	最小	最大	m	n	
pH	－	8.2	8.1	8.3	0	12	7.8 以上 8.3 以下
DO	mg/L	8.3	6.4	10.0	2	12	7.5 以上
COD	mg/L	1.5 (1.6)	1.0	1.9	0	12	2 以下
大腸菌数	CFU/100mL	1 [1]	<1	1	0	4	20 以下
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	0	6	検出されないこと

注：1.「m」は環境基準に適合しない検体数、「n」は総検体数を示す（COD については、「m」は環境基準に適合しない日数、「n」は総測定日数を示す）。

2.「類型区分 A」の利用目的の適応性は、水産1級（マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級（ボラ、ノリ等）の水産生物用）、水浴、自然環境保全（自然探勝等の環境保全）等である。

資料：「水質汚濁の現況　令和7年度版（令和6年度の実績）」（富山県、令和7年）

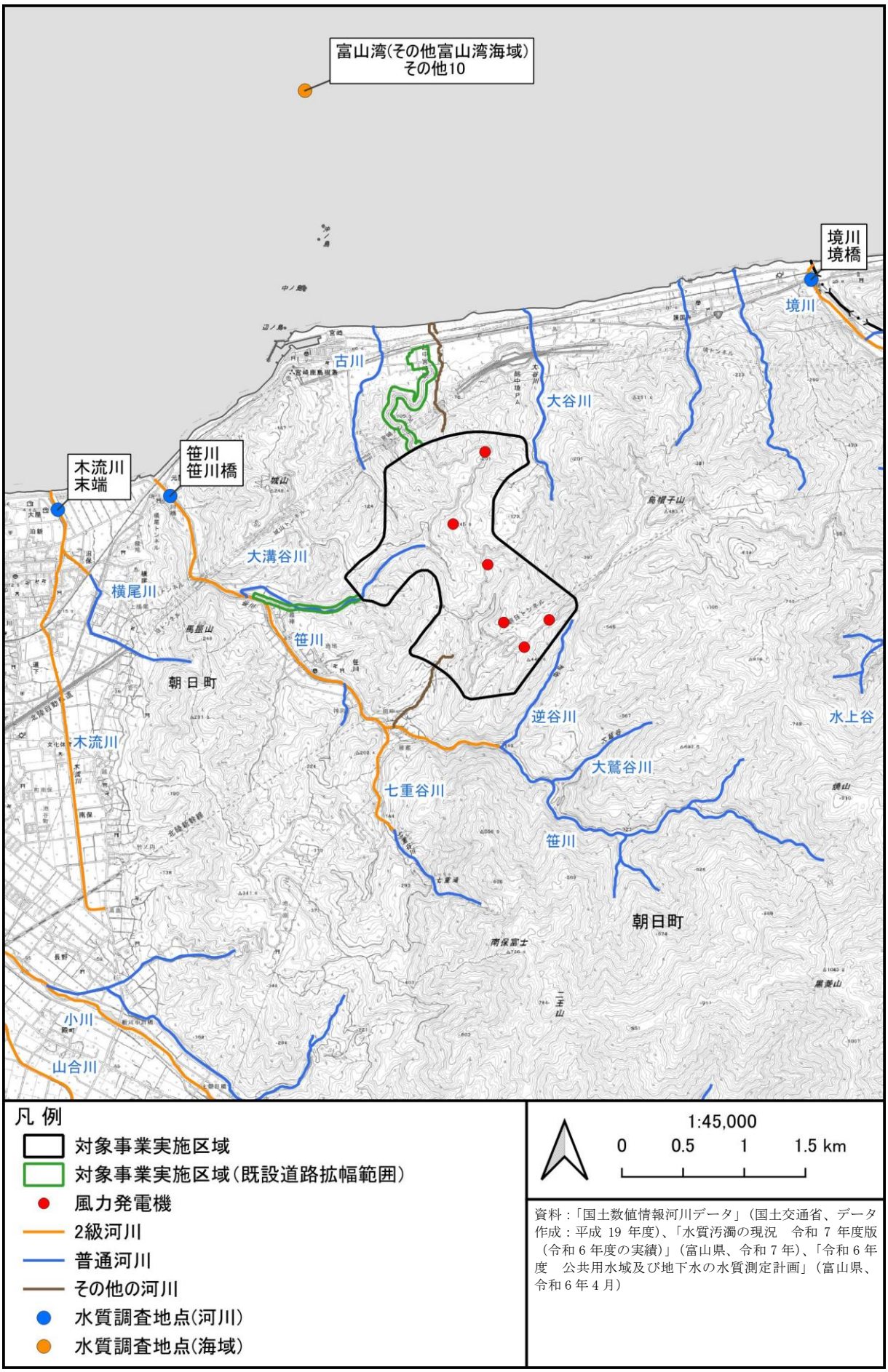


図 3.1-11　公共用水域の水質測定地点

3)地下水

対象事業実施区域及びその周囲では、令和6年度において、朝日町不動堂及び朝日町本町で地下水の水質概況調査が行われている。調査項目及び測定結果は表 3.1-19 に示すとおりである。いずれの地点も環境基準に適合している。

表 3.1-19　地下水の調査項目及び測定結果（令和 6 年度）

測定項目	環境基準 (mg/L)	環境基準との適合 (○：適合　×：非適合)		定量下限値 (mg/L)
		朝日町不動堂	朝日町本町	
カドミウム	0.003	○	○	0.0003
全シアン	検出されないこと	○	○	0.1
鉛	0.01	○	○	0.005
六価クロム	0.02	○	○	0.01
砒素	0.01	○	○	0.005
総水銀	0.0005	○	○	0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	－	－	0.0005
ジクロロメタン	0.02	○	○	0.002
四塩化炭素	0.002	○	○	0.0002
クロロエチレン	0.002	○	○	0.0002
1,2-ジクロロエタン	0.004	○	○	0.0004
1,1-ジクロロエチレン	0.1	○	○	0.01
1,2-ジクロロエチレン	0.04	○	○	0.004
1,1,1-トリクロロエタン	1	○	○	0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	○	○	0.0006
トリクロロエチレン	0.01	○	○	0.001
テトラクロロエチレン	0.01	○	○	0.0005
1,3-ジクロロプロペン	0.002	○	○	0.0002
チウラム	0.006	○	○	0.0006
シマジン	0.003	○	○	0.0003
チオベンカルブ	0.02	○	○	0.002
ベンゼン	0.01	○	○	0.001
セレン	0.01	○	○	0.002
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10	○	○	0.1
ふっ素	0.8	○	○	0.08
ほう素	1	○	○	0.1
1,4-ジオキサン	0.05	○	○	0.005

注：アルキル水銀は、総水銀が検出された場合のみ測定するため、令和 6 年度は測定を実施していない。

資料：「令和 6 年度　公共用水域及び地下水の水質測定計画」（富山県、令和 6 年 4 月）

「水質汚濁の現況　令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）

4)ダイオキシン類

「水質汚濁の現況　令和 5 年度版（令和 4 年度の実績)」（富山県、令和 5 年)、「水質汚濁の現況　令和 6 年度版（令和 5 年度の実績)」（富山県、令和 7 年）及び「水質汚濁の現況　令和 7 年度版（令和 6 年度の実績)」（富山県、令和 7 年）によると、富山県では「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成 11 年法律第 105 号、最終改正：令和 4 年法律第 68 号)に基づき、河川、海域及び地下水の水質についてダイオキシン類の測定が実施されている。対象事業実施区域及びその周囲における測定地点及び測定結果は図 3.1-12 及び表 3.1-20 に示すとおりである。いずれの地点も環境基準に適合している。なお、地下水については対象事業実施区域及びその周囲において、測定が実施されていない。

表 3.1-20　水質におけるダイオキシン類測定結果（河川、海域）

区分	測定年度	水域名	測定地点名	調査回数	調査結果 (pg-TEQ/L)	環境基準 (pg-TEQ/L)
河川	令和 4 年度	境川	境橋	年 1 回	0.048	1
	令和 5 年度	木流川	末端		0.029	
	令和 6 年度	笹川	笹川橋		0.027	
海域	令和 5 年度	富山湾（その他富山湾海域）	その他 10		0.025	

資料：「水質汚濁の現況　令和 5 年度版（令和 4 年度の実績)」（富山県、令和 5 年）
「水質汚濁の現況　令和 6 年度版（令和 5 年度の実績)」（富山県、令和 6 年）
「水質汚濁の現況　令和 7 年度版（令和 6 年度の実績)」（富山県、令和 7 年）

5)水質汚濁に係る苦情の発生状況

対象事業実施区域及びその周囲における水質汚濁に係る苦情は、「公害苦情の受理等の状況（令和 6 年度)」（富山県、令和 7 年）によると、令和 6 年度は朝日町で 2 件発生している。

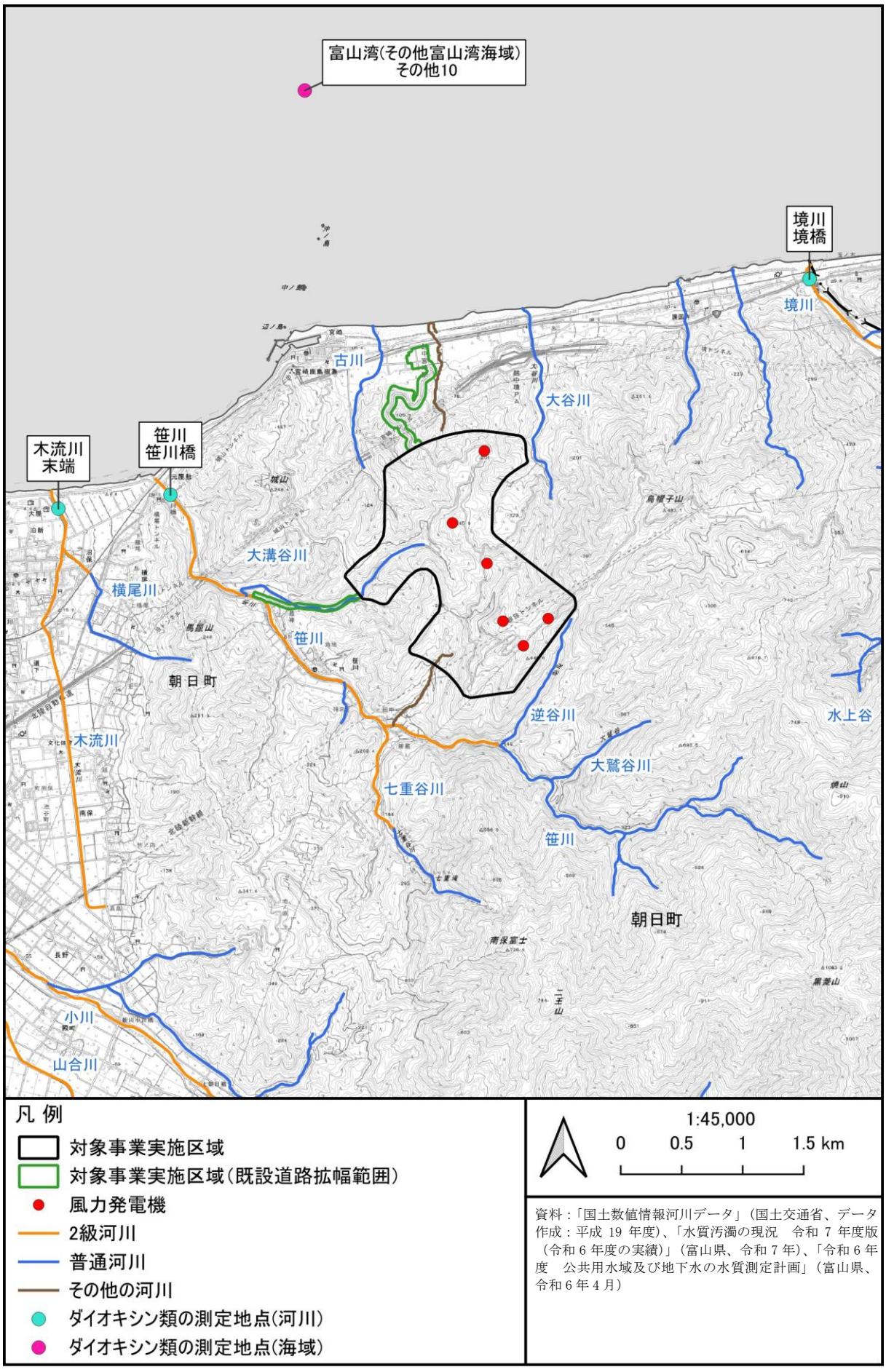


図 3.1-12　ダイオキシン類の測定地点

(3)水底の底質の状況

「水質汚濁の現況　令和 2 年度版（令和元年度の実績)」（富山県、令和 2 年)、「水質汚濁の現況　令和 4 年度版（令和 3 年度の実績)」（富山県、令和 4 年）及び「水質汚濁の現況　令和 6 年度版（令和5年度の実績)」（富山県、令和6年）によると、富山県では「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成 11 年法律第 105 号、最終改正：令和 4 年法律第 68 号）に基づき、河川及び海域の底質についてダイオキシン類の測定が実施されている。対象事業実施区域及びその周囲における測定地点及び測定結果は図 3.1-12 及び表 3.1-21 に示すとおりである。いずれの地点も環境基準に適合している。

表 3.1-21　底質におけるダイオキシン類測定結果（河川、海域）

区分	測定年度	水域名	測定地点名	調査回数	調査結果 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
河川	令和元年	境川	境橋	年 1 回	0.12	150
	令和 3 年度	笹川	笹川橋		0.099	
	令和 5 年度	木流川	末端		0.72	
海域	令和 5 年度	富山湾 （その他富山湾海域）	その他 10		2.9	

資料：「水質汚濁の現況　令和 2 年度版（令和元年度の実績)」（富山県、令和 2 年）
「水質汚濁の現況　令和 4 年度版（令和 3 年度の実績)」（富山県、令和 4 年）
「水質汚濁の現況　令和 6 年度版（令和 5 年度の実績)」（富山県、令和 6 年）

3.1.3　土壌及び地盤の状況

(1)土壌の状況

1)土壌

対象事業実施区域及びその周囲の土壌の状況は、図 3.1-13 に示すとおりである。対象事業実施区域は、主に乾性褐色森林土壌及び褐色森林土壌に分類される土壌が多く分布している。

2)土壌汚染

対象事業実施区域及びその周囲に、「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号、最終改正：令和 4 年法律第 68 号）に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はない。

3)ダイオキシン類

「令和 3 年版環境白書（全体版）」（富山県、令和 3 年）、「令和 2 年度ダイオキシン類に係る環境調査結果」（環境省、令和 4 年）及び「令和 5 年度ダイオキシン類に係る環境調査結果」（環境省、令和 7 年）によると、入善町では令和 2 年度に入善町入膳で、朝日町では令和 5 年度に朝日町草野で、土壌に係るダイオキシン類の測定が実施されており、環境基準に適合している。なお、いずれの地点も対象事業実施区域及びその周囲から離れた地点である。

4)土壌汚染に係る苦情の発生状況

土壌汚染に係る苦情は、「公害苦情の受理等の状況（令和 6 年度）」（富山県、令和 7 年）によると、令和 6 年度は朝日町では発生していない。

(2)地盤の状況

1)地盤沈下

「令和 6 年度全国の地盤沈下地域の概況」（環境省、令和 8 年）によると、対象事業実施区域及びその周囲において地盤沈下の測定のための水準測量は実施されていない。

2)地盤沈下に係る苦情の発生状況

地盤沈下に係る苦情は、「公害苦情の受理等の状況（令和 6 年度）」（富山県、令和 7 年）によると、令和 6 年度は朝日町では発生していない。

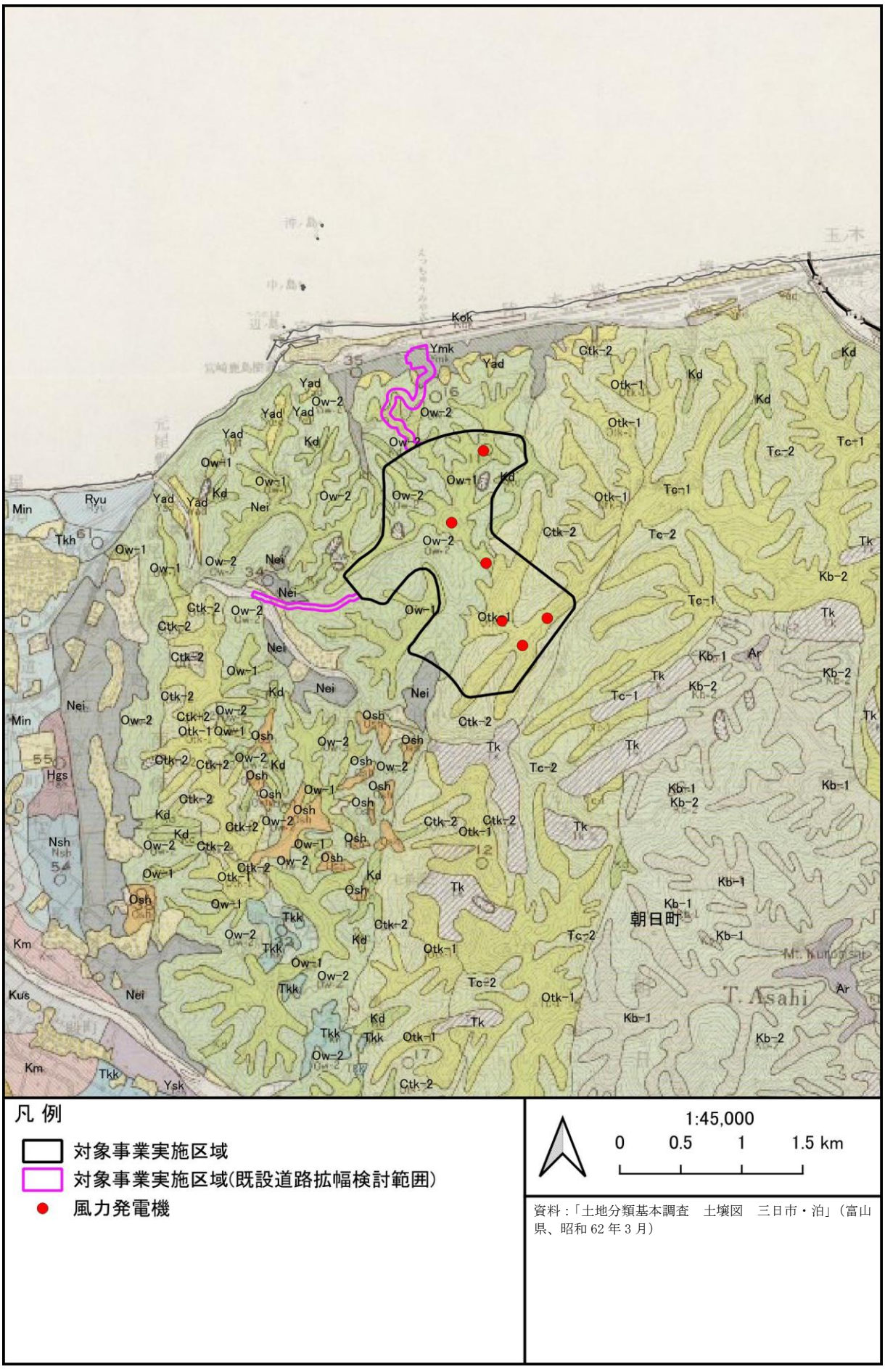
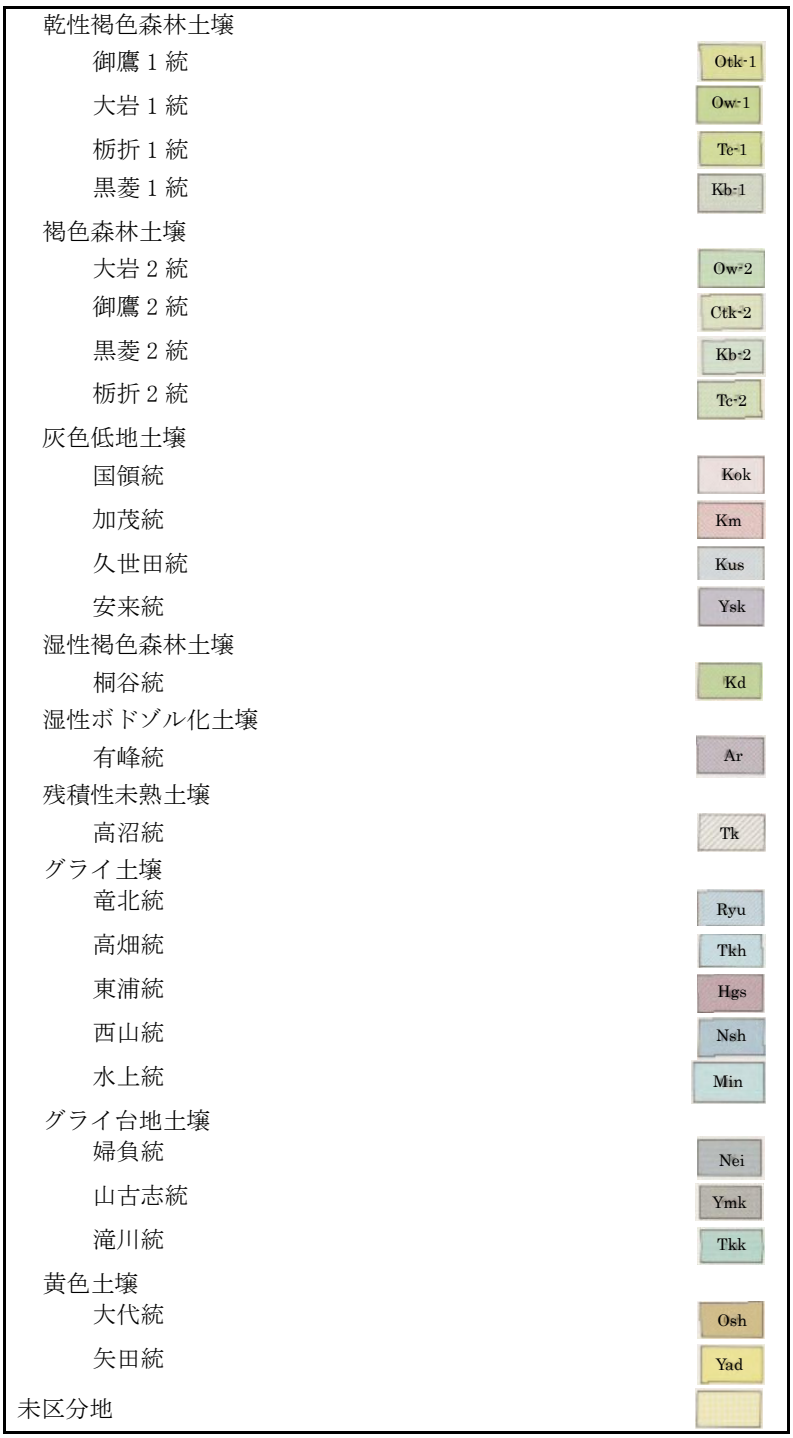

凡 例
対象事業実施区域
対象事業実施区域(既設道路拡幅検討範囲)
風力発電機
1:45,000
0 0.5 1 1.5 km
朝日町
T. Asahi
資料：「土地分類基本調査　土壌図　三日市・泊」（富山県、昭和 62 年 3 月）

図 3.1-13(1)　土壌図



資料：「土地分類基本調査　土壌図　三日市・泊」（富山県、昭和 62 年 3 月）

図 3.1-13(2)　土壌図凡例

3.1.4　地形及び地質の状況

(1)地形の状況

対象事業実施区域及びその周囲の地形の状況は図 3.1-14 に示すとおりであり、対象事業実施区域は主に中起伏山地、山頂・山腹緩斜面から成り立っている。

対象事業実施区域及びその周囲における日本の典型地形は、表 3.1-22 及び図 3.1-16 に示すとおりであり、「宮崎海岸」が選定されている。

表 3.1-22　対象事業実施区域及びその周囲の典型地形

地形の中項目(成因別)	地形項目	名称	所在地
海の作用による地形	砂州	宮崎海岸	朝日町

資料：「日本の典型地形について」(国土地理院 HP、閲覧：令和 8 年 4 月)

(2)地質の状況

対象事業実施区域及びその周囲の地質の状況は、図 3.1-15 に示すとおりである。対象事業実施区域の表層地質は、主に固結堆積物及び火山岩から成り立っている。

(3)重要な地形及び地質

1)重要な地形

対象事業実施区域及びその周囲における重要な地形の状況は、表 3.1-23 及び図 3.1-17 に示すとおりである。対象事業実施区域及びその周囲には、「下新川海岸」等 4 つの重要な地形が存在し、そのうちの「黒菱山断層」は対象事業実施区域に、「親不知断層」は対象事業実施区域(既設道路拡幅検討範囲)に一部が存在している。

なお、「富山県自然環境指針」(富山県、平成 5 年) 及びその付属資料の「評価対象自然リスト」(富山県、平成 5 年) からは、重要性の評価が最上位の V(全国レベルの価値を有するもの)、次点の IV(地方レベル～県レベルの価値を有するもの)とされている地形を選定した。また、「日本の地形レッドデータブック第 1 集-危機にある地形-」(日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 12 年 12 月) において選定された地形は存在しない。また、朝日町全域は日本ジオパーク委員会によって「立山黒部ジオパーク」(日本ジオパーク) に認定されており、「宮崎海岸」は「ヒスイ海岸 (宮崎・境海岸)」としてジオサイトに指定されている。

表 3.1-23　対象事業実施区域及びその周囲の重要な地形

名称	評価	概要
下新川海岸	IV	52ha の海岸侵食地形
親不知断層	IV	17.2 ㎞の断層地形
黒菱山断層	IV	4.0 ㎞の断層地形
宮崎海岸	-	「日本の地形レッドデータブック第 2 集」(日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 14 年) において「保存すべき地形」に区分されている海岸

注：評価のランクは「富山県自然環境指針」(富山県、平成 5 年)、「評価対象自然リスト」(富山県、平成 5 年) に基づく。各ランクの詳細は以下のとおりである。なお、宮崎海岸は「日本の地形レッドデータブック第 2 集」(日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 14 年) に掲載されている地形のため、ランクの指定はない。

IV：地方レベル～県レベルの価値を有するもの

V ：全国レベルの価値を有するもの

資料：「富山県自然環境指針」(富山県、平成 5 年)

「評価対象自然リスト」(富山県、平成 5 年)

「富山県の地形・地質」(富山県、昭和 61 年)

「日本の地形レッドデータブック第 2 集」(日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 14 年)

2)重要な地質

対象事業実施区域及びその周囲における重要な地質の状況は、表 3.1-24 及び図 3.1-18 に示すとおりである。対象事業実施区域及びその周囲には、「笹川上流」、「境」及び「新川海岸」の 3 つの重要な地質が存在し、そのうちの「笹川上流」は対象事業実施区域(既設道路拡幅検討範囲)に一部が存在している。

なお、「富山県自然環境指針」(富山県、平成 5 年) 及びその付属資料の「評価対象自然リスト」(富山県、平成 5 年) からは、重要性の評価が最上位の V(全国レベルの価値を有するもの)、次点の IV(地方レベル～県レベルの価値を有するもの)とされている地質を選定した。また、対象事業実施区域及びその周囲では、「文化財保護法」で重要な地質として指定された文化財はない。

表 3.1-24　対象事業実施区域及びその周囲の重要な地質

名称	評価	概要
笹川上流	IV	太美山層群(流紋岩質の亀甲石)
境	IV	親不知断層
新川海岸	V	海岸侵食

注：評価のランクの詳細は以下のとおりである。
IV：地方レベル～県レベルの価値を有するもの
V ：全国レベルの価値を有するもの
資料：「富山県自然環境指針」(富山県、平成 5 年)
「評価対象自然リスト」(富山県、平成 5 年)
「富山県の地形・地質」(富山県、昭和 61 年)

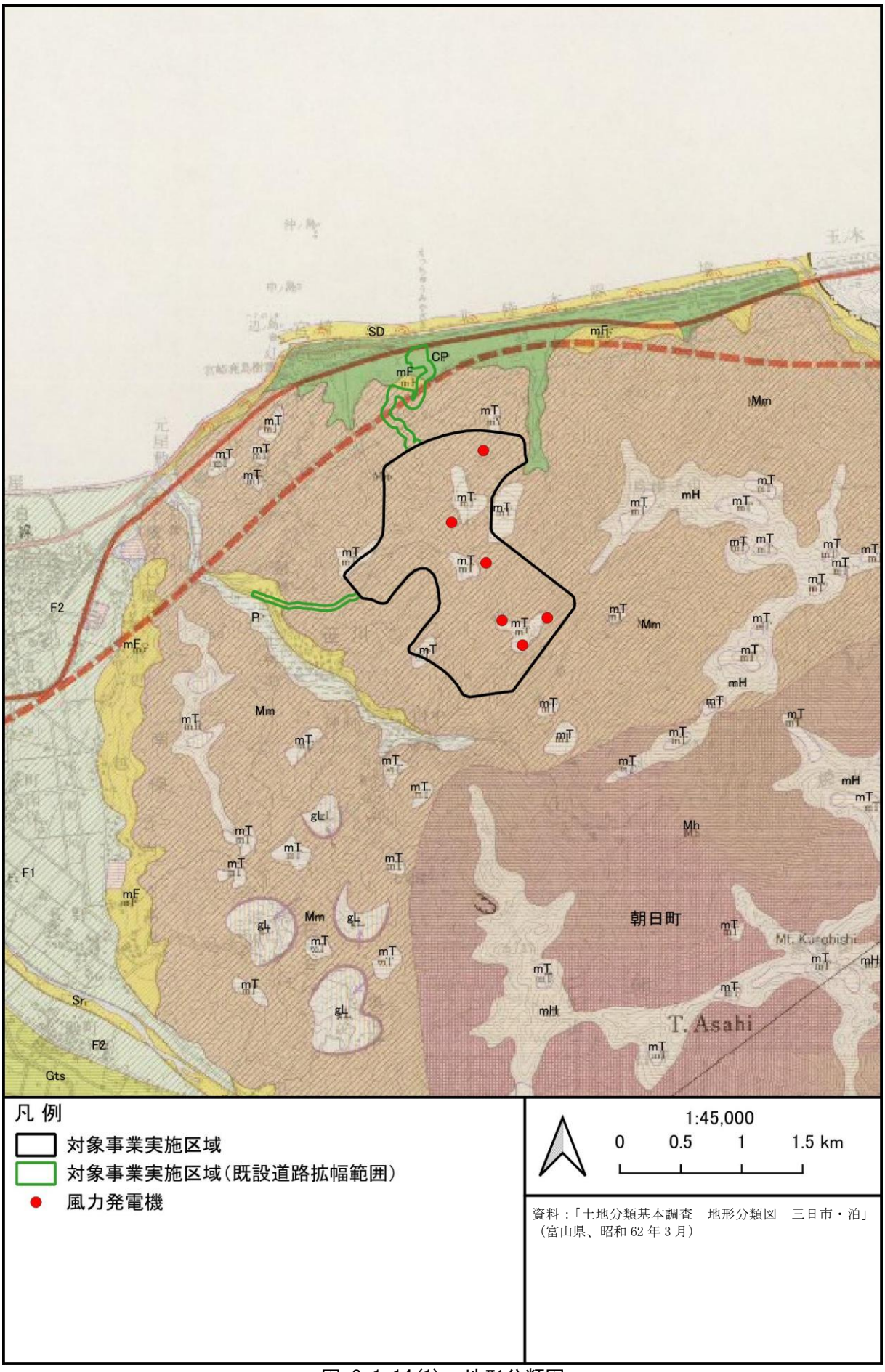


図 3.1-14(1)　地形分類図



資料：「土地分類基本調査　地形分類図　三日市・泊」（富山県、昭和 62 年 3 月）

図 3.1-14(2)　地形分類図凡例

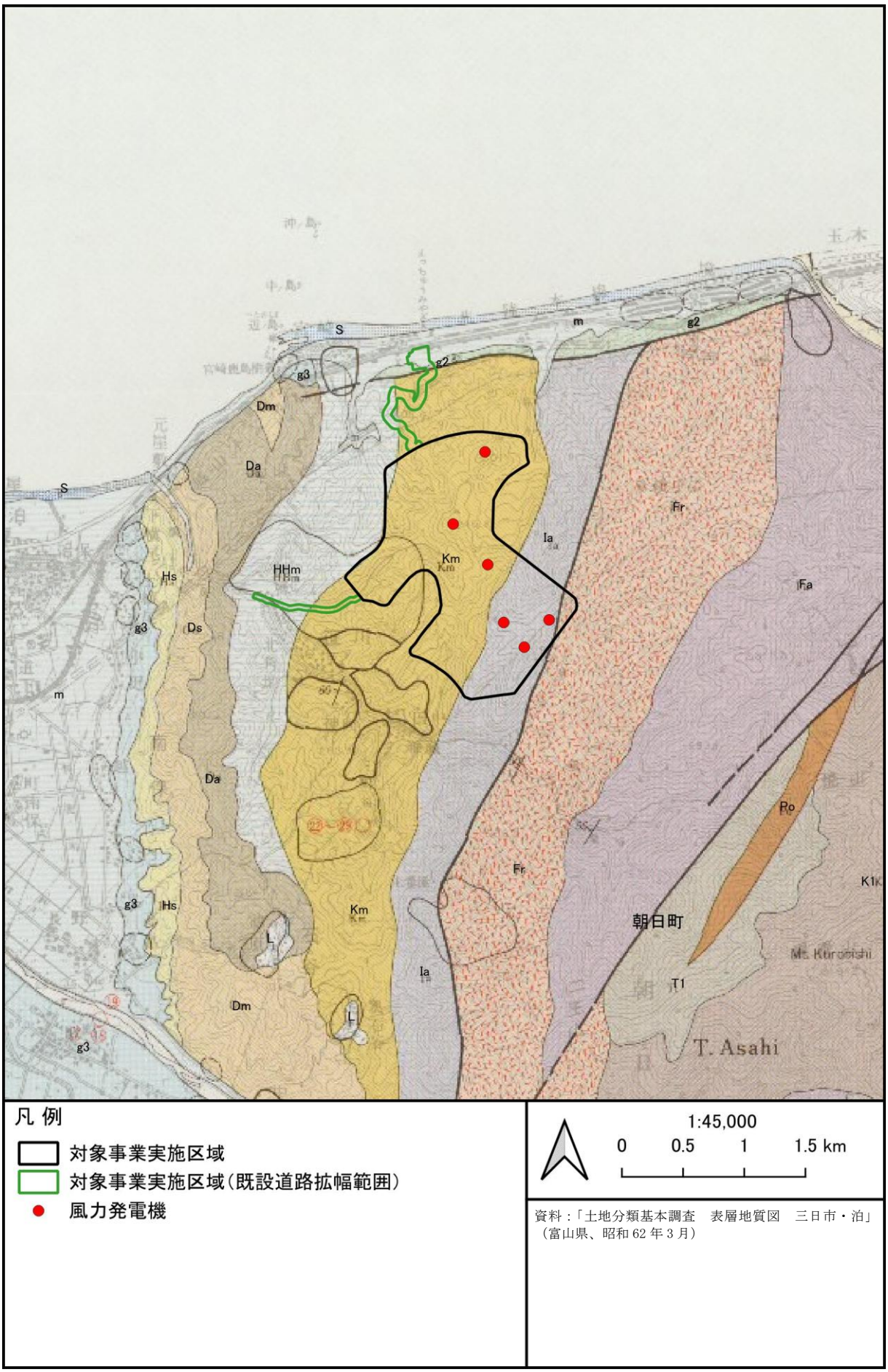
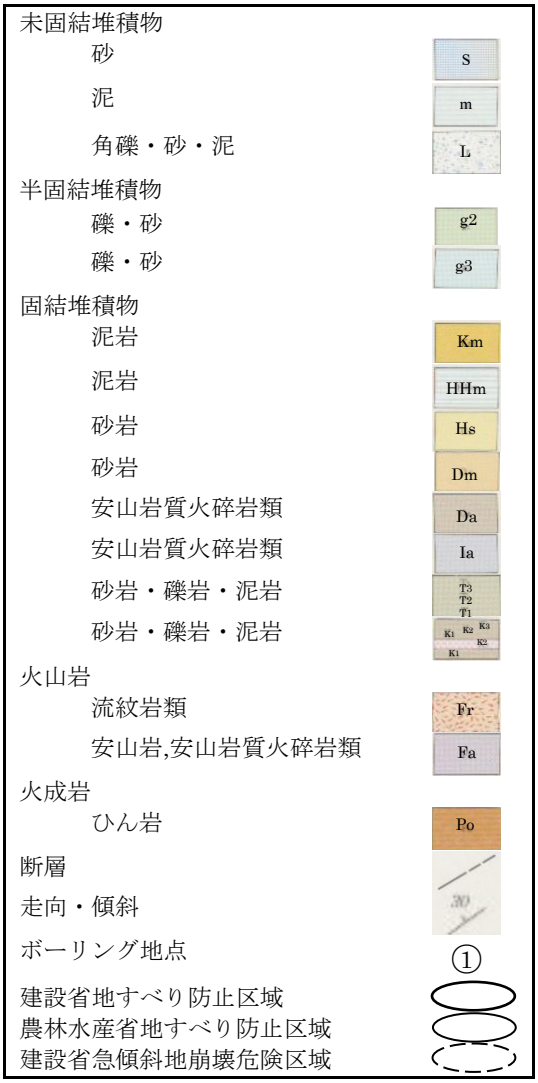


図 3.1-15(1)　表層地質図



資料：「土地分類基本調査　表層地質図　三日市・泊」（富山県、昭和 62 年 3 月）

図 3.1-15(2)　表層地質図凡例

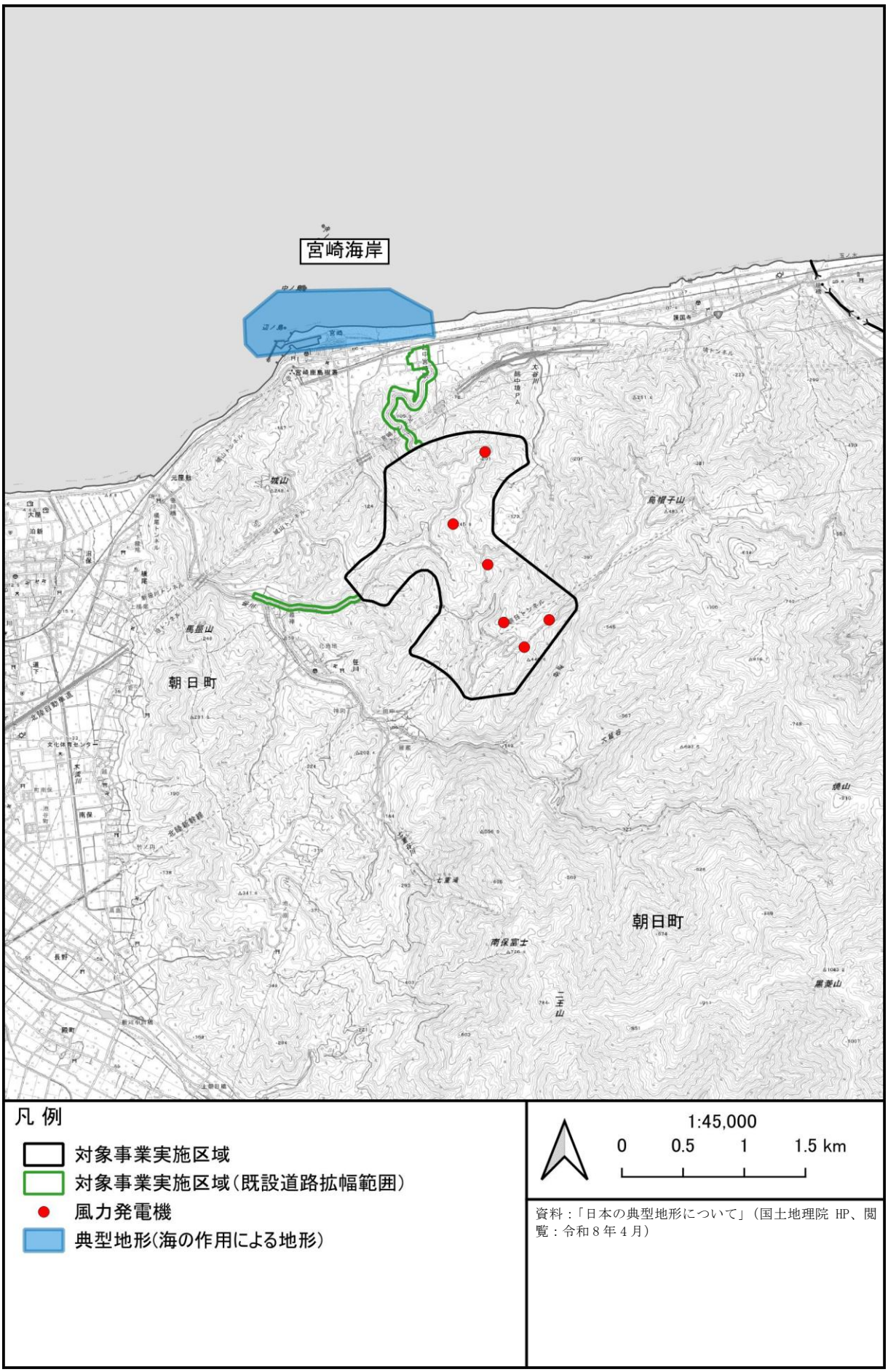


図 3.1-16　日本の典型地形

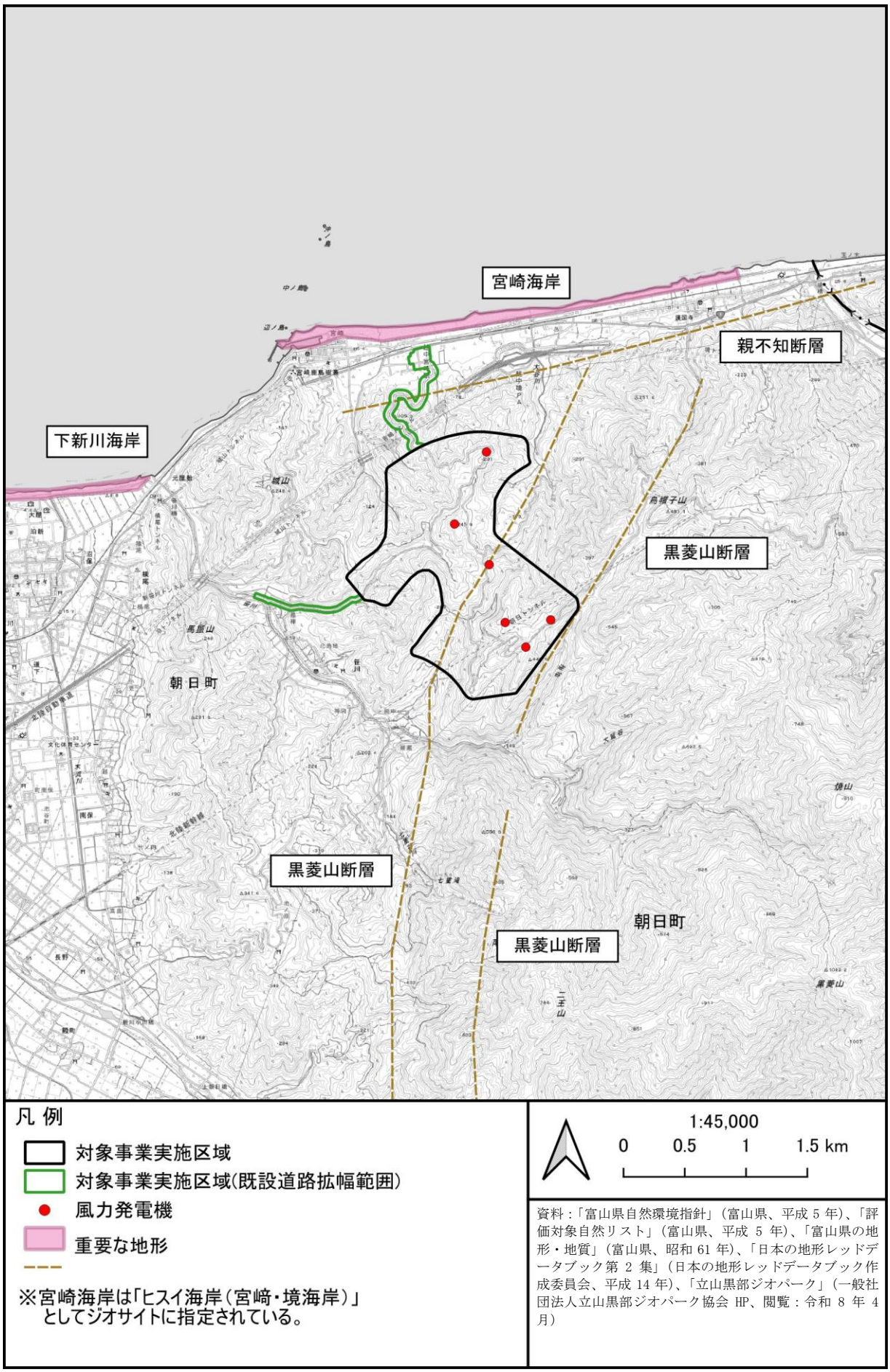


図 3.1-17　重要な地形の状況

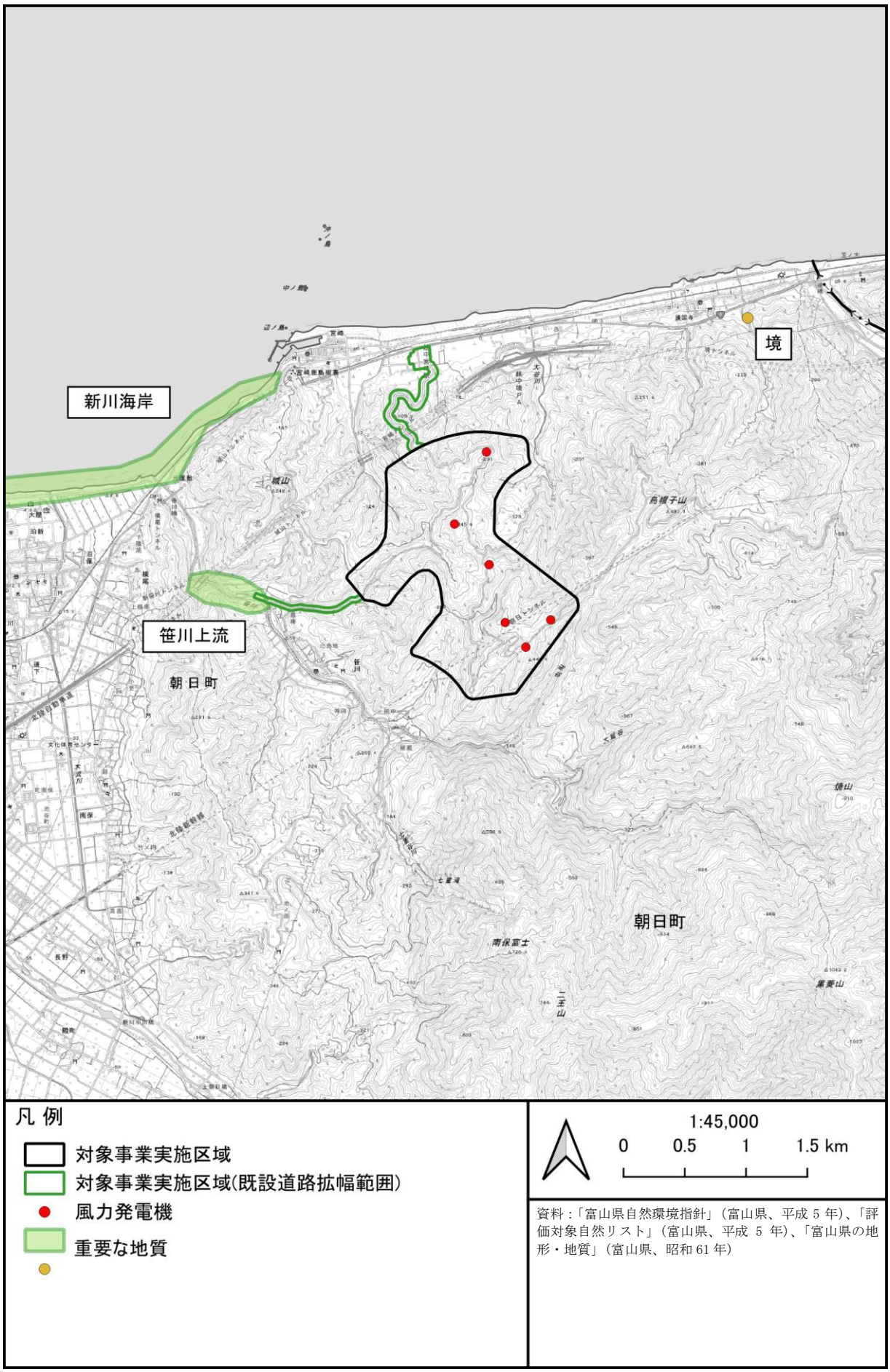


図 3.1-18　重要な地質の状況

3.1.5　動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物の生息状況

対象事業実施区域及びその周囲の朝日町及び入善町における動物の生息状況が記録されている文献を、表 3.1-25 に示す。

表 3.1-25(1)　収集した文献（動物相）

No.	文献その他の資料名	哺乳類	鳥類	爬虫類・両生類	昆虫類	陸産貝類	魚類	底生動物
1	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 哺乳類」(環境庁、平成 5 年)	○						
2	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 哺乳類」(環境省、平成 14 年)	○						
3	「第 6 回自然環境保全基礎調査 哺乳類分布調査報告書」(環境省、平成 16 年)	○						
4	「第 3 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 鳥類」(環境庁、昭和 63 年)		○					
5	「第 6 回自然環境保全基礎調査 鳥類繁殖分布調査報告書」(環境省、平成 16 年)		○					
6	「希少猛禽類調査の結果（イヌワシ・クマタカ）」(環境省、平成 16 年)		○					
7	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 両生類･爬虫類」(環境省、平成 13 年)			○				
8	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 昆虫(トンボ)類」(環境省、平成 14 年)				○			
9	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 昆虫(チョウ)類」(環境省、平成 14 年)				○			
10	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 昆虫(セミ･水生半翅)類」(環境省、平成 14 年)				○			
11	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 昆虫(ガ)類」(環境省、平成 14 年)				○			
12	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 昆虫(甲虫)類」(環境省、平成 14 年)				○			
13	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 淡水魚類」(環境庁、平成 5 年)						○	
14	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 淡水魚類」(環境省、平成 14 年)						○	
15	「平成 29 年度河川水辺の国勢調査結果の概要[河川版](生物調査編)」(国土交通省、平成 31 年)						○	○
16	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 陸産及び淡水産貝類」(環境庁、平成 5 年)							○
17	「第 5 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 陸産及び淡水産貝類」(環境省、平成 14 年)							○
18	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま 2012」(富山県、平成 24 年)	○	○	○	○	○	○	○
19	「朝日町誌 自然編」(朝日町、昭和 59 年)	○	○	○	○		○	

表 3.1-25(2)　収集した文献（動物相）

No.	文献その他の資料名	哺乳類	鳥類	爬虫類・両生類	昆虫類	陸産貝類	魚類	底生動物
20	「入善町史　資料編　1　自然･考古」 (入善町、昭和 61 年)				○		○	○
21	「笹川流域総合調査」 (富山の生物 No.58、令和 3 年)	○	○	○			○	○
22	「富山県下新川郡朝日町湯ノ瀬トンネルを利用するコウモリ類の個体数変化(予察)」 (富山市科学博物館研究報告 第 45 号、令和 3 年)	○						
23	「北アルプスカモシカ保護地域特別調査報告書:平成 24, 25 年」 (新潟県教育委員会、平成 26 年)	○						
24	「富山県ツキノワグマ出没情報地図」 (富山県 HP、閲覧:令和 7 年 12 月)	○						
25	「富山県における哺乳類の記録(2020 年)」 (富山の生物 No.60、令和 3 年)	○						
26	「生態系多様性地域調査(大蓮華山地域)報告書」 (環境省自然環境局生物多様性センター、平成 15 年)	○						
27	「富山県の昆虫」 (富山県昆虫研究会編、昭和 54 年)				○			
28	「富山県の昆虫類」 (富山県昆虫研究会編、昭和 63 年)				○			
29	「富山県のカミキリムシ類(富山県の昆虫シリーズ 第 1 号)」 (富山県昆虫同好会、平成 28 年)				○			
30	「富山県産無翅昆虫類および直翅系昆虫類(富山県の昆虫シリーズ 第 2 号)」(富山県昆虫同好会、平成 29 年)				○			
31	「富山市科学文化センター研究報告 No.15,17,20,25,28,30」 (富山市科学文化センター、平成 4 年～平成 19 年)				○			
32	「富山市科学博物館研究報告第 31～45 号」 (富山市科学博物館、平成 20 年～令和 3 年)				○			
33	「魅力のささ郷」 (折谷禎一、平成 30 年)				○			
34	「富山市科学文化センター収蔵資料目録 第 11 号、12 号 富山県の蝶」(富山市科学文化センター、平成 10 年～平成 11 年)				○			
35	「富山市科学博物館収蔵資料目録 第 17 号 富山県のトンボ」 (富山市科学博物館、平成 16 年)				○			
36	「富山市科学博物館収蔵資料目録 第 27 号 富山県のハナバチ類」 (富山市科学博物館、平成 26 年)				○			
37	「専門家提供データ」 (令和 4 年 1 月受領)				○			
38	菊池勘左エ門貝コレクション (富山市科学文化センター収蔵資料目録 第 10 号、平成 9 年)					○		
39	宮本望氏貝コレクションⅡ日本産陸貝・日本近海産二枚貝など (富山市科学博物館収蔵資料目録 第 22 号、平成 20 年)					○		
40	高柳コレクションを中心とした 富山と能登の貝 (富山市科学文化センター収蔵資料目録 第 2 号、昭和 63 年)					○		
41	富山県宮崎鹿島社叢の陸産貝類 (富山高等学校博物同好会誌第 3 号、昭和 12 年)					○		
42	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　―レッドデータブックとやま 2025―」(富山県、令和7年)	○	○	○	○	○	○	○

表 3.1-25(3)　収集した文献（注目すべき生息地）

No.	文献名
1	「希少猛禽類調査の結果（イヌワシ・クマタカ）」 （環境省、平成 16 年）
2	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックとやま 2012」 （富山県、平成 24 年）
3	「国指定文化財等データベース」 （文化庁 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
4	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら」 （環境庁、平成 6 年）
5	「第 48～50 回ガンカモ類の生息調査報告書」 （環境省、平成 28～30 年）
6	「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」 （環境省、平成 27 年）
7	「環境アセスメントデータベース　風力発電における鳥類のセンシティビティマップ（陸域版）」 （環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
8	「入善町文化財一覧表」 （入善町、令和 2 年）
9	「『朝日町の指定文化財』一覧」 （朝日町 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
10	「富山県 GIS サイト」 （富山県 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
11	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックとやま 2025」 （富山県、令和 7 年）

1) 動物相

文献により生息の情報が得られた動物相の概況は、表 3.1-26 に示すとおりである。

表 3.1-26　文献による動物相の概況

分類群	確認種数	主な確認種
哺乳類	7 目 16 科 42 種	アズミトガリネズミ、ヒメヒミズ、アズマモグラ、コキクガシラコウモリ（ニホンコキクガシラコウモリ）、カグヤコウモリ、コテングコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ヤマネ、ヤチネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン（ホンドテン）、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ等
鳥類	19 目 54 科 221 種	ヤマドリ、ヒシクイ、キジバト、ヒメウ、サンカノゴイ、カッコウ、ヨタカ、アマツバメ、コチドリ、クマタカ、アオバズク、ブッポウソウ、アオゲラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、シジュウカラ、メジロ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、ホオジロ等
爬虫類	2 目 10 科 16 種	アカウミガメ、ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、セグロウミヘビ、ニホンマムシ
両生類	2 目 6 科 15 種	クロサンショウウオ、ハクバサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ヒガシニホンアマガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル
昆虫類	19 目 207 科 1,692 種	ヒメトビイロカゲロウ、アオイトトンボ、オオゴキブリ、ヒメカマキリ、ハマベハサミムシ、ミネトワダカワゲラ、クラズミウマ、ヤスマツトビナナフシ、ウスベニチャタテ、クロヒシウンカ、チャイロクチブトカメムシ、ヤマトクロスジヘビトンボ、ラクダムシ、スカシヒロバカゲロウ、クロヒメガガンボモドキ、ギフシマトビケラ、ネグロミノガ、ナワダイミョウガガンボ、オオヒラタゴミムシ、ホソハラアカヒラタハバチ等
陸産貝類	3 目 12 科 41 種	ヤマキサゴ、ピルスブリムシオイ、ミジンヤマタニシ、ゴマガイ、ヒダリマキゴマガイ、ヤママメタニシ、フトキセルガイモドキ、クニノギセル、ナミギセル、ナメクジ、ヤマナメクジ、ヤクシマヒメベッコウ、キヌツヤベッコウ、オオウエキビ、ウラジロベッコウ、コシタカコベソマイマイ、ニッポンマイマイ、ウスカワマイマイ、ヒダリマキマイマイ、オトメマイマイ等
魚類	10 目 21 科 54 種	カワヤツメ、ウグイ、ニシシマドジョウ、ヒメドジョウ、ナマズ、アユ、ニッコウイワナ、サクラマス(ヤマメ)、トミヨ、カマキリ、カジカ、ミミズハゼ、シマヨシノボリ、ルリヨシノボリ、オオヨシノボリ、ゴクラクハゼ、スミウキゴリ、ウキゴリ、シマウキゴリ等
底生動物	11 目 18 科 24 種	ナミウズムシ、タガイ、マシジミ、カワニナ、ヒメモノアラガイ、モノアラガイ、サカマキガイ、シマイシビル、ヤマトヨコエビ、ミズムシ（甲）、スジエビ、サワガニ、アカテガニ等

2) 重要な種及び注目すべき生息地

重要な種及び注目すべき生息地は、表 3.1-27 及び表 3.1-28 に示す基準に基づいて選定した。

表 3.1-27　重要な種の選定基準（動物）

No.	選定基準	
Ⅰ	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「富山県文化財保護条例」 （昭和 38 年富山県条例第 11 号） 「朝日町文化財保護条例」 （昭和 63 年朝日町条例第 1 号） 「入善町文化財保護条例」 （昭和 37 年入善町条例第 15 号）	特別天然記念物（特天） 天然記念物（天然） 富山県天然記念物（県天） 朝日町天然記念物（町天） 入善町天然記念物（町天）
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 （平成 4 年法律第 75 号）	国際希少野生動植物種（国際） 国内希少野生動植物種（国内） 特定第一種国内希少野生動植物種（第一） 特定第二種国内希少野生動植物種（第二） 緊急指定種（緊急）
Ⅲ	哺乳類・昆虫類・陸産貝類・魚類・底生生物 「環境省レッドリスト 2020」 （環境省、令和 2 年） 鳥類・爬虫類・両生類 「第 5 次レッドリスト」 （環境省、令和 8 年）	絶滅（EX） 野生絶滅（EW） 絶滅危惧 IA 類（CR） 絶滅危惧 IB 類（EN） 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 準絶滅危惧（NT） 情報不足（DD） 絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
Ⅳ	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物 富山県版レッドリスト 2025」 （富山県、令和 7 年）	絶滅+野生絶滅（EX+EW） 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 準絶滅危惧（NT） 情報不足（DD） 絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
Ⅴ	「富山県希少野生動植物保護条例」 （平成 26 年富山県条例第 47 号）	指定希少野生動植物（希少）

注：最右列の括弧内は、本図書で示す略号を示す。

表 3.1-28　注目すべき生息地の選定基準（動物）

No.	選定基準	
Ⅰ	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「富山県文化財保護条例」（昭和 38 年富山県条例第 11 号） 「朝日町文化財保護条例」（昭和 63 年朝日町条例第 1 号） 「入善町文化財保護条例」（昭和 37 年入善町条例第 15 号）	特別天然記念物（特天） 天然記念物（天然） 富山県天然記念物（県天） 朝日町天然記念物（町天） 入善町天然記念物（町天）
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 （平成 4 年法律第 75 号）	生息地等保護区（生）
Ⅲ	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」 （環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）	重要湿地（湿地）
Ⅳ	「全国環境情報 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況_(動物)『コウモリ洞分布』『コウモリ生息情報』『コウモリ分布』」（環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）	コウモリ洞分布（コ洞） コウモリ生息情報（コ生） コウモリ分布（コ分）
Ⅴ	「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」 （環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版） 「希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について」 （環境省、平成 16 年） 「全国環境情報 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況_(動物)『イヌワシ・クマタカ_生息分布』」 （環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月） 「風力発電における鳥類のセンシティビティマップ（陸域版）『重要種』」（環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）	希少猛禽類の生息分布（生息）
Ⅵ	「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」 （環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版） 「全国環境情報 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況_(動物)『渡りをするタカ類集結地』」 （環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月） 「風力発電における鳥類のセンシティビティマップ（陸域版）『鳥類の渡りルート』」 （環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）	渡り経路(経路) 渡り鳥の集結地(集結)
Ⅶ	「風力発電における鳥類のセンシティビティマップ（陸域版）注意喚起メッシュ」 （環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）	注意喚起レベル A1(A1) 注意喚起レベル A2(A2) 注意喚起レベル A3(A3) 注意喚起レベル B(B) 注意喚起レベル C(C) 情報なし（情報）
Ⅷ	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」（昭和 55 年条約第 28 号）	ラムサール条約湿地(ラ湿)
Ⅸ	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら）」 （環境庁、平成 6 年）	集団繁殖地（集団）

注：最右列の括弧内は、本図書で示す略号を示す。

① 重要な種

文献により確認された動物のうち、表 3.1-27 に示す選定基準に該当する重要な種は、表 3.1-29～表 3.1-36 に示すとおりである。

哺乳類は 13 種、鳥類は 99 種、爬虫類は 5 種、両生類は 7 種、昆虫類は 167 種、陸産貝類は 20 種、魚類は 19 種、底生動物は 11 種であった。

表 3.1-29 哺乳類の重要な種

No.	目名	科名	和名	選定基準					文献番号											
				I	II	III	IV	V	1	2	3	18	19	21	22	23	24	25	26	42
1	モグラ	トガリネズミ	アズミトガリネズミ			NT	DD			○		○	○							
2			カワネズミ				VU					○	○							
3		モグラ	ミズラモグラ			NT	NT			○		○	○							
4	コウモリ	ヒナコウモリ	カグヤコウモリ				NT					○							○	○
5			ノレンコウモリ			VU	VU								○					○
6			ヤマコウモリ			VU	DD					○	○						○	○
7			クビワコウモリ			VU	DD					○							○	○
8			コテングコウモリ				VU						○							
9			テングコウモリ				VU								○					○
10	ネズミ	リス	ニホンモモンガ				NT						○							
11		ヤマネ	ヤマネ	国天			NT					○	○							
12	ネコ	イタチ	オコジョ			NT	NT			○		○	○							
13	ウシ	ウシ	カモシカ	特天					○	○	○		○	○		○	○	○		
計	5 目	7 科	13 種	2 種	0 種	6 種	12 種	0 種	1 種	4 種	1 種	13 種	9 種	1 種	2 種	1 種	1 種	1 種	3 種	5 種

注:1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版）」（国土交通省、令和7年）に準拠した。
2. 選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。
3. オオカミは国内では 1800 年代後半まで生息していたものと考えられており、「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックとやま 2012」（富山県、平成 24 年)によると入善町の周辺でも記録があるが、「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）では EX、「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　富山県版レッドリスト 2025」（富山県、令和 7 年)では EX+EW とされていることから重要な種には選定しなかった。
4. ニホンカワウソは「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックとやま 2012」（富山県、平成 24 年)によると 1959 年に朝日町での捕獲記録があるが、「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）では EX、「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　富山県版レッドリスト 2025」（富山県、令和 7 年)では EX+EW とされていることから重要な種には選定しなかった。

表 3.1-30(1)　鳥類の重要な種

No.	目名	科名	和名	選定基準					文献番号						
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	4	5	6	18	19	21	42
1	キジ	キジ	ライチョウ	国内	特天	EN	CR+EN		○					○	
2			ウズラ			VU	DD		○			○		○	
3	カモ	カモ	ヒシクイ		天然	NT	VU		○					○	○
4			マガン		天然		VU		○			○		○	○
5			コクガン		天然	VU	CR+EN		○					○	
6			オオハクチョウ				NT		○					○	
7			オシドリ				DD							○	○
8			ヨシガモ				NT		○					○	○
9			トモエガモ			DD	VU					○		○	○
10			キンクロハジロ			VU						○		○	
11			シノリガモ				NT		○					○	○
12			ビロードキンクロ				NT		○					○	
13			ホオジロガモ				NT		○					○	○
14			ミコアイサ				NT		○					○	○
15			ウミアイサ				NT		○					○	○
16	ミズナギドリ	ミズナギドリ	シロハラミズナギドリ			VU								○	
17	カツオドリ	ウ	ヒメウ			EN								○	
18	ペリカン	サギ	サンカノゴイ			CR	CR+EN		○						
19			ヨシゴイ			DD	CR+EN		○			○		○	
20			オオヨシゴイ	国内		CR			○					○	
21			ミゾゴイ			NT	CR+EN							○	
22			ゴイサギ			VU					○	○		○	
23			ササゴイ			VU	VU		○						
24			アマサギ			EN					○			○	
25			チュウサギ			NT			○					○	
26			コサギ			VU				○	○	○		○	
27			クロサギ				CR+EN		○					○	○
28		トキ	ヘラサギ			EN	DD								○
29	ツル	クイナ	クイナ				DD		○						
30			ヒクイナ			NT	CR+EN		○					○	
31			バン			VU	NT				○	○		○	○
32	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ				NT							○	○
33			カッコウ				NT				○	○		○	○
34	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	VU		○			○		○	○
35	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ			VU						○		○	
36			アマツバメ			VU						○		○	
37	チドリ	チドリ	ケリ			DD	NT		○						
38			ムナグロ			VU						○		○	
39			イカルチドリ				NT		○			○		○	○
40			コチドリ				NT		○		○	○		○	○
41			シロチドリ			VU	NT		○		○			○	○
42			メダイチドリ	国際										○	
43		セイタカシギ	セイタカシギ			DD	DD								○
44		シギ	ヤマシギ				NT					○		○	
45			アオシギ				NT								○
46			オオジシギ			NT	DD							○	
47			オオソリハシシギ	国際		VU	DD							○	
48			ツルシギ			EN	DD							○	
49			タカブシギ			VU	DD							○	
50			イソシギ				NT		○		○			○	○
51			キョウジョシギ			NT								○	
52			トウネン			NT								○	
53			ハマシギ			VU								○	
54		カモメ	ズグロカモメ			VU	DD		○						
55			ウミネコ			VU				○	○	○		○	
56			オオセグロカモメ			EN				○		○		○	
57			コアジサシ	国際		EN	CR+EN		○		○	○		○	○

表 3.1-30(2)　鳥類の重要な種

No.	目名	科名	和名	選定基準					文献番号						
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	4	5	6	18	19	21	42
58	チドリ	カモメ	アジサシ				DD		○		○			○	
59		ウミスズメ	ウミガラス	国内		CR	DD					○		○	
60			マダラウミスズメ			DD	DD							○	
61			ウミスズメ			CR	DD					○		○	○
62	タカ	ミサゴ	ミサゴ				NT		○			○		○	○
63		タカ	ハチクマ			DD	VU		○			○		○	○
64			オジロワシ	国内	天然	VU	VU		○					○	○
65			オオワシ	国内	天然	VU	VU		○			○			○
66			チュウヒ	国内		EN	CR+EN		○						
67			ハイイロチュウヒ				NT							○	
68			ツミ				VU		○					○	○
69			ハイタカ			NT	VU		○					○	○
70			オオタカ			NT	VU		○			○		○	○
71			サシバ			VU	VU		○		○	○		○	○
72			ノスリ	国内							○			○	
73			イヌワシ	国内	天然	EN	CR+EN		○			○	○	○	○
74			クマタカ	国内		EN	VU		○			○	○	○	○
75	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				VU		○					○	
76			コノハズク				VU							○	
77			フクロウ				NT			○		○		○	○
78			アオバズク				VU		○			○		○	
79	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				NT		○					○	○
80			ヤマセミ			VU	VU		○			○		○	○
81		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	CR+EN		○			○		○	○
82	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	国内			DD							○	
83	ハヤブサ	ハヤブサ	チゴハヤブサ				CR+EN		○						
84			ハヤブサ	国内		NT	VU		○			○		○	○
85	スズメ	カッサギヒタキ	サンコウチョウ				NT		○		○	○		○	○
86		モズ	チゴモズ			EN	CR+EN		○					○	
87			アカモズ	国内		CR	CR+EN		○					○	
88		カラス	オナガ			NT				○				○	
89		ツバメ	コシアカツバメ				DD		○			○		○	○
90		ヨシキリ	コヨシキリ			NT	NT					○		○	
91		セッカ	セッカ				CR+EN					○			
92		キバシリ	キバシリ				DD		○		○			○	○
93		ヒタキ	トラツグミ	国内										○	
94		セキレイ	ビンズイ			NT						○		○	
95		アトリ	カワラヒワ	国内							○	○		○	
96		ホオジロ	ホオアカ				NT		○			○		○	○
97			カシラダカ			EN				○		○		○	
98			ノジコ			NT	VU		○			○		○	○
99			コジュリン			EN	DD		○						
計	16 目	33 科	99 種	17 種	7 種	61 種	76 種	0 種	55 種	6 種	16 種	42 種	2 種	86 種	43 種

注:1.種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版)」(国土交通省、令和7年）に準拠した。
2.選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。

表 3.1-31　爬虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	7	18	19	21	42
1	カメ	ウミガメ	アカウミガメ			EN					○		
2		イシガメ	ニホンイシガメ			VU	CR+EN				○		
3		スッポン	ニホンスッポン			DD	DD			○	○		○
4	有鱗	タカチホヘビ	タカチホヘビ				NT				○		
5		ナミヘビ	シロマダラ				NT				○		○
計	2目	5科	5種	0種	0種	3種	4種	0種	0種	1種	5種	0種	2種

注:1.種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版）」（国土交通省、令和7年）に準拠した。
2.選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。

表 3.1-32　両生類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	7	18	19	21	42
1	有尾	サンショウウオ	クロサンショウウオ			NT					○		
2			ハクバサンショウウオ		国内	EN	CR+EN	○			○		○
3			ヒダサンショウウオ			NT	NT			○	○	○	○
4		イモリ	アカハライモリ			NT	NT		○	○	○		○
5	無尾	アカガエル	ナガレタゴガエル				VU						○
6			ニホンアカガエル				NT				○		
7			トノサマガエル			NT	NT			○	○	○	○
計	2目	3科	7種	0種	1種	5種	5種	1種	1種	3種	6種	3種	5種

注:1.種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版）」（国土交通省、令和7年）に準拠した。
2.選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。
3.配慮書段階では文献番号 19 の朝日町誌を参考にトウホクサンショウウオと記載していた。しかし、文献が発行された年代と生息分布を考慮すると、現在の分類体系におけるハクバサンショウウオであると考えられる。また、ハクバサンショウウオは富山県の指定希少野生動植物に指定されていることから変更を行った。

表 3.1-33(1)　昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号																			
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	8	9	10	11	12	18	19	20	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	42
1	トンボ	アオイトトンボ	オツネントンボ				CR+EN							○			○	○				○			○			
2		イトトンボ	オゼイトトンボ				CR+EN																					○
3			モートンイトトンボ			NT	VU							○	○		○				○	○			○			
4			セスジイトトンボ				NT		○													○			○			○
5			ムスジイトトンボ				VU		○					○											○			
6		カワトンボ	ニホンカワトンボ				NT		○					○	○							○			○			
7		ムカシトンボ	ムカシトンボ				NT		○					○	○		○				○	○	○		○			
8		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT	CR+EN							○								○			○			
9			アオヤンマ			NT	VU							○							○	○			○			
10			マダラヤンマ			NT	CR+EN		○					○											○			
11			マルタンヤンマ				NT		○												○	○			○			○
12			カトリヤンマ				CR+EN										○											
13		サナエトンボ	オナガササナエ				NT										○	○			○	○						
14		エゾトンボ	ハネビロエゾトンボ			VU	CR+EN							○	○			○			○							
15		トンボ	ハッチョウトンボ				NT		○					○			○					○			○			
16			チョウトンボ				NT		○					○			○				○	○			○			
17			キトンボ				NT		○					○							○	○			○			
18			マイコアカネ				VU							○			○											
19			ミヤマアカネ				NT							○	○		○	○			○	○			○			
20	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ				NT							○						○								
21	カマキリ	ヒメカマキリ	ヒメカマキリ				DD							○	○		○				○							
22		カマキリ	ウスバカマキリ			DD	VU							○			○											
23	ハサミムシ	クロハサミムシ	クロハサミムシ				NT																					○
24	カワゲラ	トワダカワゲラ	ミネトワダカワゲラ				DD							○	○					○								
25		アミメカワゲラ	フライソンアミメカワゲラ			NT											○											
26	バッタ	キリギリス	ササキリ				NT							○														
27		マツムシ	ヒロバネカンタン				NT																					○
28		コオロギ	クマコオロギ				DD							○														
29			クマスズムシ				DD							○														
30			エゾエンマコオロギ本土亜種				NT							○						○								
31		ヒバリモドキ	カワラスズ				NT							○						○								
32		バッタ	カワラバッタ				VU							○			○											
33			ショウリョウバッタモドキ				NT							○	○		○			○								
34	カメムシ	セミ	アカエゾゼミ				NT							○														
35			ハルゼミ				NT								○		○											
36		ヨコバイ	スナヨコバイ			NT	NT																					○
37		サシガメ	ゴミアシナガサシガメ			VU	VU										○											
38			キイロサシガメ				NT										○											
39		ツノカメムシ	トゲツノカメムシ				NT								○													
40		ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ			NT	NT										○											
41		カメムシ	アオクチブトカメムシ				DD								○													
42		アメンボ	オオアメンボ				NT								○		○											
43		イトアメンボ	イトアメンボ			VU	DD										○											
44		コオイムシ	コオイムシ			NT	CR+EN								○			○										

表 3.1-33(2)　昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号																			
				I	II	III	IV	V	8	9	10	11	12	18	19	20	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	42
45	カメムシ	コオイムシ	タガメ		国内	VU	EX+EW											○										
46		タイコウチ	タイコウチ				VU								○			○										
47		ナベブタムシ	ナベブタムシ				VU							○			○											
48	ヘビトンボ	センブリ	ヤマトセンブリ			DD											○											
49	アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ	オオウスバカゲロウ				CR+EN							○			○											
50	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ババツマグロシリアゲ				DD							○							○							
51	トビケラ	ヒゲナガトビケラ	ギンボシツツトビケラ			NT	DD										○											
52	チョウ	ボクトウガ	ハイイロボクトウ			NT	DD								○													○
53		マダラガ	ルリハダホソクロバ			NT	NT										○											○
54		セセリチョウ	キバネセセリ				DD										○											
55			アカセセリ			EN											○											
56			ホソバセセリ				DD																○					
57		シジミチョウ	ヒサマツミドリシジミ				DD			○				○			○	○					○					
58			ミヤマカラスシジミ				NT							○	○								○					
59			オオゴマシジミ			NT	VU							○	○								○					
60			ゴマシジミ八方尾根・白山亜種			VU	VU			○				○	○								○					
61			ヒメシジミ本州・九州亜種			NT									○		○						○					
62			ミヤマシジミ			EN	CR+EN			○				○			○						○					
63			アサマシジミ中部高地帯亜種			VU	VU										○											
64			ムモンアカシジミ				DD								○		○						○					
65		タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			VU									○		○						○					
66			クモマベニヒカゲ本州亜種			NT	DD			○					○								○					○
67			ベニヒカゲ本州亜種			NT									○		○						○					
68			オオイチモンジ			VU	NT							○														
69			フタスジチョウ中部地方亜種				DD							○	○		○						○					
70			エルタテハ				DD										○											
71			タカネヒカゲ北アルプス亜種			NT	VU			○				○	○								○					
72			オオムラサキ			NT	NT							○	○		○	○					○					
73			ギンボシヒョウモン本州亜種				DD								○		○						○					○
74		アゲハチョウ	ギフチョウ			VU	DD							○	○		○	○					○					
75		シロチョウ	クモマツマキチョウ北アルプス・戸隠亜種	県天		NT	CR+EN							○									○					
76		シャクガ	クワトゲエダシャク			NT	DD										○											
77		ヤママユガ	オナガミズアオ本土亜種				NT																					○
78		スズメガ	スキバホウジャク			VU	NT										○											
79			オオシモフリスズメ				VU										○	○										
80		ヒトリガ	キハダカノコ				NT										○											
81			ヤネホソバ			NT											○											
82		ドクガ	スゲドクガ			NT											○											

表 3.1-33(3)　昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号																			
				I	II	III	IV	V	8	9	10	11	12	18	19	20	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	42
83	チョウ	ヤガ	ホッキョクモンヤガ				VU							○	○												
84			エチゴハガタヨトウ本土亜種				DD																				○
85			カギモンハナオイアツバ			NT	NT										○										○
86			ウスミミモンキリガ			NT	DD										○										
87			キスジウスキヨトウ			VU	NT																				○
88			キシタアツバ			NT	NT										○										○
89			アヤモクメキリガ				DD																				○
90	ハエ	ニセヒメガガンボ	エサキニセヒメガガンボ			DD	DD										○										
91		カ	シナハマダラカ				DD							○													
92		ミズアブ	ハラビロミズアブ				DD							○	○		○										
93			ミズアブ				DD							○	○		○										
94		アブ	クロキンメアブ				NT										○										
95			ヨスジキンメアブ				NT										○										
96		ムシヒキアブ	トラフムシヒキ				DD										○										
97			オオイシアブ				DD										○										
98		ツリアブ	クロバネツリアブ				DD							○			○										
99	コウチュウ	オサムシ	クロオサムシ山梨長野亜種				NT							○													
100			コクロナガオサムシ				NT								○		○	○									
101			ホソヒメクロオサムシ				NT								○												
102			セアカオサムシ			NT	VU							○													
103			オオサカアオゴミムシ			DD	CR+EN										○										
104			オサムシモドキ				NT										○										
105		ハンミョウ	カワラハンミョウ			EN	EX+EW										○										
106			ナミハンミョウ				CR+EN							○	○		○										
107		ゲンゴロウ	メススジゲンゴロウ				VU														○						
108			クロゲンゴロウ			NT	CR+EN										○										
109			ゲンゴロウ			VU	EX+EW										○	○									
110			マルガタゲンゴロウ			VU	EX+EW							○			○										
111			シマゲンゴロウ			NT	EX+EW							○			○										
112			ケシゲンゴロウ			NT	CR+EN										○										
113			キベリマメゲンゴロウ			NT											○	○									
114			クロマメゲンゴロウ				NT							○													
115		ミズスマシ	オオミズスマシ			NT																				○	
116			ミズスマシ			VU	VU										○										
117			コオナガミズスマシ			VU	VU										○										
118		ガムシ	コガムシ			DD											○										
119			ガムシ			NT	VU										○	○									○
120			シジミガムシ			EN											○										
121			マメガムシ				CR+EN										○										
122		シデムシ	オニヒラタシデムシ				VU																				○
123			ヒメヒラタシデムシ				NT										○										○
124		センチコガネ	オオセンチコガネ				LP																				○

表 3.1-33(4)　昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号																			
				I	II	III	IV	V	8	9	10	11	12	18	19	20	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	42
125	コウチュウ	クワガタムシ	ヒラタクワガタ本土亜種				VU							○	○		○	○										
126			マグソクワガタ				VU																					○
127		コガネムシ	ヤマトアオドウガネ				NT										○											
128			オオスジマグソコガネ				VU																					○
129			ウスイロマグソコガネ				NT										○											
130			ヒメカンショコガネ				DD										○											
131			ミヤマダイコクコガネ				VU																					○
132			マルエンマコガネ				CR+EN										○											
133			ジュウシチホシハナムグリ				NT										○											
134			クロカナブン				NT										○											
135		ホタル	ヘイケボタル				DD							○	○			○										
136			ゲンジボタル				DD							○			○	○										
137		ゴミムシダマシ	キイロクチキムシ				DD										○											
138			クロゴミムシダマシ				DD								○													
139			ハネナシセスジナガキマワリ				NT							○														
140		カミキリムシ	ヒゲナガモモブトカミキリ				NT								○		○		○									○
141			フタオビミドリトラカミキリ				NT								○		○	○	○									○
142			クビアカハナカミキリ				VU																					○
143			クロツヤヒゲナガコバネカミキリ				NT										○											
144			ナカバヤシモモブトカミキリ				VU																					○
145			キイロミヤマカミキリ				NT							○	○				○									
146			ヒゲナガカミキリ				NT								○													
147			カクムネヒメハナカミキリ				DD								○		○											
148			ニセノコギリカミキリ				VU																					○
149			ヨツボシカミキリ			EN	CR+EN										○											
150			コウヤホソハナカミキリ				NT																					○
151		ハムシ	オオサルハムシ				DD										○											
152	ハチ	ハバチ	ルリコシアカハバチ			DD									○													
153		コマユバチ	ウマノオバチ			NT	NT							○	○		○											
154		セイボウ	オオセイボウ			DD											○											
155		アリ	トゲアリ			VU											○											
156		スズメバチ	ヤドリホオナガスズメバチ			DD									○													
157			ヤマトアシナガバチ			DD	NT										○											○
158			フカイオオドロバチ本土亜種				NT							○														
159			モンスズメバチ			DD									○		○											

表 3.1-33(5)　昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号																			
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	8	9	10	11	12	18	19	20	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	42
160	ハチ	クモバチ	ムツボシクモバチ			NT											○										
161			フタモンクモバチ			NT											○										
162		ギングチバチ	アギトギングチ			DD									○		○										
163			ニトベギングチ			DD	VU							○	○												
164		ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ			VU	VU										○										
165		アナバチ	フジジガバチ			NT	VU							○													
166		ミツバチ	クロマルハナバチ			NT																					
167		ハキリバチ	キバラハキリバチ			NT	DD																				○
計	15 目	77 科	167 種	1 種	1 種	71 種	146 種	0 種	9 種	5 種	0 種	0 種	0 種	146 種	48 種	0 種	98 種	19 種	3 種	5 種	11 種	14 種	1 種	17 種	14 種	0 種	1 種	31 種

注:1.種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版)」（国土交通省、令和7年）に準拠した。
　2.選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。

表 3.1-34　陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	18	38	39	40	41	42
1	オキナエビス	ヤマキサゴ	ヤマキサゴ				NT			○	○		○	○
2	ニナ	イツマデガイ	ヤママメタニシ			CR+EN	CR+EN		○	○	○	○	○	○
3	マイマイ	キセルガイモドキ	キセルガイモドキ				DD				○	○		○
4		キセルガイ	オオタキコギセル				NT				○	○	○	○
5			キヌハダギセル				VU		○	○	○	○	○	○
6			クニノギセル			NT			○					
7		ナメクジ	ナメクジ				DD					○		○
8		ベッコウマイマイ	オオヒラベッコウ			DD			○			○		
9			クリイロベッコウ			DD			○			○		
10			カズマキベッコウ			DD	DD							○
11			ハクサンベッコウ			DD						○		
12			キヌツヤベッコウ			DD				○				
13			オオウエキビ			DD						○		
14			タカキビ			NT	DD							○
15			ウラジロベッコウ				DD		○					○
16		ニッポンマイマイ（ナンバンマイマイ）	ココロマイマイ			VU	DD					○		
17			コシタカコベソマイマイ			NT	DD			○		○		○
18			ヤマタカマイマイ			NT	NT						○	○
19		オナジマイマイ	カドコオオベソマイマイ			NT			○			○		
20			コオオベソマイマイ				DD							○
計	3 目	8 科	20 種	0 種	0 種	13 種	13 種	0 種	7 種	5 種	5 種	12 種	5 種	12 種

注:1. 種名及び配列等、原則として「日本産野生生物目録　-本邦産野生動植物の種の現状-（無脊椎動物編Ⅲ）」（環境庁、平成13年）に準拠した。
2. 選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。

表 3.1-35　魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					文献番号							
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	13	14	15	18	19	20	21	42
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	ミナミスナヤツメ			VU	NT									○
2			カワヤツメ			VU	CR+EN					○				
3	コイ	ドジョウ	ドジョウ			NT	NT		○			○	○	○		○
4	ナマズ	ナマズ	ナマズ				NT					○				○
5		アカザ	アカザ			VU	CR+EN					○				○
6	サケ	サケ	ニッコウイワナ			DD			○	○	○	○	○		○	○
7			サクラマス（ヤマメ）			NT	NT		○	○	○	○	○		○	
8	トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ			LP	EX+EW		○			○	○			
9			トミヨ属淡水型			LP	VU									○
10	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU					○					
11			キタノメダカ			VU	NT		○							○
12	スズキ	カジカ	カマキリ			VU			○	○	○	○	○		○	
13			カジカ			NT					○	○	○		○	○
14			カジカ中卵型			EN	VU			○	○					○
15			カンキョウカジカ			LP	VU		○			○				○
16		ハゼ	ルリヨシノボリ				VU		○			○			○	○
17			クロヨシノボリ				CR+EN		○			○				
18			ビリンゴ				NT				○					○
19			ジュズカケハゼ			NT	VU					○				○
計	7目	9科	19種	0種	0種	15種	15種	0種	9種	4種	7種	13種	6種	1種	5種	13種

注:1.種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版）」（国土交通省、令和7年）に準拠した。
2.選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。

表 3.1-36　底生動物の重要な種

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	選定基準					文献番号						
						Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	15	16	17	18	20	21	42
1	軟体動物	二枚貝	イシガイ	イシガイ	ヨコハマシジラガイ			NT	CR+EN								○
2					ヌマガイ				(VU)								
3			マルスダレガイ	シジミ	マシジミ			VU	DD					○			○
4		腹足	タニシ	タニシ	マルタニシ			VU	VU								○
5					オオタニシ			NT	NT								○
6			モノアラガイ	モノアラガイ	モノアラガイ			NT	VU					○			○
7	節足動物	鰓脚	カイエビ	カイエビ	カイエビ				DD								○
8		軟甲	エビ	ヌマエビ	ミゾレヌマエビ				DD								○
9					ヌマエビ				DD								○
10				サワガニ	サワガニ				NT								○
11				ベンケイガニ	アカテガニ				VU								○
計	2門	4綱	6目	8科	11種	0種	0種	5種	11種	0種	0種	0種	0種	2種	0種	0種	10種

注:1.種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版)」(国土交通省、令和7年）に準拠した。
2.選定基準は、表 3.1-27 に示す通し番号である。
3.ドブガイは現在タガイ、ヌマガイに再分類されていることから、選定基準では「ヌマガイ」(「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　富山県版レッドリスト 2025」(富山県、令和 7 年)：VU）のランクを括弧書きで記載した。

② 注目すべき生息地

対象事業実施区域及びその周囲には、表 3.1-28 に示す選定基準によれば、表 3.1-37 に示す注目すべき生息地が分布している。

「宮崎鹿島樹叢」は図 3.1-19 に、「重要な鳥類の生息分布」は図 3.1-20～図 3.1-21 に、「重要な鳥類の渡り経路」は図 3.1-22～図 3.1-25 に、「渡り鳥の集結地」は図 3.1-26～図 3.1-27 に、「センシティビティマップ　注意喚起メッシュ」は図 3.1-28 に、「集団繁殖地」は図 3.1-30 に示す。

表 3.1-37　注目すべき生息地の選定結果

注目すべき生息地	選定基準								
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ
宮崎鹿島樹叢	○ 天然								
重要な鳥類の生息分布					○ 分布 （イヌワシ、 クマタカ）				
重要な鳥類の渡り経路						○ 経路 （サシバ、 ハチクマ、 ノスリ、 ガン類、 ハクチョウ類）			
渡り鳥の集結地						○ 集結 （マガン、 コハクチョウ）			
センシティビティマップ 注意喚起メッシュ							○ A3		
集団繁殖地									○ 集団 （イワツバメ）

注：選定基準は、表 3.1-28 に示す通し番号である。

a. 宮崎鹿島樹叢

対象事業実施区域の北側に位置する 233.6ha の温暖帯原始林で、日本海沿岸における暖温帯性植物の北限地として、国の天然記念物に指定されている。この小範囲にカガココロマイマイ、エチゴヤマキサゴなど 37 種の陸産貝類が生息しているほか、渡り鳥の休み場所として、多くの鳥類が飛来する。

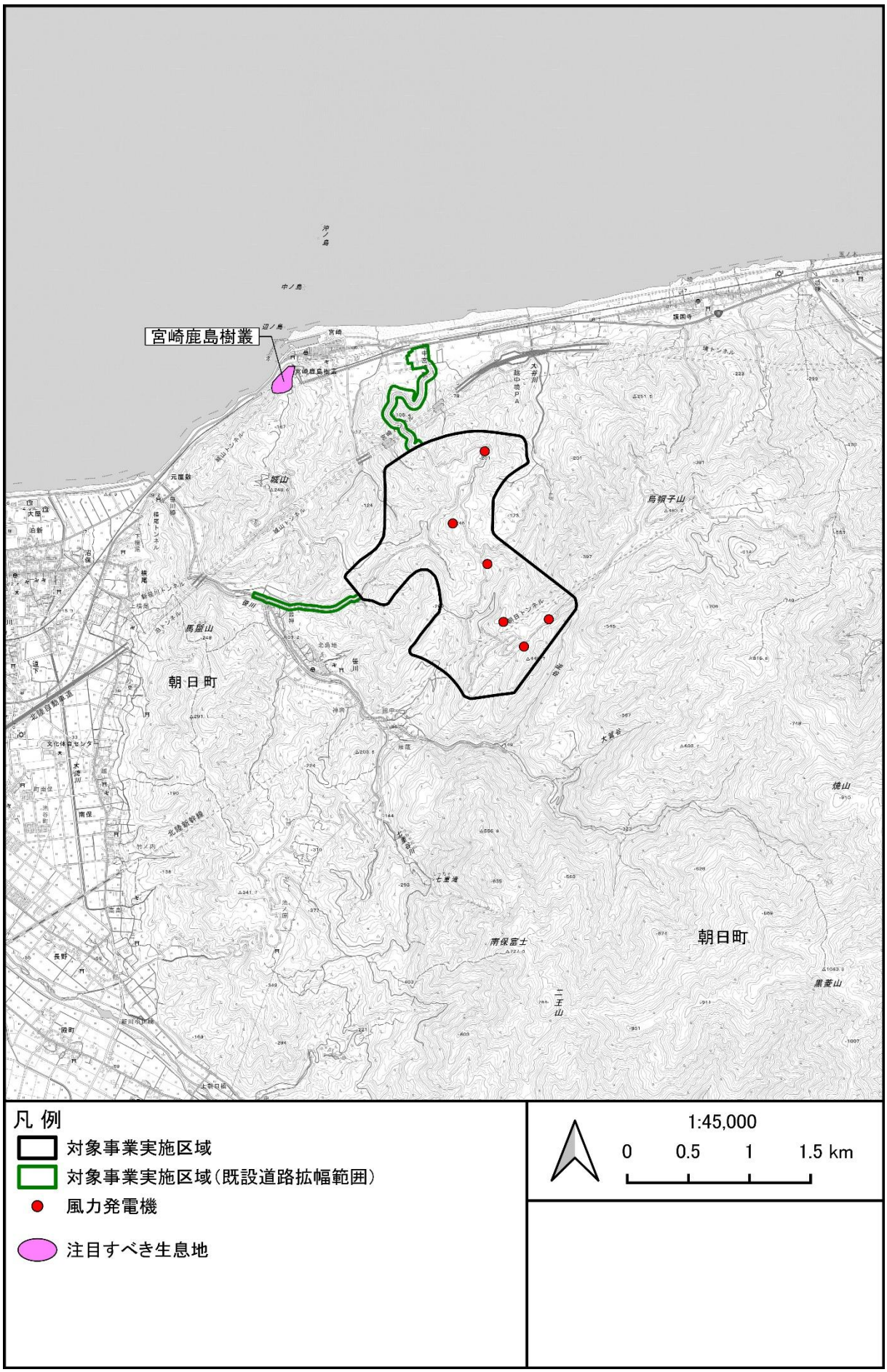


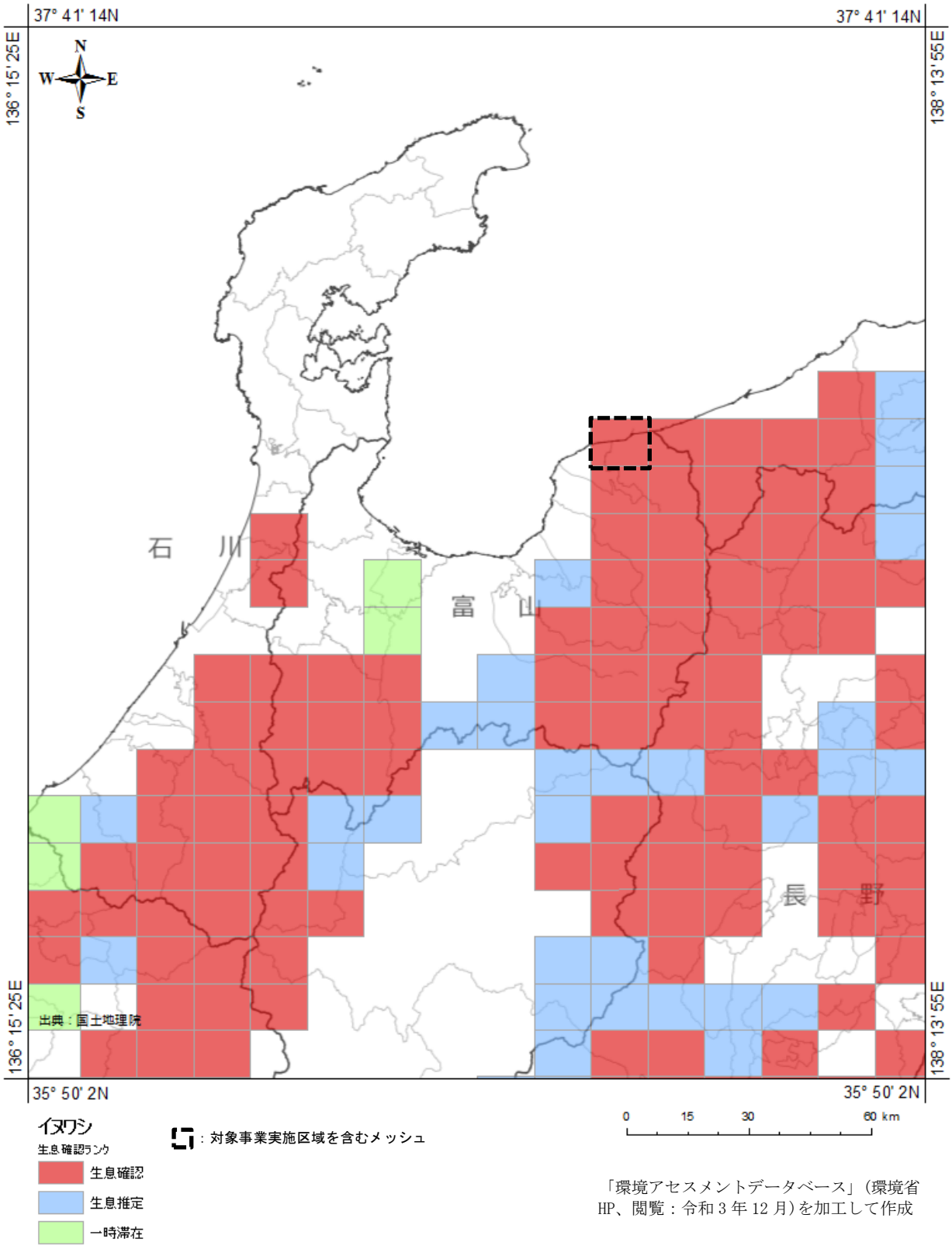
図 3.1-19　注目すべき生息地の位置（宮崎鹿島樹叢）

b. 重要な鳥類の生息分布

(a) イヌワシ・クマタカ

「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）及び「希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について」（環境省等、平成 16 年）にイヌワシ及びクマタカの生息分布が示されている。また、「環境アセスメントデータベース」の情報のうち、「全国環境情報　動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況_(動物)」にも、「イヌワシ・クマタカ_生息分布」が示されている。

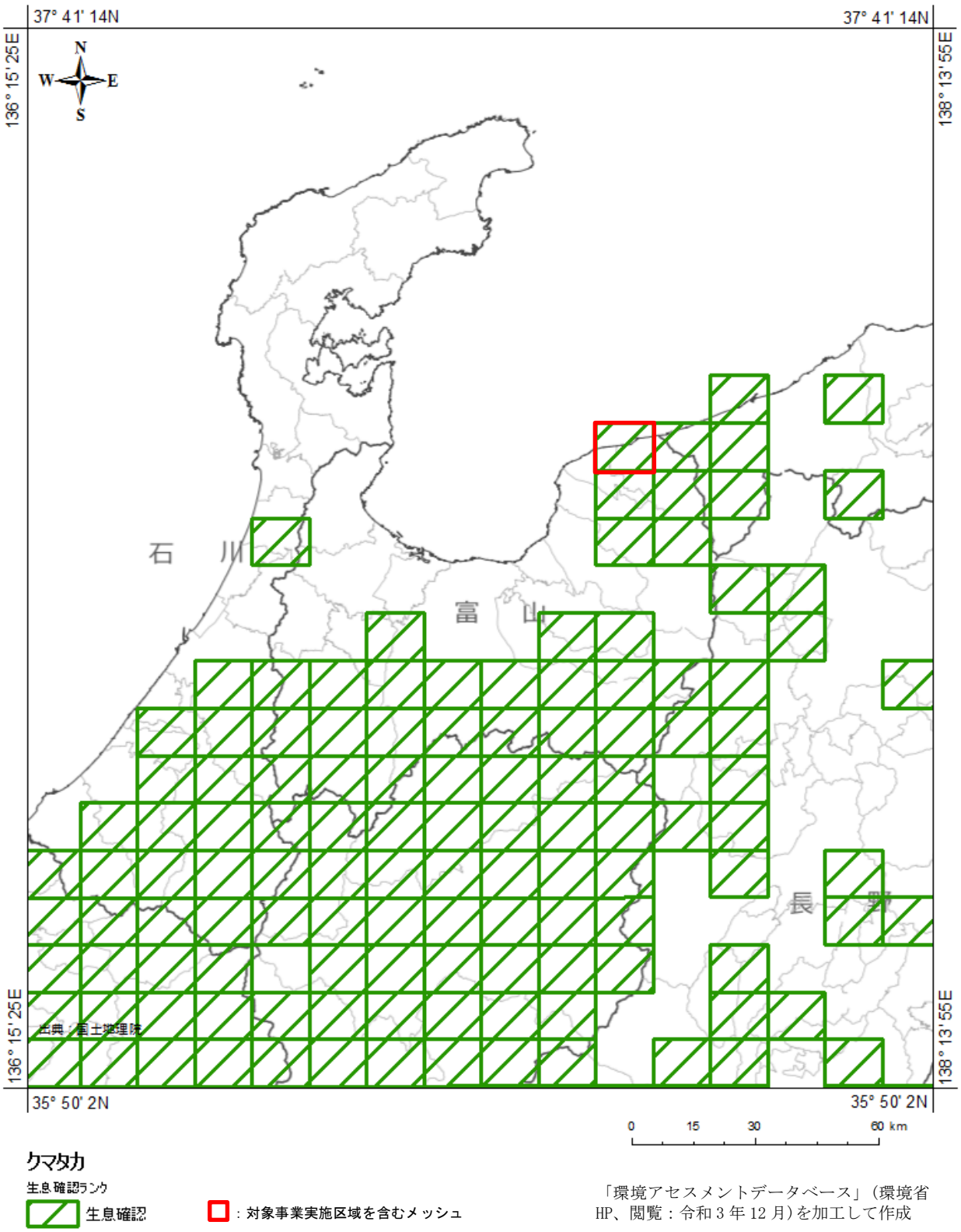
これによると、対象事業実施区域及びその周囲には、イヌワシ及びクマタカの生息分布のメッシュが存在する。（図 3.1-20、図 3.1-21）。



「環境アセスメントデータベース」（環境省HP、閲覧：令和3年12月）を加工して作成

出典：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成23年、平成27年修正版）
「希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について」（環境省等、平成16年）

図 3.1-20　イヌワシの生息分布



「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）を加工して作成

出典：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）
「希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について」（環境省等、平成 16 年）

図 3.1-21　クマタカの生息分布

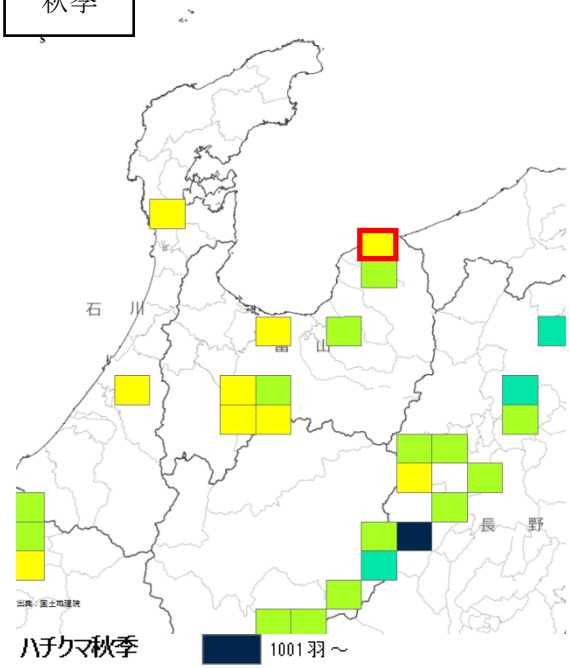
(b) 重要な鳥類の渡り経路

「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）に渡りを行うタカ類の出現規模及び衛星追跡経路並びに日中の鳥類の渡りルート及び夜間の鳥類の渡りルートが示されている。また、「環境アセスメントデータベース」の情報のうち、「全国環境情報　動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況_(動物)」に「渡りをするタカ類集結地」が、「風力発電における鳥類のセンシティビティマップ　鳥類の渡りルート」に「日中の渡りルート」及び「夜間の渡りルート」が示されている（図 3.1-22～図 3.1-25)。

これによると、以下の渡り経路が確認される。

- ハチクマについては、秋の渡り経路と春の渡り経路ともに、主要な経路は、本州の内陸部であり、対象事業実施区域の周囲は主要な経路にはなっていない。但し、春季の渡り個体の一部は、対象事業実施区域の周囲を通っている。また、対象事業実施区域を含むメッシュでは秋季に渡りの個体が確認されている（図 3.1-22)。
- サシバについては、秋の渡り経路と春の渡り経路ともに、主要な経路は、本州の内陸部であり、対象事業実施区域の周囲は主要な経路にはなっていない。一方、対象事業実施区域を含むメッシュでは秋季に渡りの個体が確認されている（図 3.1-23)。
- ノスリについては、秋の主要な渡り経路は本州の内陸部であるが、春の渡り経路の一部は、対象事業実施区域の周囲を通っている。また、対象事業実施区域を含むメッシュでは秋季に渡りの個体が確認されている（図 3.1-24)。
- 日中及び夜間の渡りルートについては、対象事業実施区域の周囲はハクチョウ類及びガン類の日中の主要な経路となっている。夜間の渡りルートは対象事業実施区域の周囲に主要な渡りルートは示されていない（図 3.1-25)。

秋季

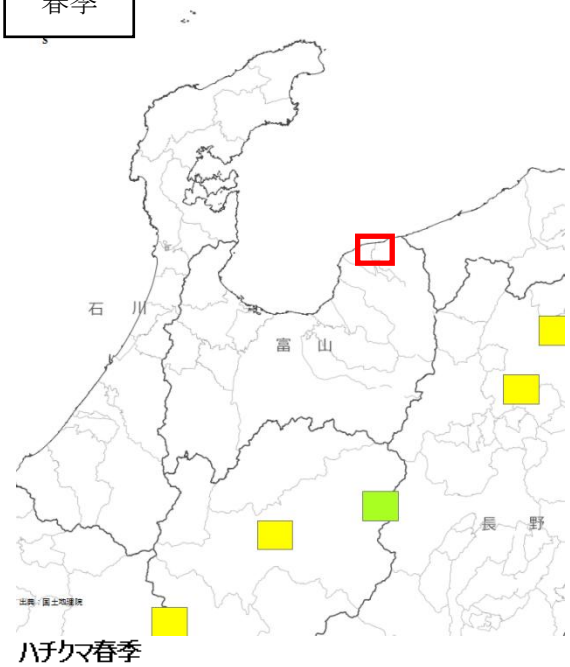


「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）を加工して作成

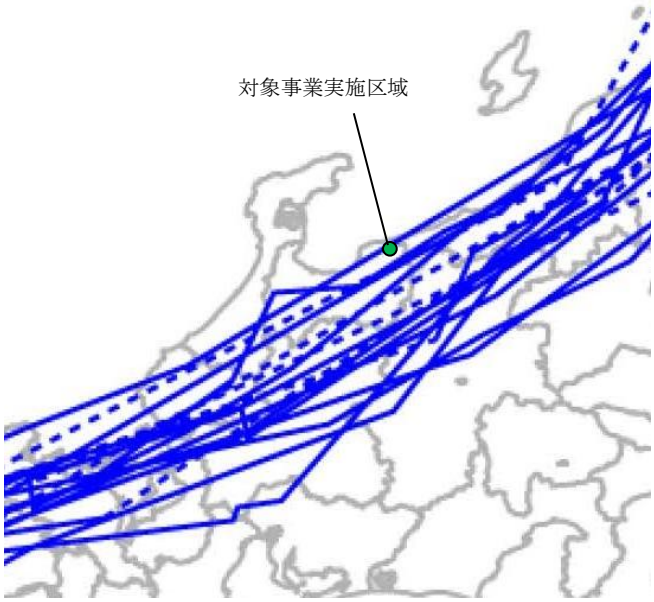


衛星追跡経路（地点間のデータが連続して得られている区間）
※破線：地点間のデータが 2 日以上空いている区間

春季



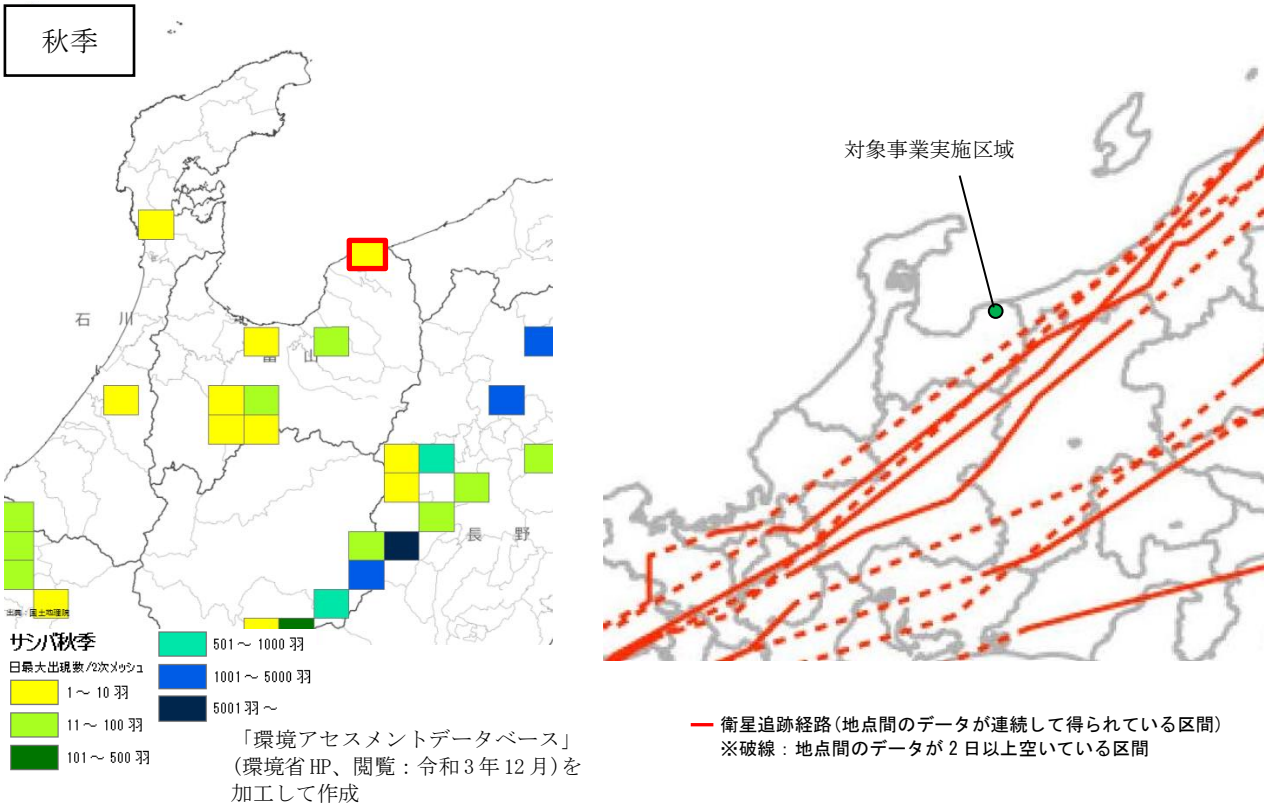
「環境アセスメントデータベース」（環境省HP、閲覧：令和3年12月）を加工して作成



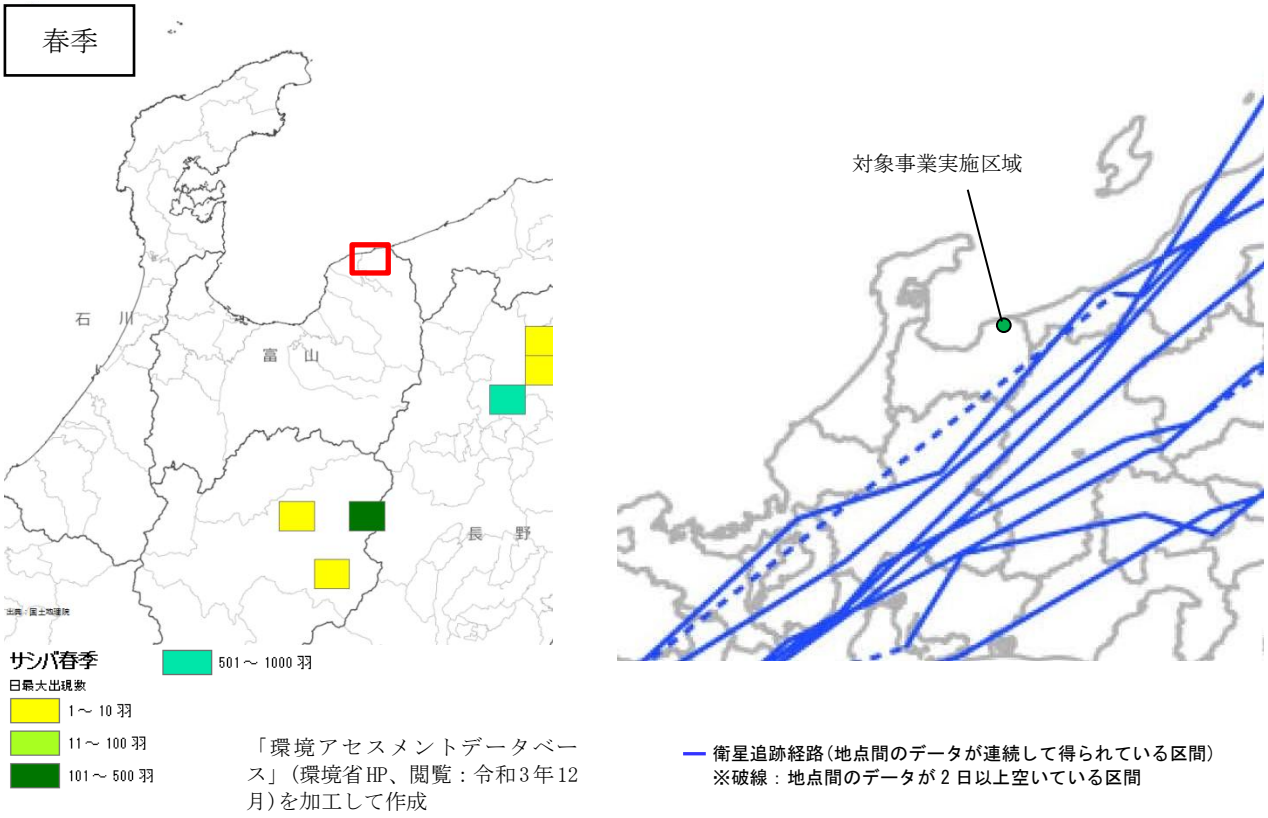
衛星追跡経路（地点間のデータが連続して得られている区間）
※破線：地点間のデータが 2 日以上空いている区間

注：　：対象事業実施区域を含むメッシュ。
出典：左図：「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）
左図の出現規模は、2 次メッシュレベル（10km×10km）における観察情報に基づいたものである。
右図：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）
右図の衛星追跡経路は、20 個体を衛星追跡した結果に基づいたものである。

図 3.1-22　ハチクマの渡り経路（左図：出現規模、右図：衛星追跡経路）



「環境アセスメントデータベース」(環境省HP、閲覧：令和3年12月)を加工して作成

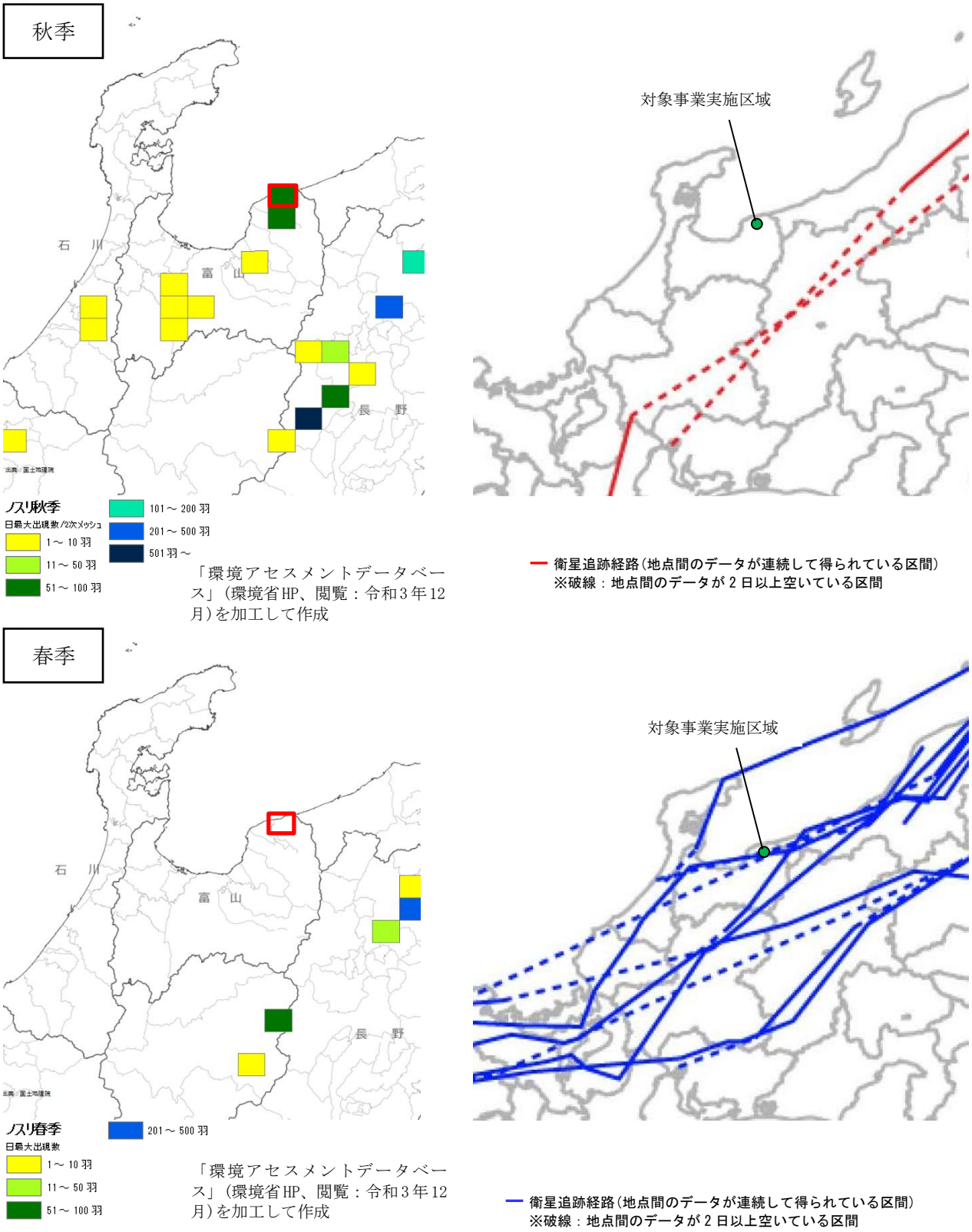


「環境アセスメントデータベース」(環境省HP、閲覧：令和3年12月)を加工して作成

注：　□:対象事業実施区域を含むメッシュ。

出典：左図：「環境アセスメントデータベース」(環境省HP、閲覧：令和3年12月)
左図の出現規模は、2次メッシュレベル（10km×10km）における観察情報に基づいたものである。
右図：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成23年、平成27年修正版)
右図の衛星追跡経路は、12個体を衛星追跡した結果に基づいたものである。

図 3.1-23　サシバの渡り経路（左図：出現規模、右図：衛星追跡経路）

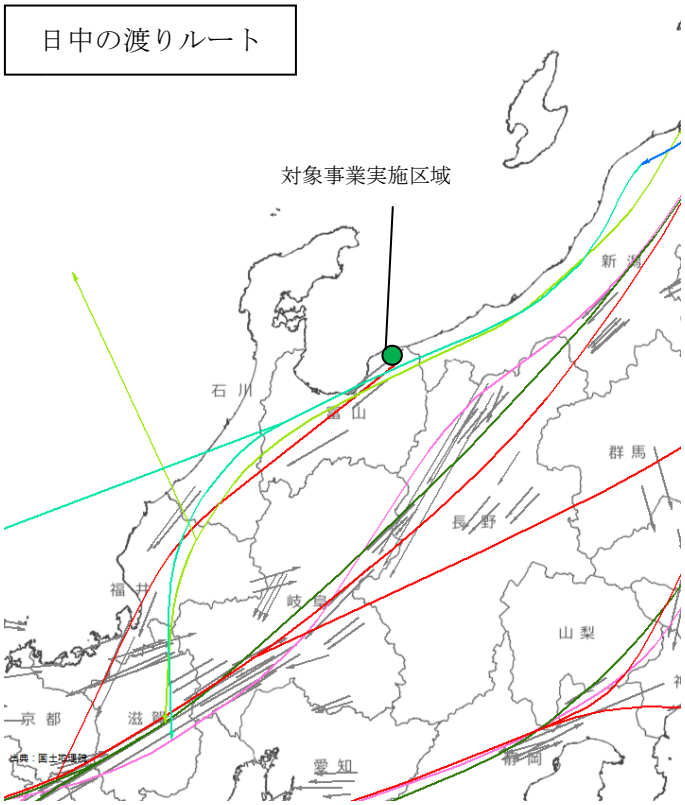


注：□：対象事業実施区域を含むメッシュ。

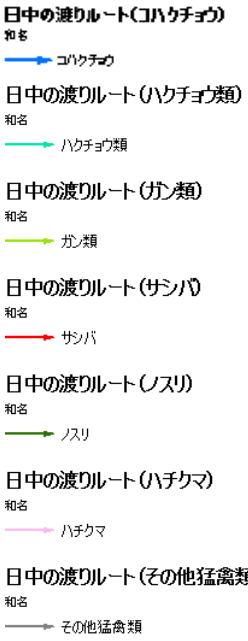
出典：左図：「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）
左図の出現規模は、2 次メッシュレベル（10km×10km）における観察情報に基づいたものである。
右図：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）
右図の衛星追跡経路は、14 個体を衛星追跡した結果に基づいたものである。

図 3.1-24　ノスリの渡り経路（左図：出現規模、右図：衛星追跡経路）

日中の渡りルート

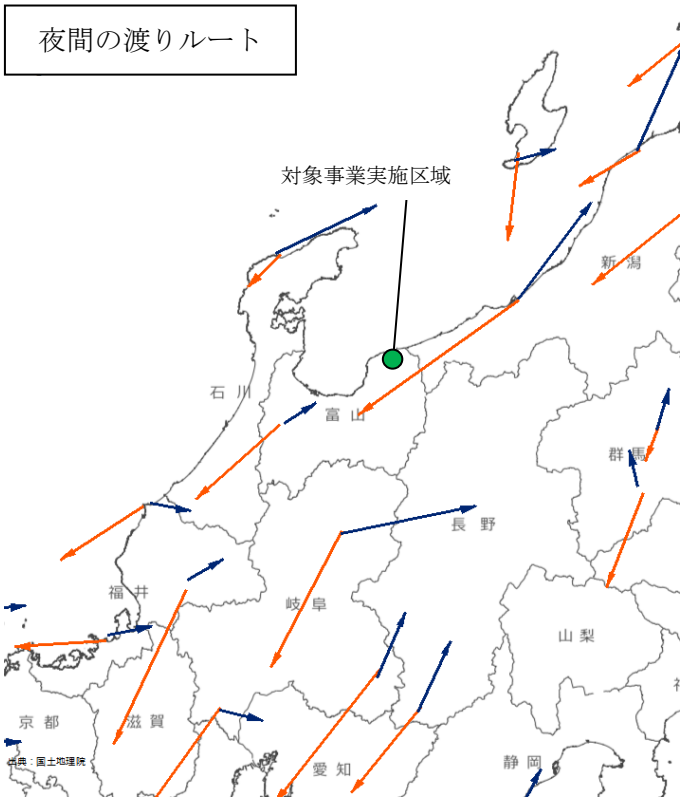


風力発電における鳥類のセンシティビティマップ

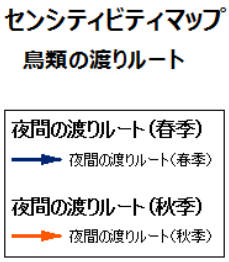


「環境アセスメントデータベース」
（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）
を加工して作成

夜間の渡りルート



風力発電における鳥類のセンシティビティマップ



「環境アセスメントデータベース」
（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）
を加工して作成

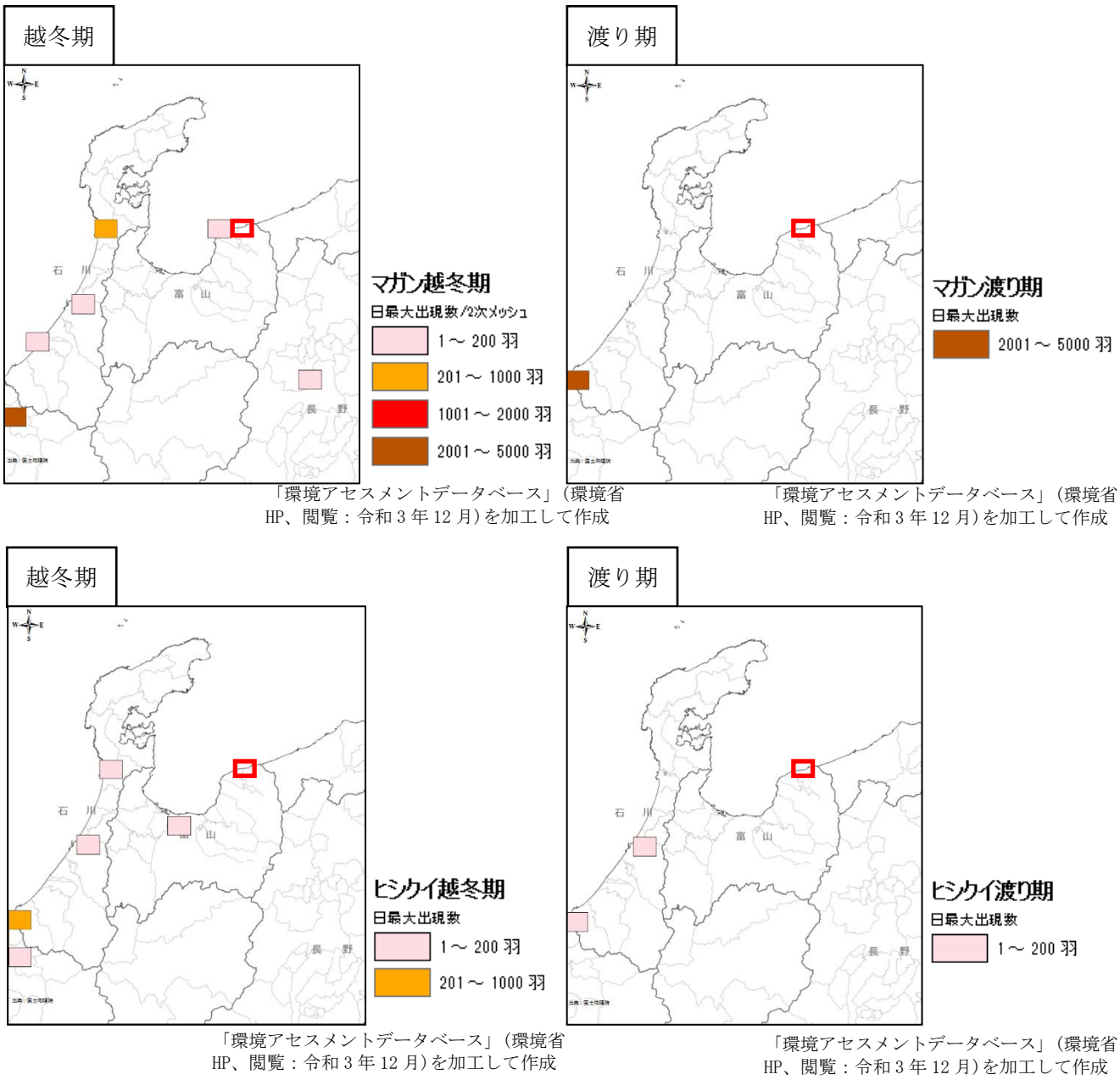
出典：「環境アセスメントデータベース　風力発電における鳥類のセンシティビティマップ」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）

図 3.1-25　風力発電における鳥類のセンシティビティマップにおける渡りルート

c. 渡り鳥の集結地

「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）に渡り鳥の集結地が示されている。また、「環境アセスメントデータベース」の情報のうち、「全国環境情報 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況_（動物）」に「ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地」が示されている（図 3.1-26、図 3.1-27）。

これによると、マガン、ヒシクイ、コハクチョウ及びオオハクチョウの集結地は、対象事業実施区域を含むメッシュには存在しない。ただし、マガン及びコハクチョウの集結地は対象事業実施区域の西側に隣接するメッシュには存在する。



「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）を加工して作成

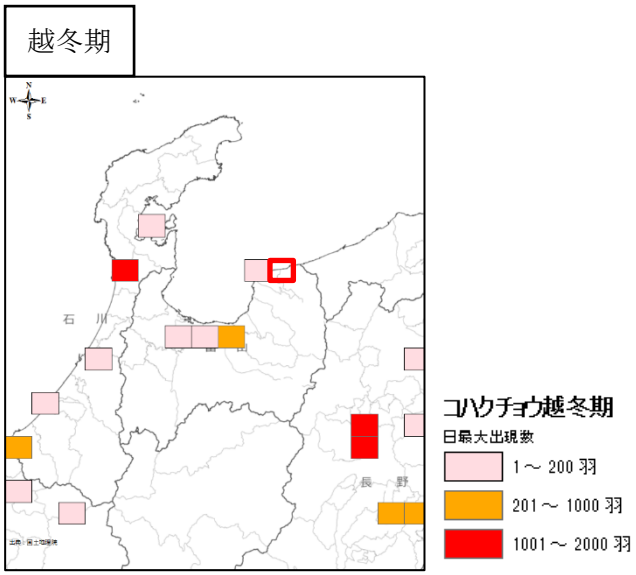
「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）を加工して作成

「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）を加工して作成

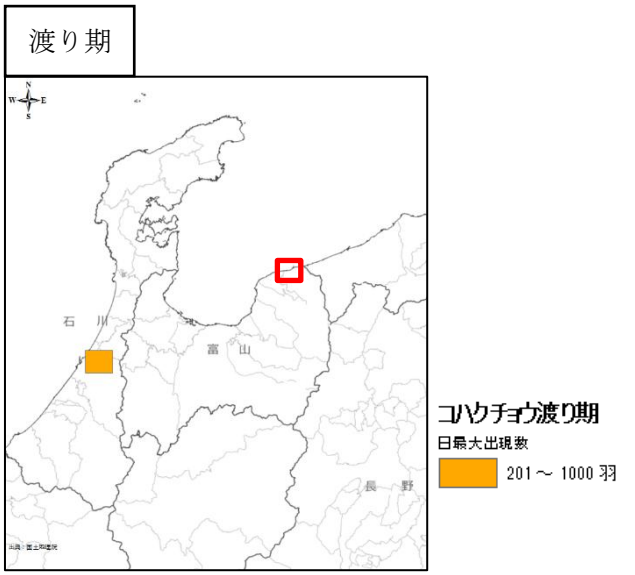
「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）を加工して作成

注：1. □：対象事業実施区域を含むメッシュ。
2. 2 次メッシュレベル（10km×10km）における観察情報に基づいたものである。
3. 時期の区分は、越冬期が 12 月～翌年 1 月、渡り期が 9 月～11 月及び 2 月～5 月である。
出典：「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）

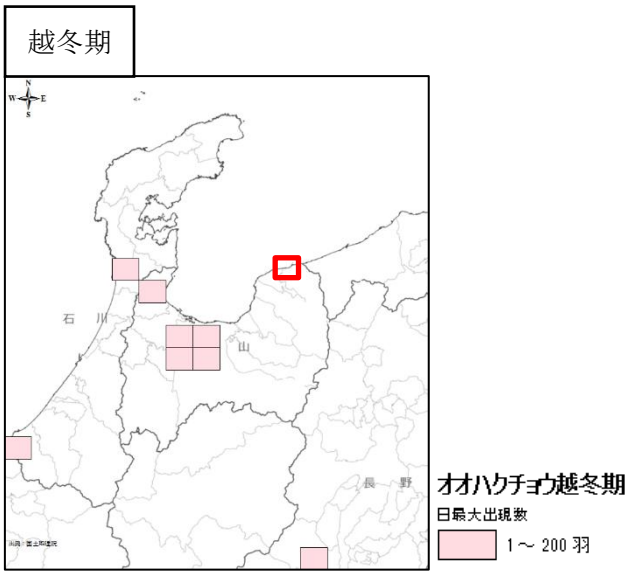
図 3.1-26　マガン・ヒシクイの集結地（上図：マガン、下図：ヒシクイ）



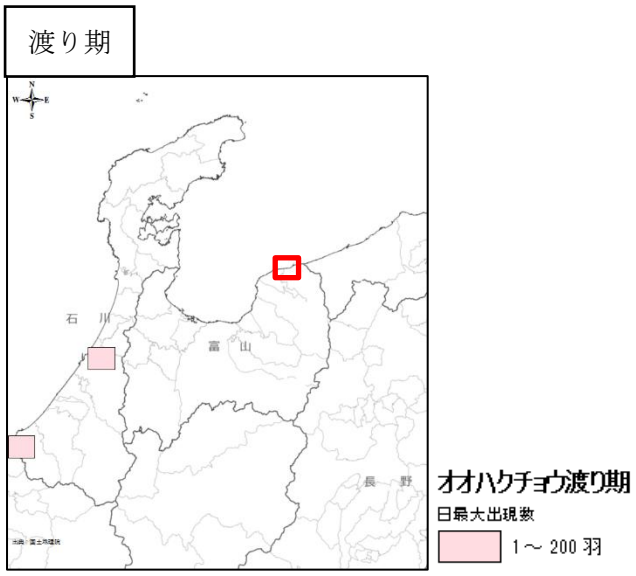
「環境アセスメントデータベース」（環境省HP、閲覧：令和3年12月）を加工して作成



「環境アセスメントデータベース」（環境省HP、閲覧：令和3年12月）を加工して作成



「環境アセスメントデータベース」（環境省HP、閲覧：令和3年12月）を加工して作成



「環境アセスメントデータベース」（環境省HP、閲覧：令和3年12月）を加工して作成

注：1. □：対象事業実施区域を含むメッシュ。
2. 2次メッシュレベル（10km×10km）における観察情報に基づいたものである。
3. 時期の区分は、越冬期が12月～翌年1月、渡り期が9月～11月及び2月～5月である。

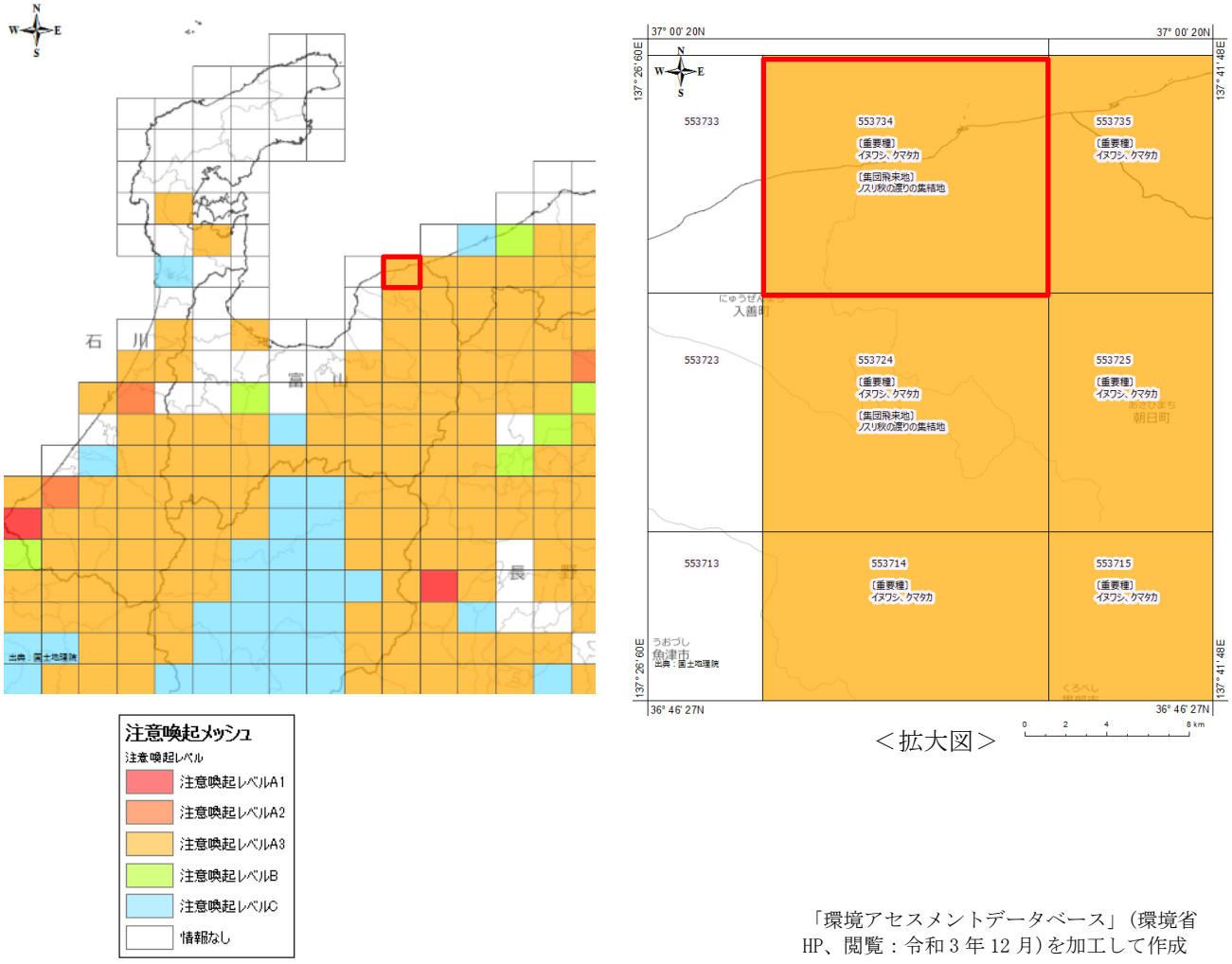
出典：「環境アセスメントデータベース」（環境省HP、閲覧：令和3年12月）

図 3.1-27　コハクチョウ・オオハクチョウの集結地（上図：コハクチョウ、下図：オオハクチョウ）

d. 風力発電における鳥類のセンシティビティマップにおける注意喚起メッシュ

「環境アセスメントデータベース」の情報に、「風力発電における鳥類のセンシティビティマップ　注意喚起メッシュ」が示されている（図 3.1-28）。

これによると、対象事業実施区域を含むメッシュは、「注意喚起レベル A3」に該当する。このメッシュでは、重要種のイヌワシ及びクマタカが確認されおり、またノスリの集団飛来地も確認されている。



＜拡大図＞

「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）を加工して作成

注：1. □：対象事業実施区域を含むメッシュ。
2. 2 次メッシュレベル（10km×10km）における観察情報に基づいたものである。
出典：「環境アセスメントデータベース　風力発電における鳥類のセンシティビティマップ」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 12 月）

図 3.1-28　風力発電における鳥類のセンシティビティマップにおける注意喚起メッシュ

参考【風力発電における鳥類のセンシティビティマップにおける注意喚起メッシュの作成方法】

①【重要種】

- バードストライクとの関連性が高い種や生息地の改変に鋭敏な種を 10 種選定し、それぞれ程度の高い方から 3、2、1 とランク付けしている(表 3.1-38)。
- 重要種が分布している 10km メッシュに重要種のランクを付け、10 種のメッシュを重ね合わせている。
  ※同一メッシュに複数の重要種が分布する場合には、最も大きいランクをそのメッシュに付けている。

表 3.1-38　対象とした重要種

ランク	該当種	選定理由
ランク 3	イヌワシ シマフクロウ チュウヒ オオヨシゴイ サンカノゴイ	・個体数が極小 ・個体数が少なく減少傾向 ・生息地が局所的で生息地の減少の影響が大きくかつ生息環境が特殊
ランク 2	オジロワシ	・国内でのバードストライクの事例が多い
ランク 1	クマタカ オオワシ タンチョウ コウノトリ	・事例が少ないもしくは関係が不明

②【集団飛来地】

- 集団飛来地の対象(表 3.1-39)

表 3.1-39　集団飛来地の対象

集団飛来地の対象
ガン類、ハクチョウ類、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、ツル類（ナベヅル・マナヅル）、 ウミネコの繁殖地、その他の水鳥類、海ワシ類及びその他の猛禽類

- 水鳥類については、はじめにラムサール条約湿地に指定されている場所の個体数データ（モニタリングサイト 1000 調査）を基に、分類群ごとに個体数の基準を 3、2、1 とランク付けしている。
- 海ワシ類は「2016 年のオオワシ・オジロワシ一斉調査結果について」（オジロワシ・オオワシ合同調査グループ、平成 28 年）の個体数データから、猛禽類は「平成 27 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書、風力発電施設立地適正化のための手引きに関する資料」（環境省自然環境局野生生物課、平成 28 年）の個体数データから、個体数の基準をランク付けしている。
- これらの基準を用いて、現地調査結果や文献による個体数データについて 10km メッシュごとにランク付けしている。
- なお、集団飛来地のヒアリング調査結果の情報があるメッシュは一律ランク 1 を、集団飛来地に関連するラムサール条約湿地及び国指定鳥獣保護区は一律ランク 3 を付けている。

③【重要種と集団飛来地の重ね合わせ】

- メッシュごとに重要種と集団飛来地のランクを合計して、メッシュのランクを決定している（図 3.1-29)。
- メッシュのランクに応じて、注意喚起レベルを決定している（表 3.1-40)。

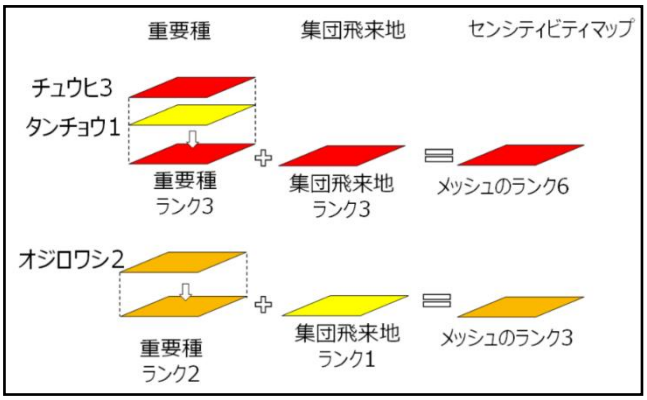


図 3.1-29　重要種と集団飛来地のメッシュの重ね合わせ

表 3.1-40　メッシュのランクと注意喚起レベル

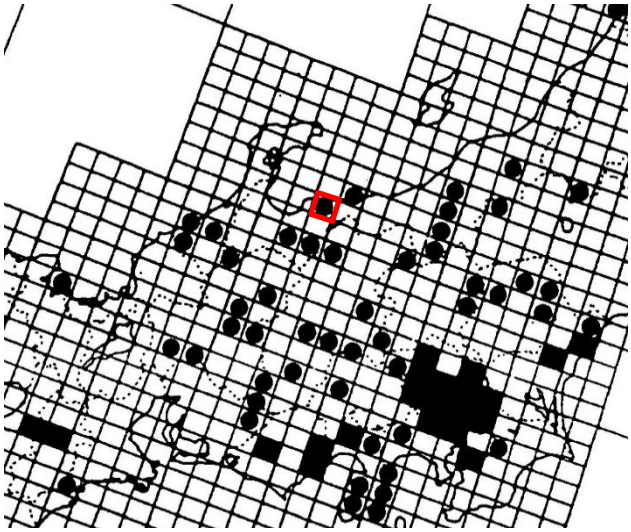
メッシュのランク	注意喚起レベル
6	A1
5	A2
3～4	A3
2	B
1	C
0	情報なし

出典：「環境アセスメントデータベース」（環境省 HP、閲覧:令和 3 年 12 月）

e. 集団繁殖地

「第 4 回自然環境保全基礎調査　動物分布調査報告書　鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら」（環境庁、平成 6 年）にイワツバメの集団繁殖地が示されている（図 3.1-30）。

これによるとイワツバメの集団繁殖地は朝日町笹川、小川元湯に存在し、対象事業実施区域及びその周囲に位置している。



注：1. □ :対象事業実施区域を含むメッシュ。
2. アンケート調査結果に基づいたものである。
出典：「第 4 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら」（環境庁、平成 6 年）

図 3.1-30　イワツバメの集団繁殖地

(2) 植物の生育状況

対象事業実施区域及びその周囲の朝日町及び入善町における植物の生育状況が記録されている文献を、表 3.1-41 に示す。

表 3.1-41　収集した文献（植物）

No.	文献名	植物相	植生	重要な種	重要な群落	巨樹・巨木林
1	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックとやま 2012」（富山県、平成 24 年）	○		○	○	
2	「富山県シダ植物チェックリスト」（富山市科学文化センター研究報告、平成 11 年）	○				
3	「自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査（第 2 回（昭和 53 年度調査）・第 3 回（昭和 59～61 年度調査）・第 5 回（平成 9～10 年度調査））」（環境省）				○	
4	「自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木林調査（第 4 回（昭和 63 年度調査）・第 6 回（平成 11～12 年度調査））」（環境省）					○
5	「自然環境保全基礎調査　植生調査（第 6 回(平成 11～16 年度調査)・第 7 回（平成 17～21 年度調査））」（環境省）		○		○	
6	「国指定文化財等データベース」（文化庁 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）				○	
7	「富山県植物誌」（大田弘、昭和 58 年）	○				
8	「富山県植物誌(1983)発行以降に富山県のフロラに加わった植物」（富山県生物学会誌、平成 8 年）	○				
9	「朝日町誌　自然編」（朝日町、昭和 59 年）	○				
10	「入善町史　資料編 1 自然・考古」（入善町、昭和 61 年）	○			○	
11	「入善町文化財一覧表」（入善町、令和 2 年）				○	
12	「『朝日町の指定文化財』一覧」（朝日町 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）				○	
13	「富山県 GIS サイト」（富山県 HP、閲覧：令和 3 年 5 月）				○	
14	「日本のシダ植物図鑑 1-6」（倉田悟・中池敏之、昭和 55 年～平成 2 年）	○				
15	「ユリ科植物分布資料（富山県関係）」（長井幸雄、平成 7 年）	○				
16	「富山県のイノデ類の分布」（大島哲夫・太田道人、富山市科学文化センター研究報告 14:93-110、平成 3 年）	○				
17	「大田弘植物コレクション」（太田道人、富山市科学文化センター収蔵資料目録第 8 号.247pp、平成 7 年）	○				
18	「富山県植物雑記(8)南保富士の植物相の概況」（長井幸雄、生物部会報 27 号:9-13、平成 16 年）	○				
19	「専門家提供データ」（令和 3 年 7 月受領）	○				
20	「サイエンスミュージアムネット」（独立行政法人国立科学博物館 HP（http://science-net.kahaku.go.jp/app/k/）、閲覧：令和 7 年 12 月）	○				
21	「富山県笹川流域の森林構造」（小倉恭子・福田由希子・堀田桃花・佐藤卓・松村勉・金子靖志・長谷川瑞穂、富山の生物 60.pp3-13、令和 3 年）	○				
22	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　―レッドデータブックとやま 2025―」（富山県、令和 7 年）	○		○		

1) 植物相

対象事業実施区域及びその周囲は富山県の北東端に位置し、北は日本海に面して、気候は概して比較的温暖であり多雨多雪であることを反映し、大部分が落葉広葉樹林帯に該当する。

文献により生育の情報が得られた植物は、表 3.1-42 に示す計 159 科 1,946 種（シダ植物以上の高等植物）であり、温帯上部に分布する種が多く確認されている他、高山性の種も生育している。

対象事業実施区域及びその周囲において、文献で記録されている種のうち代表的なものとしては、落葉広葉樹林帯の構成種であるミズナラ、ブナ、クリ等が見られる他、ヒメアオキ、ハイイヌガヤ等の日本海要素に属する種も確認されている。また、比較的温暖なこともあり、スダジイ、アカガシ、タブノキ、ヤブツバキ等の常緑樹林帯に属する種も確認されている。

表 3.1-42　文献による植物相の概況

分類群	確認種数	主な確認種
植物	159 科 1,946 種	ゼンマイ、キジノオシダ、ヤマイヌワラビ、ベニシダ、アカマツ、ヒノキ、ハイイヌガヤ、タブノキ、ショウジョウバカマ、エビネ、ノハナショウブ、シラスゲ、ナキリスゲ、トダシバ、キツネガヤ、メヒシバ、ススキ、センニンソウ、ネコノメソウ、ヤマハギ、クズ、フジ、ヤマザクラ、クリ、スダジイ、ブナ、アカガシ、ミズナラ、イヌコリヤナギ、タチツボスミレ、チョウジタデ、ヌルデ、サンショウ、タネツケバナ、ヤナギタデ、ミゾソバ、ウシハコベ、ウツギ、ヤブツバキ、オオバツツジ、ヒメアオキ、リンドウ、テイカカズラ、ヒヨドリジョウゴ、イボタノキ、オオバコ、シロネ、ヒメジソ、ホタルブクロ、ヨモギ、オオアレチノギク、ニガナ、タラノキ、ミツバ、セリ、ガマズミ、タニウツギ等

2) 植生

文献に基づく対象事業実施区域及びその周囲の現存植生図は図 3.1-31(1)～(2)に、植生自然度図は図 3.1-32(1)～(2)に示すとおりである。また、対象事業実施区域の植物群落等の一覧は表 3.1-43 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲の植生は、植林地のスギ・ヒノキ・サワラ植林のほか、ヤブツバキクラス域代償植生に属するユキグニミツバツツジーアカマツ群集やブナクラス域代償植生に属するオクチョウジザクラーコナラ群集、落葉広葉低木群落等が分布する。

対象事業実施区域は、スギ・ヒノキ・サワラ植林が大部分を占め、次いでユキグニミツバツツジーアカマツ群集やオクチョウジザクラーコナラ群集が散在する。

表 3.1-43 対象事業実施区域の植物群落等一覧

植生区分	図中 No.	群落名	面積（ha）
ブナクラス域自然植生	3	アカマツ群落（ＩＶ）	10.98
	4	チャボガヤーケヤキ群集	0.14
ブナクラス域代償植生	8	オクチョウジザクラーコナラ群集	18.46
	9	落葉広葉低木群落	13.68
	10	ススキ群団（Ⅴ）	7.92
	11	伐採跡地群落（Ⅴ）	13.05
ヤブツバキクラス域代償植生	15	ユキグニミツバツツジーアカマツ群集	28.82
植林地、耕作地植生	18	スギ・ヒノキ・サワラ植林	132.78
	23	路傍・空地雑草群落	0.56
	26	水田雑草群落	0.69
その他	28	市街地	0.18
	29	緑の多い住宅地	1.43
	30	工場地帯	1.80
	31	造成地	2.94
	33	自然裸地	0.19
合計			233.60

注：1.表中のNo.は、図 3.1-31(1)に示す番号である。
2.面積については、四捨五入による単位の繰上げにより、内数の数値の合計と合計欄の数値が異なる可能性がある。

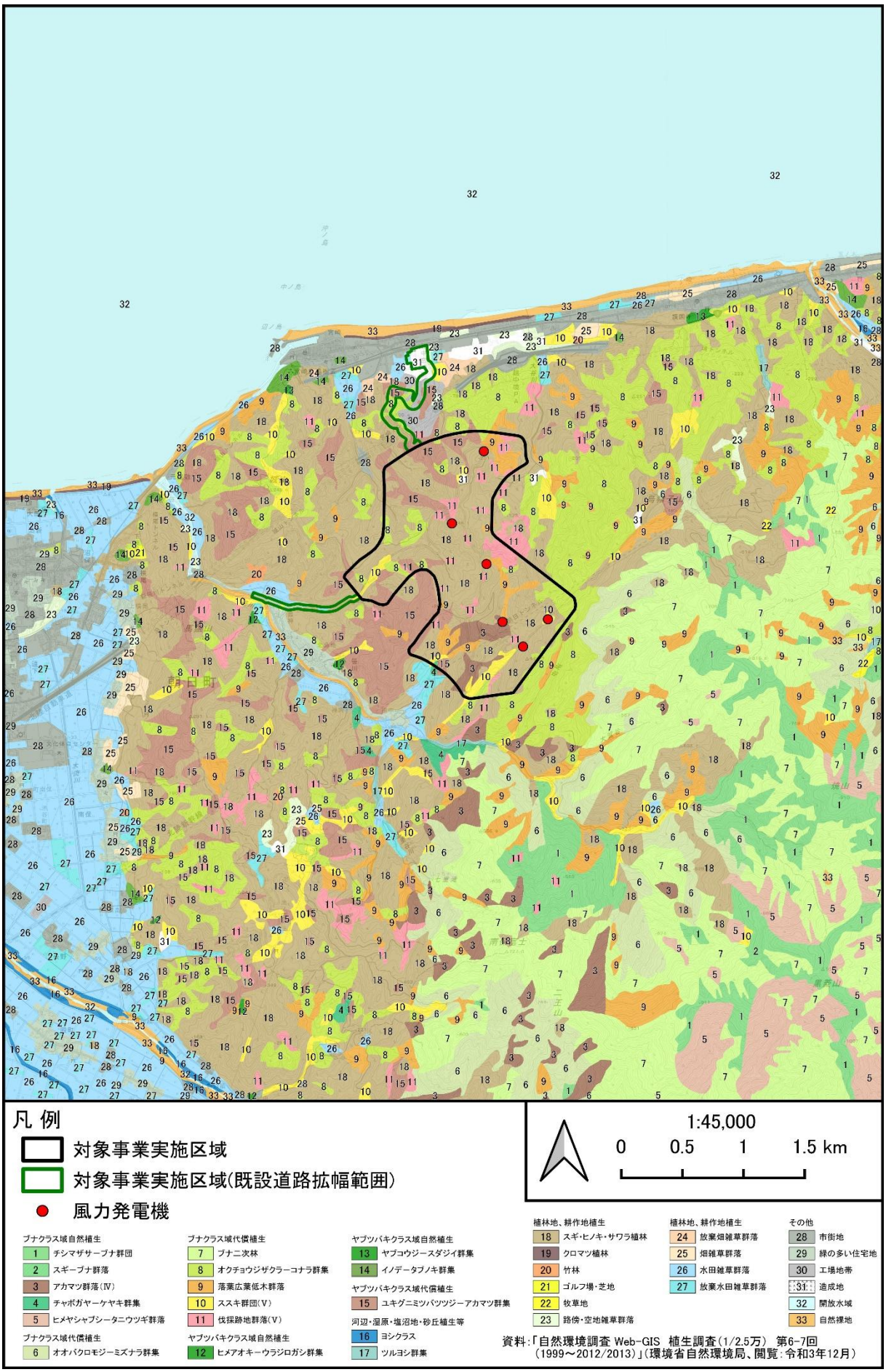


図 3.1-31(1) 現存植生図

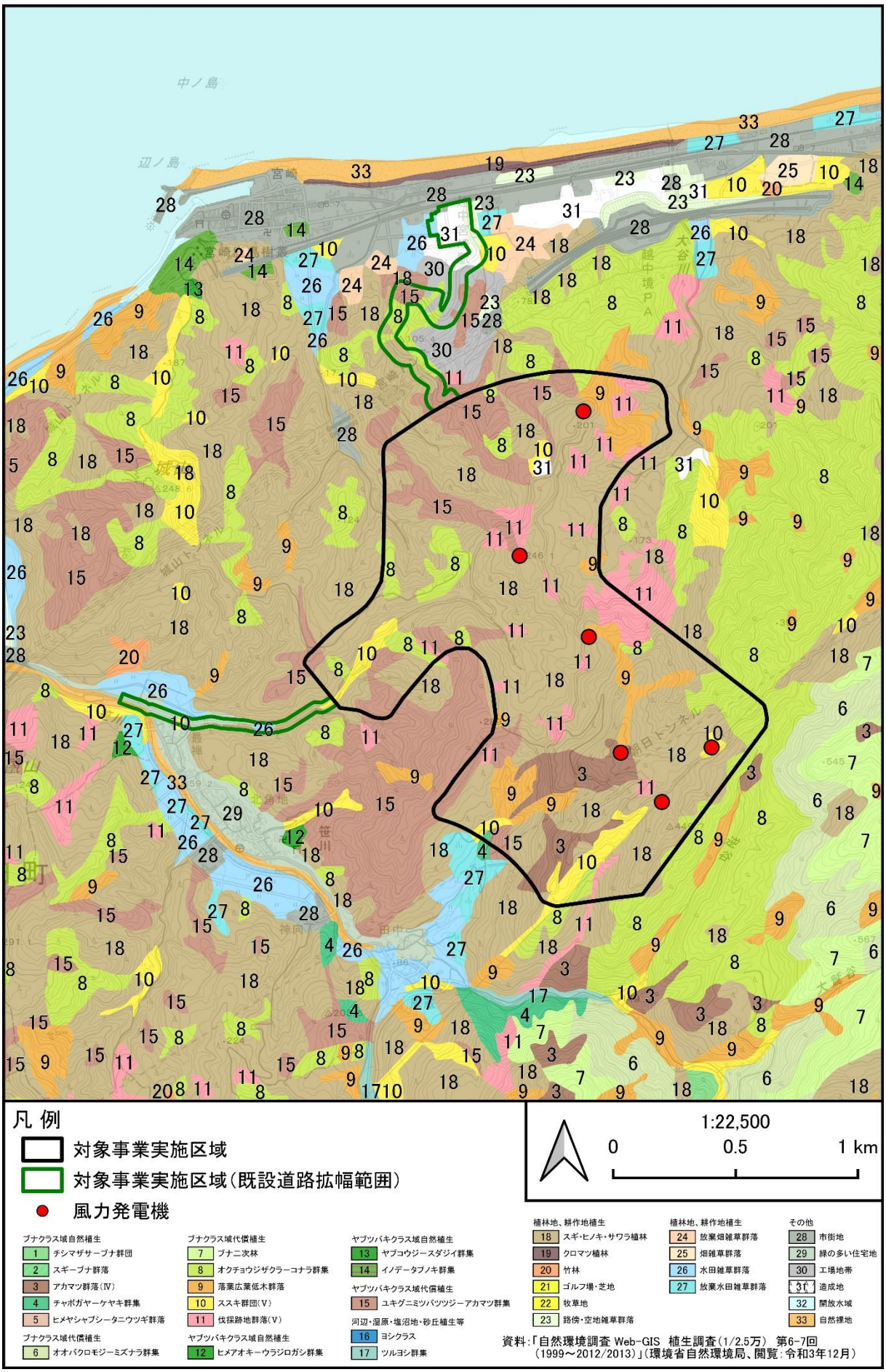


図 3.1-31(2)　現存植生図

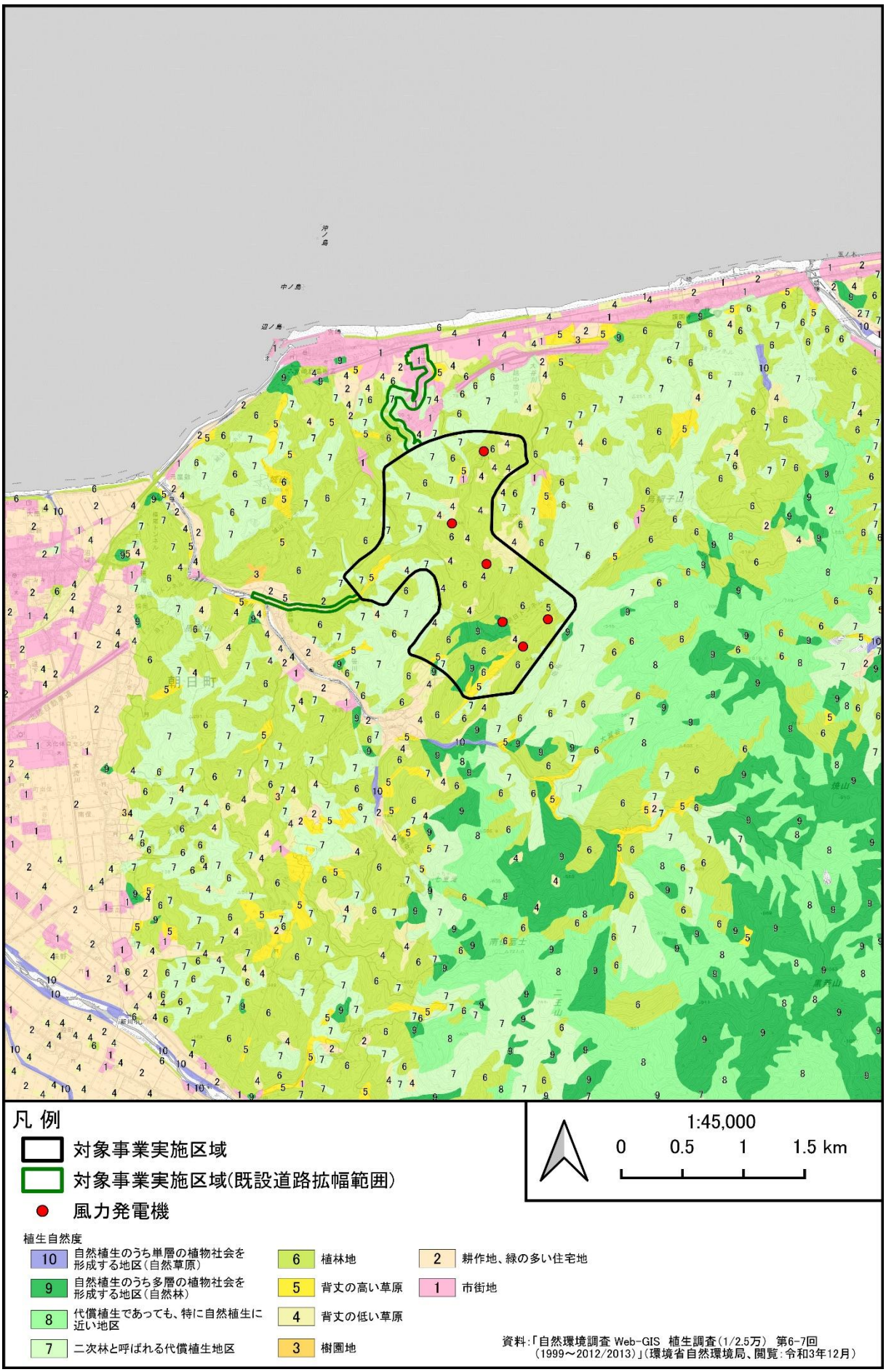


図 3.1-32(1) 植生自然度図

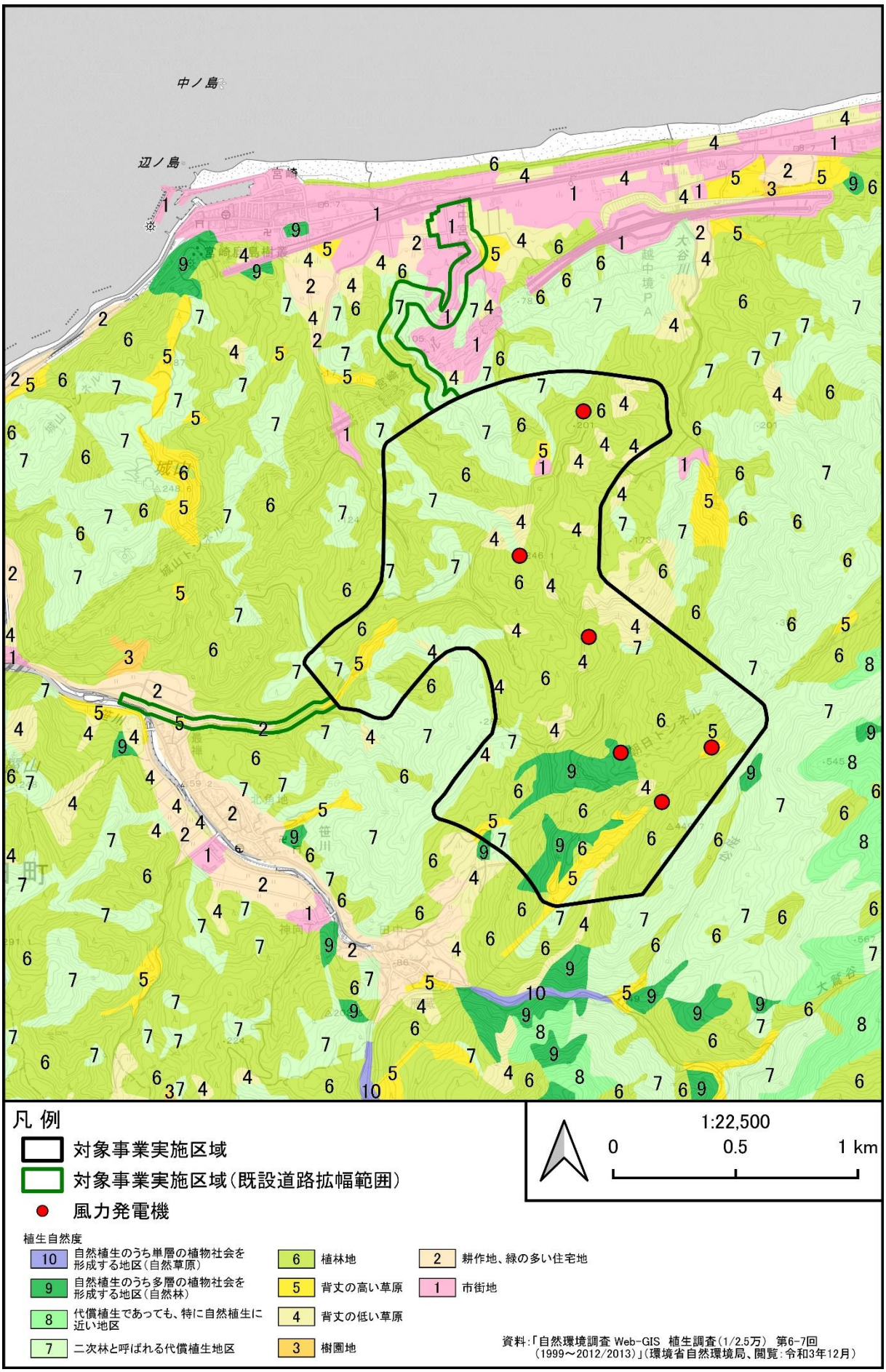


図 3.1-32(2)　植生自然度図

3) 重要な種及び重要な植物群落

① 重要な種

重要な種は、表 3.1-44 に示す基準に基づいて選定した。

既存資料により確認された植物のうち、表 3.1-44 に示す選定基準に該当する重要な種は、表 3.1-45 に示す 61 科 206 種である。

表 3.1-44　重要な種の選定基準（植物）

No.	選定基準	
Ⅰ	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「富山県文化財保護条例」 （昭和 38 年富山県条例第 11 号） 「朝日町文化財保護条例」 （昭和 63 年朝日町条例第 1 号） 「入善町文化財保護条例」 （昭和 37 年入善町条例第 15 号）	特別天然記念物（特天） 天然記念物（天然） 富山県天然記念物（県天） 朝日町天然記念物（町天） 入善町天然記念物（町天）
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 （平成 4 年法律第 75 号）	国際希少野生動植物種（国際） 国内希少野生動植物種（国内） 特定第一種国内希少野生動植物種（第一） 特定第二種国内希少野生動植物種（第二） 緊急指定種（緊急）
Ⅲ	「第 5 次レッドリスト」 （環境省、令和 7 年）	絶滅（EX） 野生絶滅（EW） 絶滅危惧 IA 類（CR） 絶滅危惧 IB 類（EN） 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 準絶滅危惧（NT） 情報不足（DD） 絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
Ⅳ	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物 富山県版レッドリスト 2025」 （富山県、令和 7 年）	絶滅+野生絶滅（EX+EW） 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 準絶滅危惧（NT） 情報不足（DD） 絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
Ⅴ	「富山県希少野生動植物保護条例」 （平成 26 年富山県条例第 47 号）	指定希少野生動植物（希少）

注：最右列の括弧内は、本図書で示す略号を示す。

表 3.1-45(1)　植物の重要な種

No.	科名	和名	選定基準					文献番号													
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	1	2	7	8	9	10	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1	ヒカゲノカズラ	チシマヒカゲノカズラ			EN			○	○	○		○										
2	ハナヤスリ	ヒメハナワラビ			VU	NT		○	○			○										
3		ヒロハハナヤスリ				NT		○				○										
4	サンショウモ	サンショウモ			NT	CR+EN		○														
5	ナヨシダ	ナヨシダ				NT		○	○													○
6	イワデンダ	トガクシデンダ				NT		○	○													
7	ウラボシ	アオネカズラ				EX+EW		○	○	○		○										○
8		クリハラン				EX+EW		○	○	○		○										○
9	スイレン	ヒツジグサ				VU				○		○										
10	ドクダミ	ハンゲショウ				VU						○										
11	ウマノスズクサ	ミヤマアオイ			VU	NT						○										
12	チシマゼキショウ	ハナゼキショウ				NT						○										
13	オモダカ	サジオモダカ				CR+EN		○		○												○
14		アギナシ			NT	VU		○		○		○	○									○
15	トチカガミ	スブタ			VU	NT		○		○										○		○
16		ヤナギスブタ				NT		○		○										○		
17		トチカガミ			NT	CR+EN		○														
18		ミズオオバコ			NT	NT		○		○												
19	ヒルムシロ	イトモ			NT	VU				○												
20		コバノヒルムシロ			VU					○												
21	サルトリイバラ	マルバサンキライ				NT		○														
22	ユリ	ヒメサユリ			NT	DD		○		○										○		○
23		ホトトギス				DD												○				
24	ラン	エビネ			NT	NT		○		○		○	○									○
25		キンセイラン			VU	VU		○														○
26		ナツエビネ			VU	CR+EN		○		○		○					○			○		
27		サルメンエビネ			VU	NT		○				○										
28		ギンラン				NT		○		○		○										○
29		キンラン			NT	VU		○		○		○							○			○
30		ヒナチドリ			VU	CR+EN		○														
31		コアツモリソウ			NT	CR+EN		○				○										
32		クマガイソウ			VU	VU		○		○		○							○	○		○
33		カキラン				NT		○		○		○	○									○
34		カモメラン			NT	CR+EN		○														
35		ベニシュスラン				CR+EN		○														
36		ヒメミヤマウズラ				VU				○		○										○
37		ミズトンボ			NT	CR+EN		○		○		○										○
38		ムヨウラン				VU		○														○
39		ホクリクムヨウラン				VU		○		○		○										○
40		ギボウシラン			VU	VU				○		○	○									○
41		セイタカスズムシソウ				VU		○		○			○									
42		スズムシソウ				CR+EN		○				○										
43		ホザキイチヨウラン				CR+EN		○														
44		アリドオシラン				VU		○														
45		ミヤマフタバラン				NT		○		○		○										○
46		タカネフタバラン				NT		○														
47		サギソウ			NT	CR+EN	○	○		○			○									○
48		タカネトンボ			VU	VU		○														○
49		ジンバイソウ				VU		○														○
50		ミズチドリ				CR+EN		○														

表 3.1-45(2)　植物の重要な種

No.	科名	和名	選定基準					文献番号													
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	1	2	7	8	9	10	14	15	16	17	18	19	20	21	22
51	ラン	シロウマチドリ			VU	NT		○		○		○										○
52		ツレサギソウ				VU		○		○		○										○
53		タカネサギソウ				VU		○														○
54		トキソウ			NT	VU		○														○
55		ヤマトキソウ				CR+EN		○														
56		ウチョウラン			NT	VU		○		○		○					○					○
57		ヒトツボクロ				VU		○				○										○
58	アヤメ	ノハナショウブ				NT		○		○		○	○									○
59		ヒメシャガ			NT	NT		○		○		○						○	○	○		○
60		カキツバタ			NT	VU		○														○
61	ミズアオイ	ミズアオイ			NT	NT		○														○
62	ガマ	ミクリ			NT					○		○	○									
63		ウキミクリ			VU			○		○		○										
64		ヒメミクリ			VU	NT		○		○			○									○
65	ホシクサ	クロホシクサ			NT	EX+EW		○		○												○
66	イグサ	ミヤマイ			NT					○		○										
67		イヌイ				EX+EW		○		○		○	○									○
68		ドロイ				NT		○		○												○
69		エゾノミクリゼキショウ			EN	NT		○														○
70		タカネイ			NT	CR+EN		○		○		○										○
71		クモマスズメノヒエ			NT					○		○										
72	カヤツリグサ	クロボスゲ				NT				○		○										○
73		タカネシバスゲ			EN	CR+EN		○		○		○										○
74		ホスゲ				NT		○		○		○										○
75		タカネヤガミスゲ			NT	NT		○			○	○										○
76		ダケスゲ			VU	NT				○		○										○
77		チャシバスゲ				NT				○		○								○		○
78		オタルスゲ				NT		○														○
79		カラフトイワスゲ			EN	VU		○														○
80		アシボソスゲ			NT					○		○										
81		タカネナルコ			VU	NT		○		○		○										
82		オノエスゲ			VU	VU		○		○		○										○
83		ヌイオスゲ			VU	VU		○		○		○										○
84		シロガヤツリ				DD		○		○		○										○
85		コアゼテンツキ				VU				○		○										
86		ノテンツキ				NT						○										○
87		ビロードテンツキ				CR+EN		○		○												○
88		ヒゲハリスゲ			NT	NT		○		○		○										○
89		シズイ				CR+EN		○														○
90		フトイ				VU				○		○										
91		タカネクロスゲ			VU	NT		○		○		○										○
92		コシンジュガヤ				VU		○			○											○
93	イネ	ユキクラヌカボ			VU	NT		○		○		○					○					○
94		ヒナザサ			NT	NT		○														○
95		オガルカヤ				VU				○		○										○
96		ヤマオオウシノケグサ			EN	NT		○		○		○										○
97		タカネソモソモ			VU	NT		○		○		○										○
98		ハイチゴザサ				NT						○										
99		カモノハシ				NT		○		○		○										○
100		タツノヒゲ				NT											○					○

表 3.1-45(3)　植物の重要な種

No.	科名	和名	選定基準					文献番号													
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	1	2	7	8	9	10	14	15	16	17	18	19	20	21	22
101	イネ	アワガエリ				EX+EW		○		○		○										
102		タカネタチイチゴツナギ			VU	VU		○		○		○										○
103		イトイチゴツナギ				NT		○														○
104		ヒゲナガコメススキ		国内	EN	CR+EN		○		○												○
105		ミヤマカニツリ			VU	NT		○		○		○										○
106		チシマカニツリ				NT		○		○		○										○
107		リシリカニツリ			VU	NT		○		○		○										○
108		スナシバ				NT		○														○
109	メギ	トガクシソウ			NT	CR+EN		○		○		○										○
110	キンポウゲ	アズマイチゲ				NT				○		○										○
111		ハンショウヅル				CR+EN				○		○										○
112		シラネアオイ				NT		○		○		○					○					○
113		ミスミソウ			NT	NT						○										
114		オキナグサ			NT	CR+EN		○		○												○
115		ツクモグサ			EN	NT		○		○		○										○
116		ノカラマツ			VU	CR+EN				○												
117	ボタン	ヤマシャクヤク			NT	CR+EN		○		○		○							○			○
118	スグリ	ヤシャビシャク			NT	NT		○		○		○										○
119	ユキノシタ	ムカゴユキノシタ				VU		○		○												○
120	ベンケイソウ	アオベンケイ				CR+EN		○		○		○										○
121	マメ	リシリオウギ			VU	NT		○		○		○										○
122		イヌハギ			NT	VU		○		○		○										○
123		センダイハギ				EX+EW		○		○												○
124	ヒメハギ	ヒメハギ				NT				○		○										○
125	クロウメモドキ	ヨコグラノキ				VU		○		○		○										○
126	イラクサ	トキホコリ			NT							○										
127	バラ	ハゴロモグサ			NT	NT		○		○		○										○
128		ウラジロキンバイ			VU	NT		○		○		○										○
129		ハマナス				VU		○														○
130	トウダイグサ	ノウルシ			NT	CR+EN						○										
131	スミレ	タカネスミレ			NT					○		○										
132		イソスミレ			VU	CR+EN		○		○		○										
133		アナマスミレ				CR+EN		○														○
134		アカネスミレ				VU		○									○					○
135	ミソハギ	ミズキカシグサ			NT	CR+EN				○		○										
136	アカバナ	ホソバアカバナ				NT						○										
137	ムクロジ	カジカエデ				NT		○		○												○
138	アブラナ	クモイナズナ			VU	NT		○		○		○										○
139		ミズタガラシ				VU		○		○		○										○
140		クモマナズナ			VU	VU				○		○										○
141		トガクシナズナ			EN			○		○		○										
142		シロウマナズナ			EN	NT		○		○		○										○
143	タデ	ホソバノウナギツカミ				NT		○														○
144	ナデシコ	オオヤマフスマ				EX+EW		○														
145		タカネミミナグサ			VU	NT				○		○										
146		チシマツメクサ			CR	NT		○				○										○
147		カンチヤチハコベ			CR	CR+EN		○		○		○										
148		シコタンハコベ			VU	NT		○		○		○										○
149	ヒユ	ハマアカザ				CR+EN		○				○										
150	ハナシノブ	ミヤマハナシノブ			VU	VU		○		○												○

表 3.1-45(4)　植物の重要な種

No.	科名	和名	選定基準					文献番号													
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	1	2	7	8	9	10	14	15	16	17	18	19	20	21	22
151	ツツジ	チシマツガザクラ			VU					○		○										
152		シャクジョウソウ				NT		○												○		○
153		アセビ				EX+EW		○														
154		レンゲツツジ				NT				○		○										○
155		チョウジコメツツジ				NT		○														
156	リンドウ	ヒナリンドウ			CR					○												
157		シロウマリンドウ			NT	NT		○		○		○										○
158		オノエリンドウ			EN	VU		○		○		○										○
159		ハナイカリ				NT		○				○										○
160	マチン	ヒメナエ			VU					○			○									
161	キョウチクトウ	フナバラソウ			NT	EX+EW		○		○		○										○
162		スズサイコ			NT	EX+EW		○		○		○										○
163	ヒルガオ	マメダオシ			EN	EX+EW		○		○		○										
164	ナス	マルバノホロシ				NT				○		○										○
165		オオマルバノホロシ				NT		○		○												○
166	ムラサキ	スナビキソウ				VU		○		○		○										○
167	オオバコ	マルバノサワトウガラシ			NT	NT		○		○												
168		アブノメ				VU		○		○												○
169		オオアブノメ			VU	EX+EW		○		○												○
170		ウルップソウ			NT					○		○										
171		シソクサ				VU		○		○		○										○
172		グンバイヅル			VU							○										
173		エチゴトラノオ				VU		○		○		○										○
174		カワヂシャ			NT	VU		○		○												○
175	シソ	メハジキ				NT						○										○
176		ヒメナミキ				VU		○		○		○										○
177		デワノタツナミソウ				NT						○										
178		ナミキソウ				NT		○		○		○										○
179	ハエドクソウ	スズメノハコベ				VU		○														○
180	ハマウツボ	オニク				CR+EN		○		○		○										○
181		ハマウツボ			VU	VU		○		○		○										○
182		オニシオガマ				NT		○		○		○										○
183	タヌキモ	ノタヌキモ			VU	CR+EN				○			○									
184		イヌタヌキモ			NT	NT						○										○
185		ミミカキグサ				CR+EN		○		○		○	○									
186		ホザキノミミカキグサ				CR+EN		○		○		○										○
187		ムラサキミミカキグサ			NT	CR+EN		○		○		○	○									○
188	キキョウ	サワギキョウ				VU				○		○	○									○
189		キキョウ			NT	CR+EN		○		○		○										○
190		ヒナギキョウ				EX+EW		○		○												○
191	ミツガシワ	ガガブタ			NT	CR+EN		○														
192		アサザ			NT	CR+EN		○														
193	キク	タカサブロウ				VU				○		○										
194		フジバカマ			NT					○												
195		オグルマ				VU				○		○	○									○
196		オオニガナ				NT		○		○		○	○									○
197		アキノハハコグサ			EN	VU		○			○											○
198		サワオグルマ				NT				○												
199		タカネコウリンカ			NT	NT		○				○										○
200		オナモミ			VU	VU				○		○										

表 3.1-45(5)　植物の重要な種

No.	科名	和名	選定基準					文献番号														
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	1	2	7	8	9	10	14	15	16	17	18	19	20	21	22
201	セリ	ミシマサイコ			VU	EX+EW		○		○												○
202		ムカゴニンジン				NT		○		○		○										○
203	スイカズラ	ナベナ				VU		○		○		○										○
204		クロミノウグイスカグラ				VU		○														○
205		チシマヒョウタンボク			VU							○										
206		オミナエシ				VU		○		○		○										○
計	61 科	206 種	0 種	1 種	107 種	189 種	1 種	154 種	6 種	137 種	3 種	130 種	17 種	0 種	0 種	0 種	6 種	2 種	4 種	8 種	0 種	134 種

注:1.種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和7年度版)」（国土交通省、令和7年）に準拠した。
　2.選定基準は、表 3.1-44 に示す通し番号である。

② 重要な植物群落

重要な植物群落は、表 3.1-46 に示す基準に基づいて選定した。

既存資料によると、対象事業実施区域及びその周辺には重要な群落として、「宮崎鹿島樹叢」が存在するが、対象事業実施区域外の北西側にあり、対象事業実施区域には存在しない。また、調査地域内には、植生自然度 9 以上の植物群落が分布する。（表 3.1-47 及び図 3.1-33）。

表 3.1-46　重要な植物群落の選定基準

No.	選定基準	
Ⅰ	「文化財保護法」 (昭和 25 年法律第 214 号) 「富山県文化財保護条例」 (昭和 38 年富山県条例第 11 号) 「朝日町文化財保護条例」 (昭和 63 年朝日町条例第 1 号) 「入善町文化財保護条例」 (昭和 37 年入善町条例第 15 号)	特別天然記念物（特天） 天然記念物（天然） 富山県天然記念物（県天） 朝日町天然記念物（町天） 入善町天然記念物（町天）
Ⅱ	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま 2012」 (富山県、平成 24 年)	A 原生林もしくはそれに近い自然林 B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H その他、学術上重要な植物群落または個体群
Ⅲ	「自然環境保全基礎調査特定植物群落調査」 (第 2 回（昭和 53 年度調査)・第 3 回（昭和 59～61 年度調査)・第 5 回（平成 9～10 年度調査))（環境省）	A 原生林もしくはそれに近い自然林 B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H その他、学術上重要な植物群落または個体群
Ⅳ	「植物群落レッドデータ・ブック」 (わが国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会、平成 8 年)	ランク 1 要注意 ランク 2 破壊の危惧 ランク 3 対策必要 ランク 4 緊急に対策必要
Ⅴ	「自然環境保全基礎調査 植生調査（1/25,000 縮尺)」(環境省)	植生自然度 10 の自然草原 植生自然度 9 の自然林

注:カテゴリーの括弧内は、本図書で示す略号を示す。

表 3.1-47　重要な植物群落

重要な群落	選定基準				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
宮崎鹿島樹叢	○ 天然	○ A	○ A	ランク 1	
自然草原（植生自然度 10） （ヨシクラス、ツルヨシ群集）					○
自然林（植生自然度 9） （チシマザサ - ブナ群団、アカマツ群落、チャボガヤ - ケヤキ群集、ヒメヤシャブシ - タニウツギ群落、ヒメアオキ - ウラジロガシ群集、ヤブコウジ - スダジイ群集、イノデ - タブノキ群集、）					○

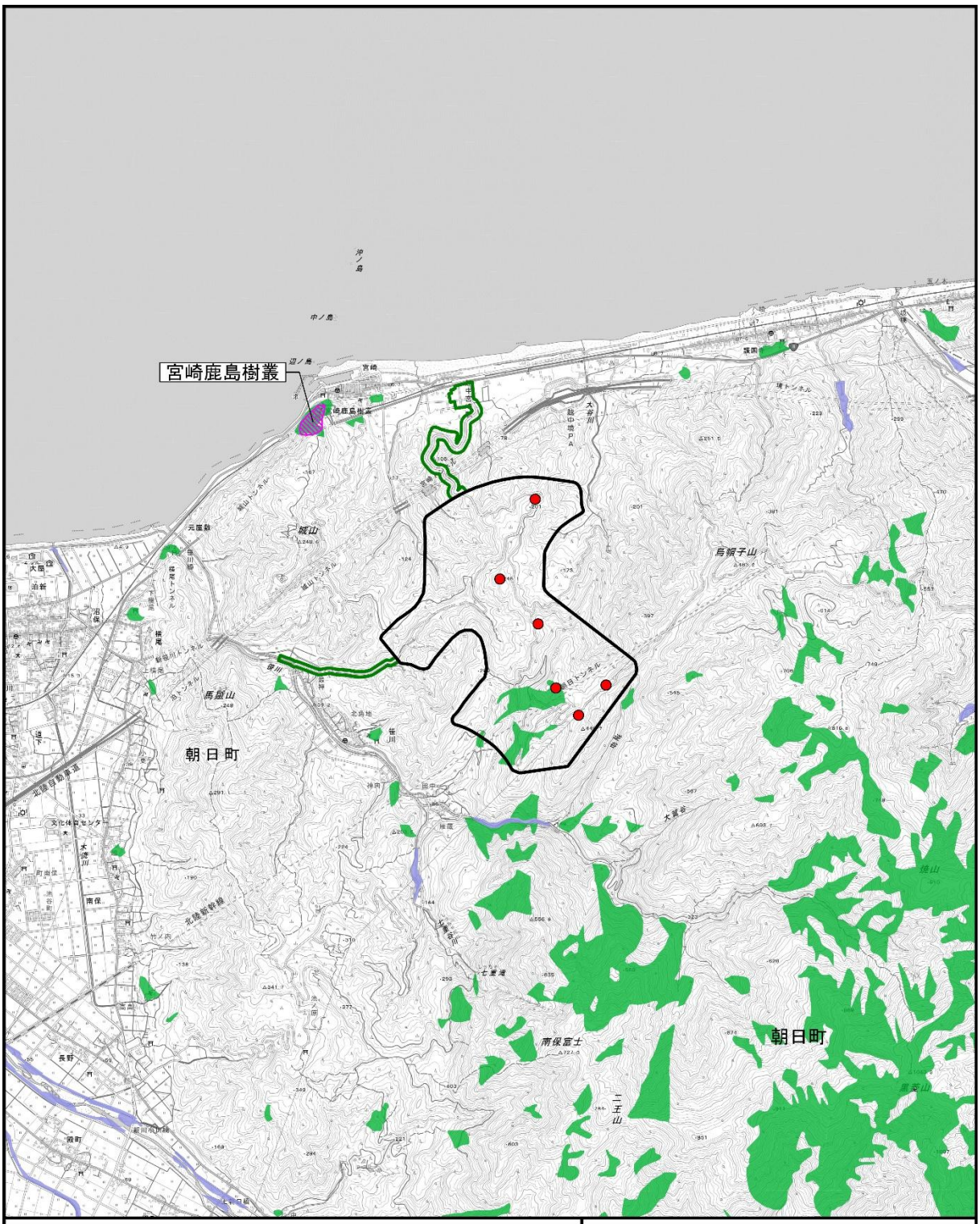


図 3.1-33 重要な植物群落

4) 巨樹・巨木林

巨樹・巨木林は、表 3.1-48 に示す基準に基づいて選定した。

既存資料によると、対象事業実施区域及びその周囲には表 3.1-49 及び図 3.1-34 に示す巨樹・巨木林が存在しているが、対象事業実施区域には巨樹・巨木林は存在しない。

表 3.1-48　巨樹・巨木林の選定基準

No.	選定基準
I	「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査（第 4 回（昭和 63 年度調査）・第 6 回（平成 11～12 年度調査））」（環境省）

表 3.1-49　巨樹・巨木林

No.	所在地	樹種	区分	幹周（cm）	樹高（m）
1	横尾	タブノキ	単木	612	14
2	清水寺	エドヒガン	単木	550	23
		アカマツ	単木	310	13
3	常光寺	ケヤキ	単木	610	25

資料：「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査 第 4 回（昭和 63 年度調査）」（環境省）
「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査 第 6 回（平成 11～12 年度調査）」（環境省）

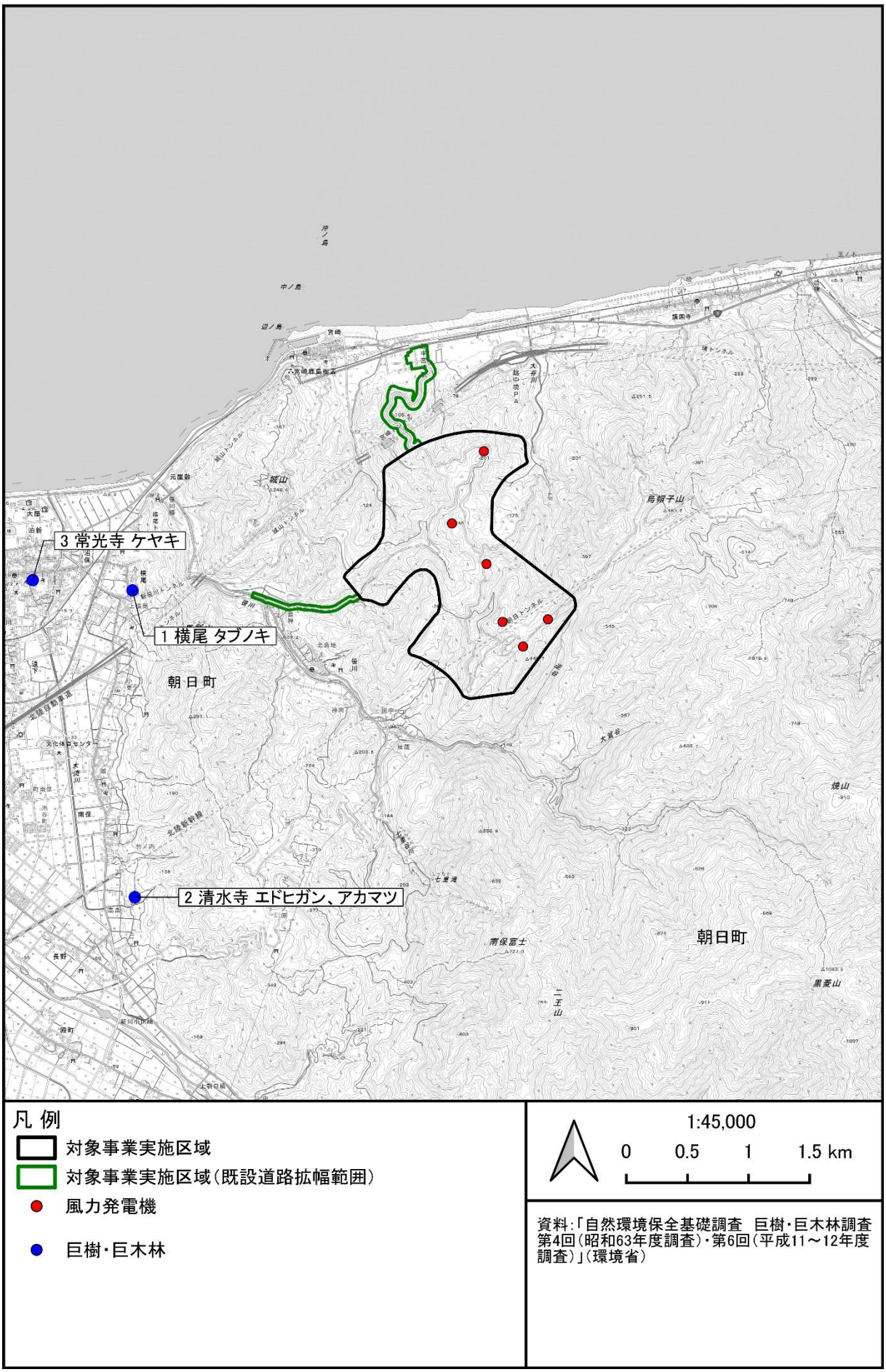


図 3.1-34 巨樹・巨木林の位置

(3) 生態系の状況

対象事業実施区域及びその周囲における生態系の状況が記録されている文献を、表 3.1-50 に示す。

表 3.1-50　収集した文献（生態系）

No.	文献名
1	「自然環境保全基礎調査 植生調査（第 6 回（平成 11-16 年度調査）・第 7 回（平成 17 年度～21 年度調査））」（環境省）
2	「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査（第 2 回（昭和 53 年度調査）・第 3 回（昭和 59～61 年度調査）・第 5 回（平成 9～10 年度調査））」（環境省）
3	「国指定文化財等データベース」（文化庁 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
4	「とやま学遊ネット」（富山県 HP、閲覧: 令和 7 年 12 月）
5	「『朝日町の指定文化財』一覧」（朝日町 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
6	「入善町文化財一覧表」（入善町、令和 2 年）
7	「富山県 GIS サイト」（富山県 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
8	「都市緑化データベース」（国土交通省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
9	「鳥獣保護区の指定状況」（環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
10	「令和 7 年度富山県鳥獣保護区等位置図」（富山県、令和 7 年度）
11	「生息地等保護区一覧」（環境省 HP、閲覧: 令和 7 年 12 月）
12	「ラムサール条約と条約湿地」（環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）
13	「国土数値情報　森林地域データ」（国土交通省、データ作成：平成 27 年度）
14	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま 2012」（富山県、平成 24 年）
15	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省 HP、閲覧: 令和 7 年 12 月）
16	「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省 HP、閲覧: 令和 7 年 12 月）
17	「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査（第 4 回（昭和 63 年度調査）・第 6 回（平成 11～12 年度調査））」（環境省）
18	「モニタリングサイト 1000（森林・草原）」（環境省 HP、閲覧：令和 7 年 12 月）

1) 生態系の概況

生態系は、環境類型とそれを形成する植物群落に応じ形成されている。対象事業実施区及びその周囲の生態系は、広葉樹林、針葉樹林、草地・耕作地等、住宅地等、開放水域の環境類型に区分される（表 3.1-51)。山地には主に広葉樹林と針葉樹林が分布している。その他草地・耕作地等が点在し、海岸沿いや対象事業実施区の西側の河川沿いには住宅地等が分布している（図 3.1-35)。

対象事業実施区域は、スギ・ヒノキ・サワラ植林が大部分を占め、次いでユキグニミツバツツジーアカマツ群集やオクチョウジザクラーコナラ群集が散在する。(表 3.1-52)。

表 3.1-51　環境類型区分の概要

環境類型区分	植物群落等
広葉樹林	チシマザサーブナ群団、スギーブナ群落、チャボガヤーケヤキ群集、ヒメヤシャブシータニウツギ群落、オオバクロモジーミズナラ群集、ブナ二次林、オクチョウジザクラーコナラ群集、オニグルミ群落(V)、落葉広葉低木群落、ヒメアオキーウラジロガシ群集、ヤブコウジースダジイ群集、イノデータブノキ群集、その他植林、竹林
針葉樹林	アカマツ群落（ＩＶ)、ユキグニミツバツツジーアカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クロマツ植林
草地・耕作地等	ススキ群団（V)、伐採跡地群落（V)、ヨシクラス、ツルヨシ群集、ゴルフ場・芝地、牧草地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落、放棄水田雑草群落、自然裸地
住宅地等	市街地、緑の多い住宅地、工場地帯、造成地
開放水域	開放水域

注：下線は、対象事業実施区域に分布している群落等を示す。

表 3.1-52　対象事業実施区域の環境類型区分とその面積

環境類型区分	群落名	面積（ha)
広葉樹林	チャボガヤーケヤキ群集	0.14
	オクチョウジザクラーコナラ群集	18.46
	落葉広葉低木群落	13.68
針葉樹林	アカマツ群落（ＩＶ）	10.98
	ユキグニミツバツツジーアカマツ群集	28.82
	スギ・ヒノキ・サワラ植林	132.78
草地・耕作地等	ススキ群団（V）	7.92
	伐採跡地群落（V）	13.05
	路傍・空地雑草群落	0.56
	水田雑草群落	0.69
	自然裸地	0.19
住宅地等	市街地	0.18
	緑の多い住宅地	1.43
	工場地帯	1.80
	造成地	2.94
合計		233.60

注：面積については、四捨五入による単位の繰上げにより、内数の数値の合計と合計欄の数値が異なる可能性がある。

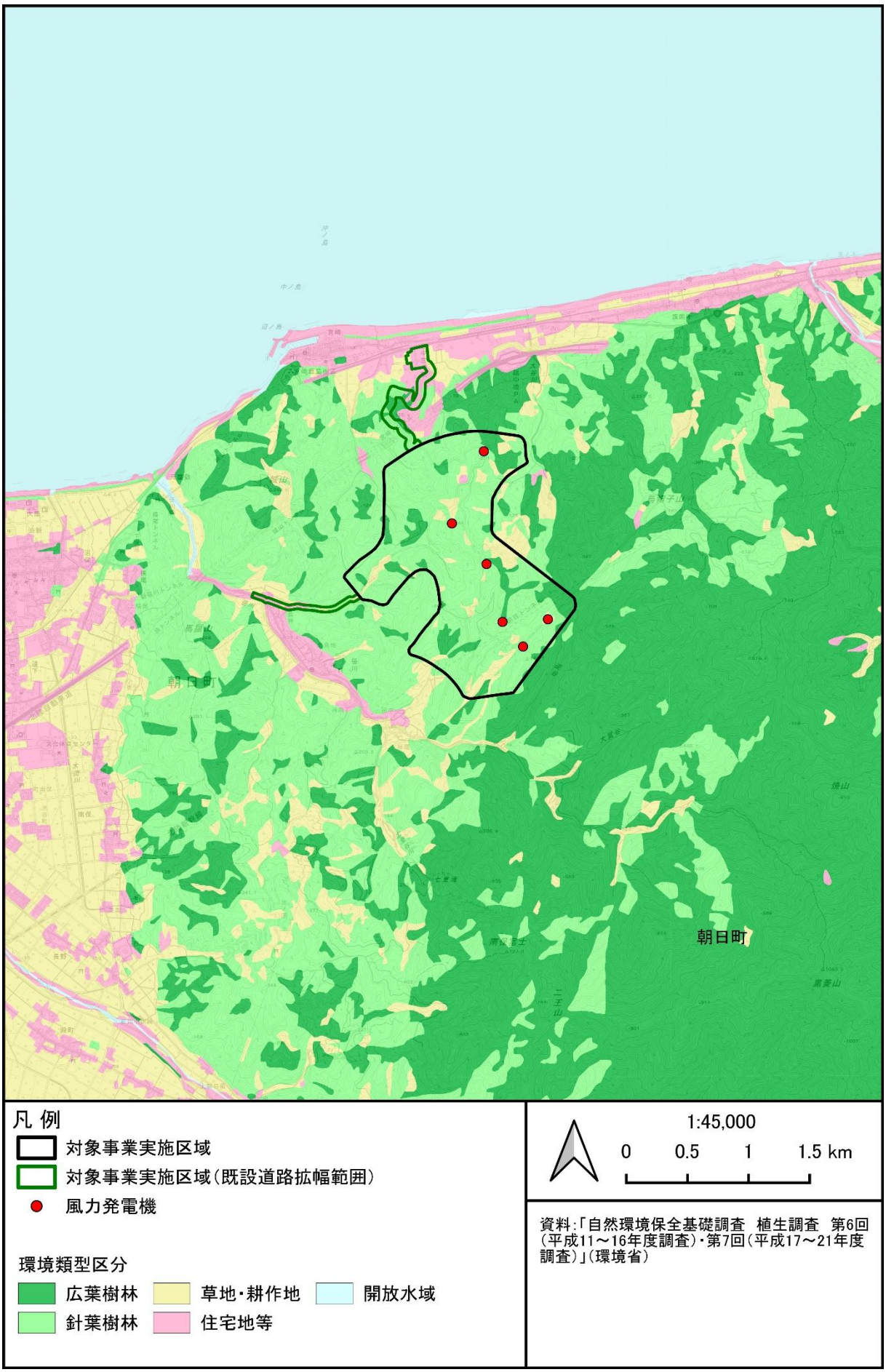


図 3.1-35 環境類型区分

2) 重要な自然環境のまとまりの場

対象事業実施区及びその周囲における重要な自然環境のまとまりの場については、表 3.1-53 に示す考え方に基づき、表 3.1-54 に示す選定基準により抽出した。

表 3.1-53　重要な自然環境のまとまりの場の抽出の考え方

地域特性	内　容
環境影響を受けやすい場	・自然林、湿原、湧水、藻場、干潟、サンゴ群集、自然海岸等の人為的な改変をほとんど受けていない自然環境又は野生生物の重要な生息・生育の場 ・運河、内湾等の閉鎖性水域 等
環境保全の観点から法令等により指定された場	・文化財保護法に基づき指定された天然記念物 ・自然公園（国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園）の区域 ・原生自然環境保全地域、自然環境保全地域 ・緑地保全地域（都市緑地法） ・特別緑地保全地区（都市緑地法） ・鳥獣保護区、ラムサール条約に基づく登録簿に掲載された湿地 ・保安林等の地域において重要な機能を有する自然環境 等
法令等により指定されていないが地域により注目されている場	・里地里山（二次林、人工林、農地、ため池、草原等）並びに河川沿いの氾濫原の湿地帯及び河畔林等のうち、減少又は劣化しつつある自然環境 ・都市に残存する樹林地及び緑地（斜面林、社寺林、屋敷林等）並びに水辺地等のうち、地域を特徴づける重要な自然環境 ・地域で認められている魚類の産卵場等である浅海域 等

表 3.1-54　重要な自然環境のまとまりの場の選定基準

No.	選定基準	
Ⅰ	「自然環境保全基礎調査　植生調査（1/25,000 縮尺)」（環境省）	植生自然度 10 の自然草原（草） 植生自然度 9 の自然林（林）
Ⅱ	「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」（環境省）	特定植物群落（特植）
Ⅲ	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「富山県文化財保護条例」（昭和 38 年富山県条例第 11 号） 「朝日町文化財保護条例」（昭和 63 年朝日町条例第 1 号） 「入善町文化財保護条例」（昭和 37 年入善町条例第 15 号）	特別天然記念物（特天） 天然記念物（天然） 富山県天然記念物（県天） 朝日町天然記念物（町天） 入善町天然記念物（町天）
Ⅳ	「自然公園法」（昭和 32 年法律第 161 号） 「富山県立自然公園条例」（昭和 46 年富山県条例第 4 号）	国立公園（国立） 国定公園（国定） 県立自然公園（県）
Ⅴ	「自然環境保全法」（昭和 47 年法律第 85 号） 「富山県自然環境保全条例」（昭和 47 年富山県条例第 39 号）	原生自然環境保全地域（原） 自然環境保全地域（自） 富山県自然環境保全地域（県自）
Ⅵ	「都市緑地法」（昭和 48 年法律第 72 号）	緑地保全地域（緑） 特別緑地保全地区（特）
Ⅶ	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号） 「富山県鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律施行規則」（平成 15 年富山県規則第 43 号）	鳥獣保護区（鳥） 特別保護地区（特） 特別保護指定区域（特指） 富山県鳥獣保護区(県鳥)
Ⅷ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）	生息地等保護区（生）
Ⅸ	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約)」（昭和 55 年条約第 28 号）	ラムサール条約湿地（ラ）
Ⅹ	「保安林制度」（林野庁 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）	保安林（保）
ⅩⅠ	「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックとやま 2012」（富山県、平成 24 年）	特定植物群落（県植）
ⅩⅡ	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）	重要湿地（湿）
ⅩⅢ	「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）	重要里地里山（里）
ⅩⅣ	「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査（第 4 回（昭和 63 年度調査)・第 6 回（平成 11～12 年度調査))」（環境省）	巨樹・巨木林のうち樹林（巨）
ⅩⅤ	「モニタリングサイト 1000（森林・草原)」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）	コアサイト・準コアサイト（コア）

注：最右列の括弧内は、本図書で示す略号を示す。

対象事業実施区域及びその周囲における重要な自然環境のまとまりの場は表 3.1-55 及び図 3.1-36(1)～(2)に示すとおりである。

対象事業実施区域には植生自然度 9 の自然林が存在しているほか、富山県立自然公園条例による朝日県立自然公園（第 3 種特別地域及び普通地域）が分布している。対象事業実施区域の周囲には特定植物群落、国指定天然記念物及び富山県の特定植物群落に指定されている宮崎鹿島樹叢が存在している。また、富山県の鳥獣保護区の城山鳥獣保護区、保安林制度による保安林が存在するほか、海域の富山湾は重要湿地に登録されている。

表 3.1-55　重要な自然環境のまとまりの場

区分	名称等	選定基準								概要
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅶ	Ⅹ	ⅩⅠ	ⅩⅡ	
植生自然度	植生自然度 10 の自然草原	○草								対象事業実施区域の周囲にはツルヨシ群集が分布している。
	植生自然度 9 の自然林	○林								対象事業実施区域内にアカマツ群落、対象事業実施区域の周囲にアカマツ群落、チャボガヤ - ケヤキ群集が分布している。
特定植物群落	宮崎鹿島樹叢		○特植	○天然				○県植		温暖帯の巨樹がうっそうと茂る原始林であり、日本海沿岸の暖温性樹叢の北限である。
鳥獣保護区	城山鳥獣保護区					○県鳥				対象事業実施区域の北側に城山鳥獣保護区が存在している。
自然公園	朝日県立自然公園				○県					宮崎・境海岸から、城山、黒部川支流の北又谷にいたる変化に富んだ公園である。
保安林	保安林						○保			対象事業実施区域及びその周囲に保安林が存在している。
重要湿地	富山湾								○湿	海草・海藻のガラモ場を有しており、貴重な種の生育地となっている。

注：選定基準は、表 3.1-54 に示す通し番号である。補足として以下に選定基準と略号を示す。なお、該当するものがなかった選定基準は表中に示していない。

Ⅰ：「自然環境保全基礎調査 植生調査（1/25,000 縮尺）」（環境省）
　草：植生自然度 10 の自然草原
　林：植生自然度 9 の自然林

Ⅱ：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」（環境省）
　特植：特定植物群落

Ⅲ：「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）
　天然：天然記念物

Ⅳ：「富山県立自然公園条例」（昭和 46 年条例第 4 号）
　県：県立自然公園

Ⅶ：「富山県鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律施行規則」（平成 15 年規則第 43 号）
　県鳥：富山県鳥獣保護区

Ⅹ：「保安林制度」（林野庁）
　保：保安林

ⅩⅠ：「富山県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックとやま 2012」（富山県、平成 24 年）
　県植：特定植物群落

ⅩⅡ：「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省）
　湿：重要湿地

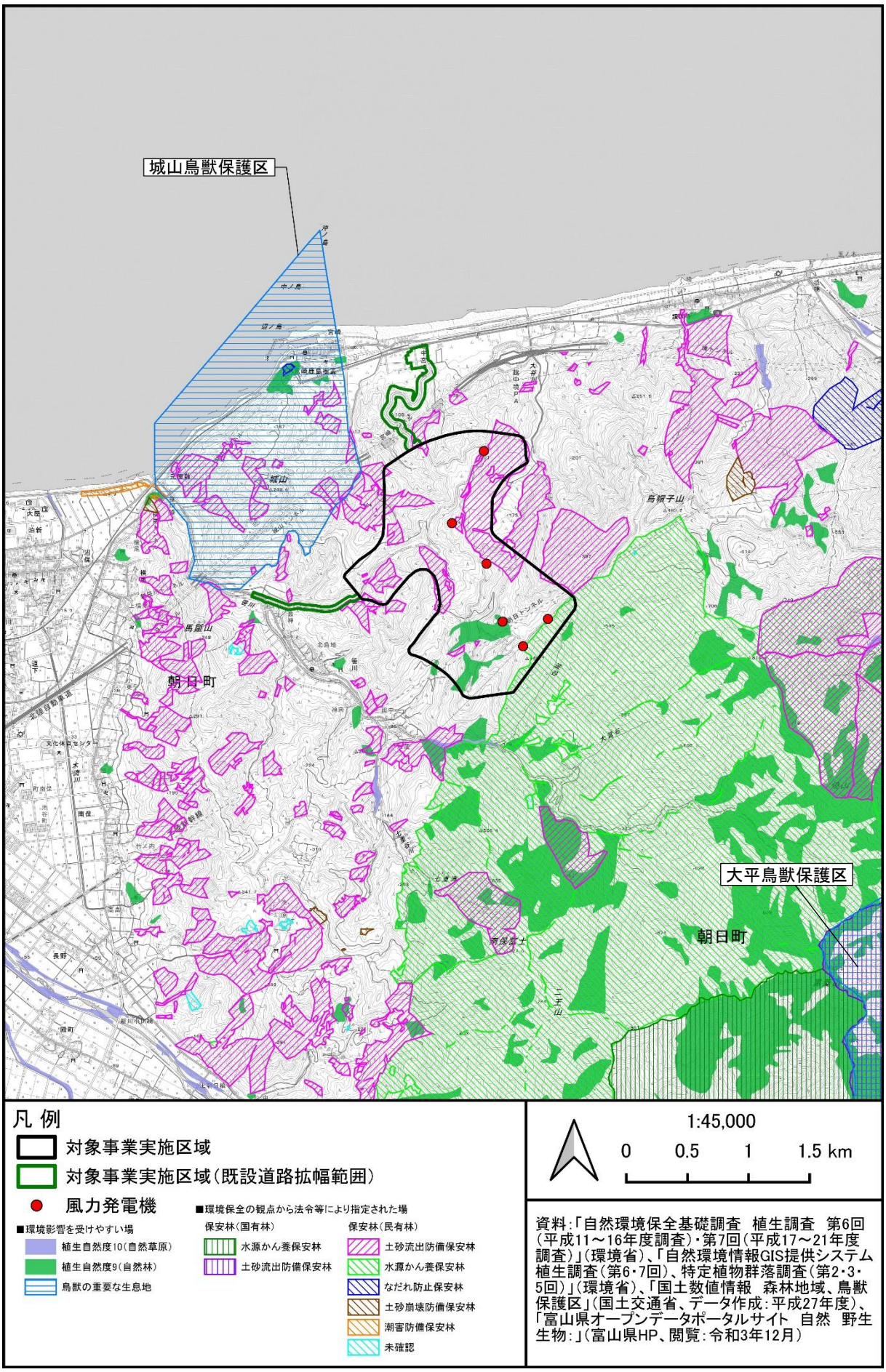


図 3.1-36(1) 重要な自然環境のまとまりの場の位置

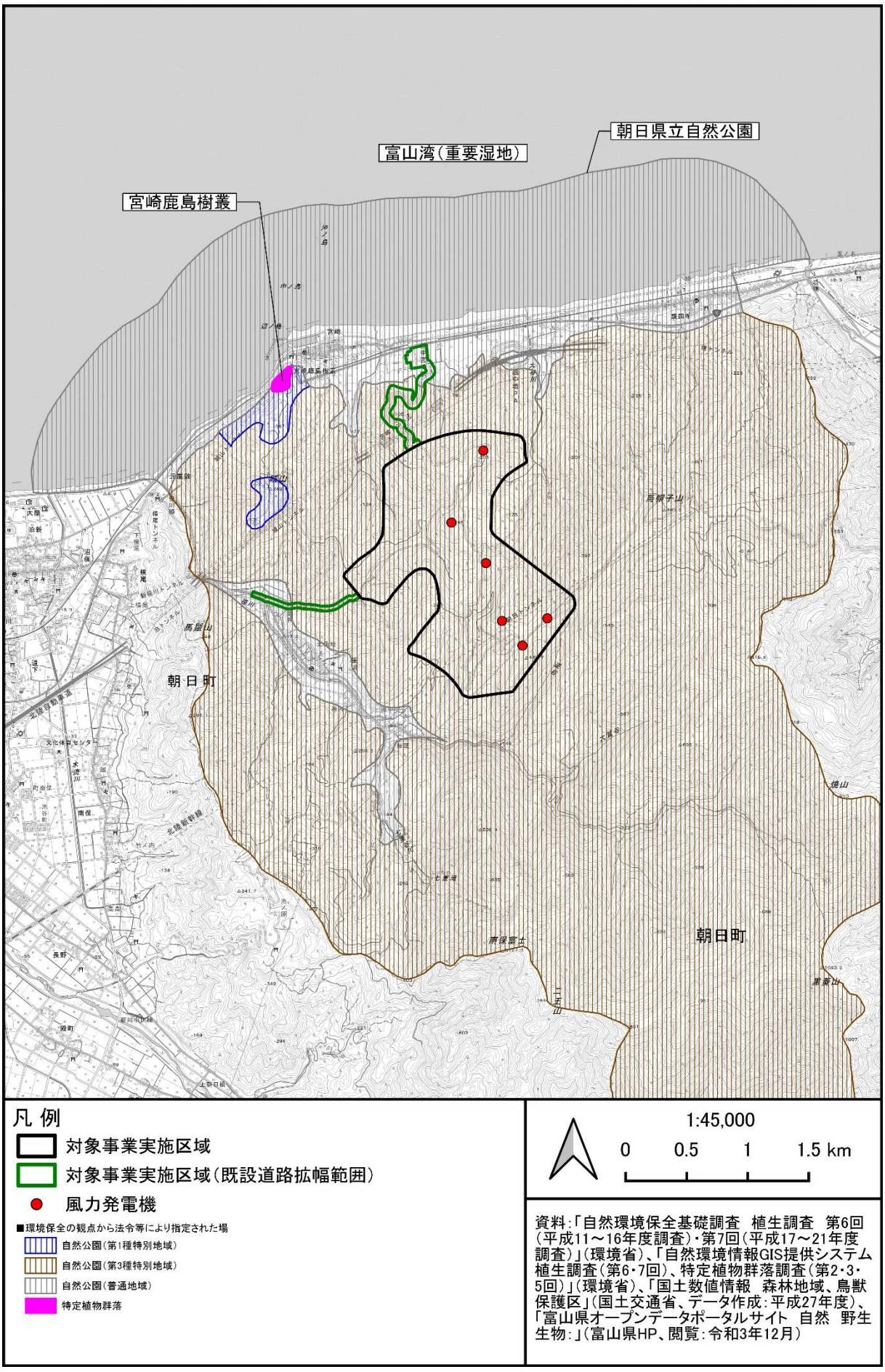


図 3.1-36(2)　重要な自然環境のまとまりの場の位置

3) 対象事業実施区域及びその周囲における食物連鎖

対象事業実施区域及びその周囲の生態系の概要を把握するため、既存資料により確認された基盤環境や生物種を基に、生物とその生息・生育環境との関わり、生物間の相互関係について代表的な生物種、種群を選定し、図 3.1-37 に示す食物連鎖模式図としてまとめた。

対象事業実施区域においては、針葉樹林、広葉樹林が優占し、草地・耕作地等、住宅地等、開放水域が一部存在し、針葉樹林であるスギ・ヒノキ・サワラ植林、広葉樹林であるオクチョウジザクラーコナラ群集、草地・耕作地等である水田雑草群落、住宅地等の庭木・街路樹等及び開放水域の水生植物、植物プランクトンを生産者とする生態系が構成されている。

針葉樹林、広葉樹林、草地・耕作地等及び住宅街等では、第一次消費者として植物食性の哺乳類（ノウサギ等）、小鳥類（アトリ類等）及び昆虫類（チョウ類等）、また、第二次消費者として雑食性の哺乳類（タヌキ等）及び鳥類（ヤマドリ等）、動物食性の爬虫類（トカゲ類等）、両生類（カエル類等）及び昆虫類（トンボ類等）、さらに、第三次消費者として中型哺乳類（キツネ等）や中型鳥類（オオタカ等）が生息し、最終的な第三次消費者として、大型鳥類（クマタカ等）が食物連鎖の上位に位置していると推測された。

開放水域では、第一次消費者として植物食性の魚類（アユ等）や昆虫類（フタバコカゲロウ等）、また、第二次消費者として雑食性の魚類（ウグイ等）や甲殻類（サワガニ等）、動物食性の魚類（カジカ等）や昆虫類（ゲンゴロウ等）が生息し、さらに、第三次消費者として中大型鳥類（ミサゴ等）が食物連鎖の上位に位置していると推測された。

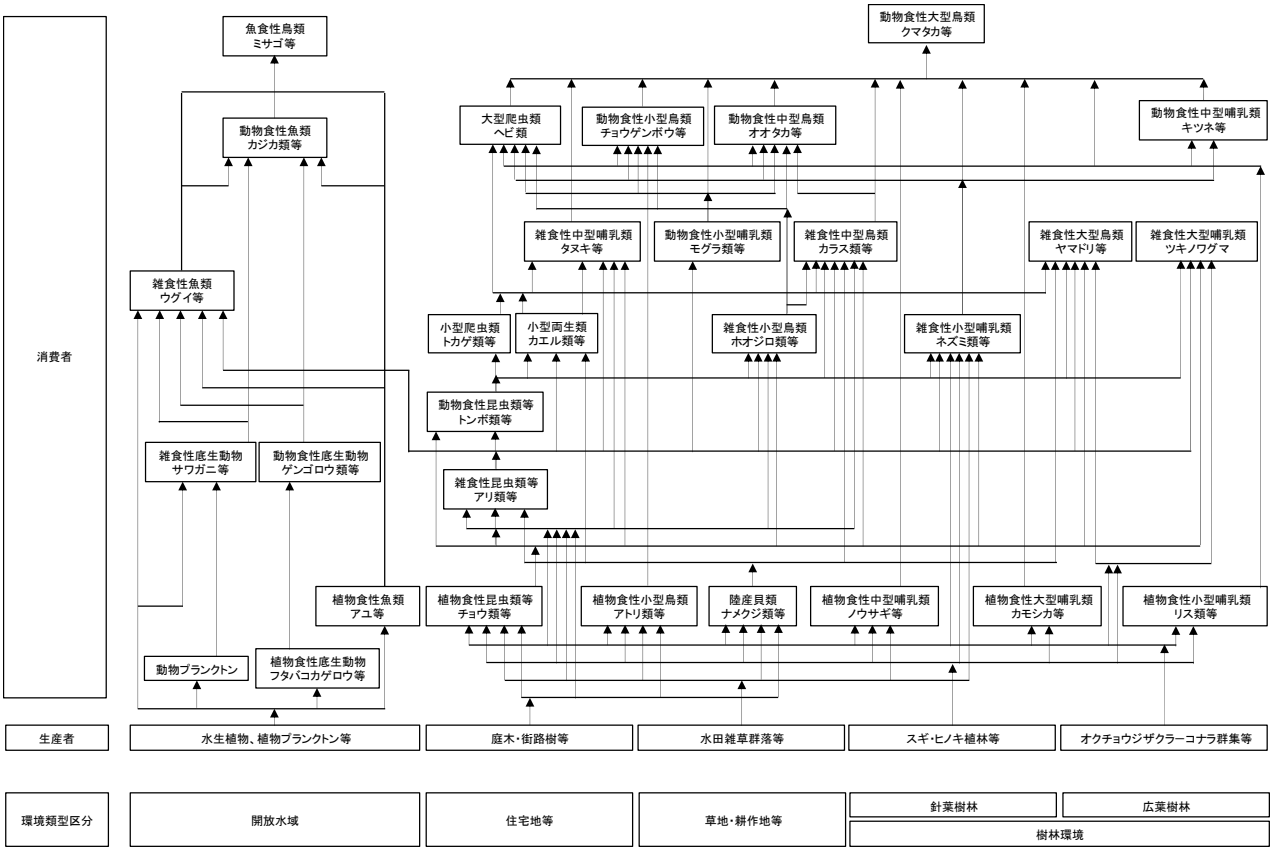


図 3.1-37　食物連鎖模式図

3.1.6　景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

(1)景観の状況

対象事業実施区域及びその周囲は、富山県の東端に位置し、北は日本海に面している。

1)主要な眺望点

対象事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点等は表 3.1-56 及び図 3.1-38 に示すとおりであり、19 箇所存在している。

また、朝日県立自然公園利用施設計画における公園施設は表 3.1-57 に示すとおりであり、一部を主要な眺望点として選出している。

表 3.1-56(1)　主要な眺望点の概要（景勝地、展望地等）

記号	名　称	概　要
A	ヒスイテラス	ヒスイ海岸に位置する施設。テラスや屋上からは、輝くヒスイ海岸の眺めを楽しみながらくつろぐことができる。周辺には海キャンプを楽しめる「朝日ヒスイ海岸オートキャンプ場」が存在する。
B	朝日町立 ふるさと美術館 （旧なないろ KAN）	食事、陶芸体験、朝市での買物が楽しめる。緑豊かな芝生広場からは白馬・朝日岳の雄大な景色が見える。なお、なないろ KAN は令和 5 年 7 月に改修され、朝日町立ふるさと美術館にリニューアルされた。
C	三峯グリーンランド	森林地にある広大なキャンプ場である。
D	城山公園	標高 248m に位置する歴史を秘めた城跡公園。富山湾、能登半島を一望に見渡すことができる。
E	舟川べり	雪を抱く白馬岳・朝日岳の北アルプスを背景に、桜並木とチューリップ、菜の花が奏でる四重奏を楽しめる。清流に映える大木の桜トンネルも見事。
F	くろべ牧場まきばの風	黒部扇状地と富山湾を一望できる絶景スポットで、晴れた日には能登半島まで見渡せる。
G	黒部市明日キャンプ場 （どやまらんど）	日本海を一望できるキャンプ場である。
H	舟見城址館	天守閣から黒部川扇状地と富山湾が一望できる城址である。
I	嘉例沢森林公園 キャンプ場	標高 700～1,000m の高さに位置する森林公園内キャンプ場である。 森林公園内の展望台からは、朝日岳連山や黒部川扇状地、富山湾、能登半島を見渡すことができる。
J	想影展望台	宇奈月温泉街のなかにある展望台。周囲を流れる黒部川を一望できる。
K	下山芸術の森・ 発電所美術館	大正時代に建設された赤レンガの水力発電所を美術館にしたユニークな施設。散居村や北アルプス連峰などを一望できる展望台がある。
L	沢スギ自然館	模型や映像、パネル展示、展望室などがあり、沢スギをいろいろな観点から学習することができる。
M	舟川ダム	周辺には、展望台が設置されている。
N	負釣山	黒部川扇状地の田園風景や、富山湾を一望できる。
O	上の山園地	面積が 6,000 ㎡ある広い芝生広場で、児童に人気の遊び場である。休憩所、トイレ、ベンチなどのほかフィールドアスレチックもあり、家族連れで 1 日をのんびりと楽しく遊ぶことができる。
P	親不知	断崖絶壁が日本海に落ち込み、天下の険として有名。

資料：「とやま観光ナビ」（富山県・とやま観光推進機構 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「観光」（朝日町 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「あさひ暮らし旅」（一般社団法人朝日町観光協会 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「自然・観光」（入善町 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「にゅうぜんマニア」（入善町観光物産協会 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「黒部めぐり」（一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「糸魚川観光ガイド」（一般社団法人糸魚川市観光協会 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「とやまビューポイント 60 地点一覧」（富山県、令和 8 年 4 月）

表 3.1-56(2)　主要な眺望点の概要（周辺集落）

記号	名　称	概　要
Q	宮崎	対象事業実施区域近傍の集落である。
R	境	
S	笹川	

資料：「ゼンリン住宅地図 黒部市 下新川郡入善町 朝日町」（(株) ゼンリン、令和6年8月）

表 3.1-57　自然公園利用施設計画における公園施設の概要

対応する眺望点の記号	利用計画	施設又は名称	概　要
D	集団施設地区	城山	「D.城山公園」が存在し、富山湾、能登半島を一望に見渡すことができる。
A	単独施設	宮崎・境海岸	「A.ヒスイテラス」が存在し、ヒスイ海岸を望むことができる。
―		烏帽子山	朝日県立自然公園利用施設計画において園地として指定されている。
―		七重滝	断層にできた幅2m、落差60mの滝で、岩肌を7段にリズムを刻みながら流れ落ちる。朝日県立自然公園利用施設計画において園地として指定されている。
C		三峯	「C. 三峯グリーンランド」が存在し、特定の眺望景観はない。
―		小川温泉	泉質は炭酸カルシウムを含む弱食塩泉で、開湯四百年の伝統を持つ。朝日県立自然公園利用施設計画において園地として指定されている。
―	車道	宮崎・境線	朝日県立自然公園利用施設計画において車道として指定されている。
―		元屋敷・境線	
―		城山線	
―		烏帽子線	
―		笹川・池ノ原線	
―		大谷・田中線	
―		宮崎・笹川線	
―		小川温泉・北又谷線	
D、O	歩道	城山登山線	歩道内に「D.城山公園」及び「O.上の山園地」が存在する。
C		七重滝・三峯線	歩道内に「C. 三峯グリーンランド」が存在する。
―		あさひ小川ダム線	朝日県立自然公園利用施設計画において歩道として指定されている。

資料：「朝日県立自然公園指定書及び公園計画書」（富山県、平成5年6月）より作成

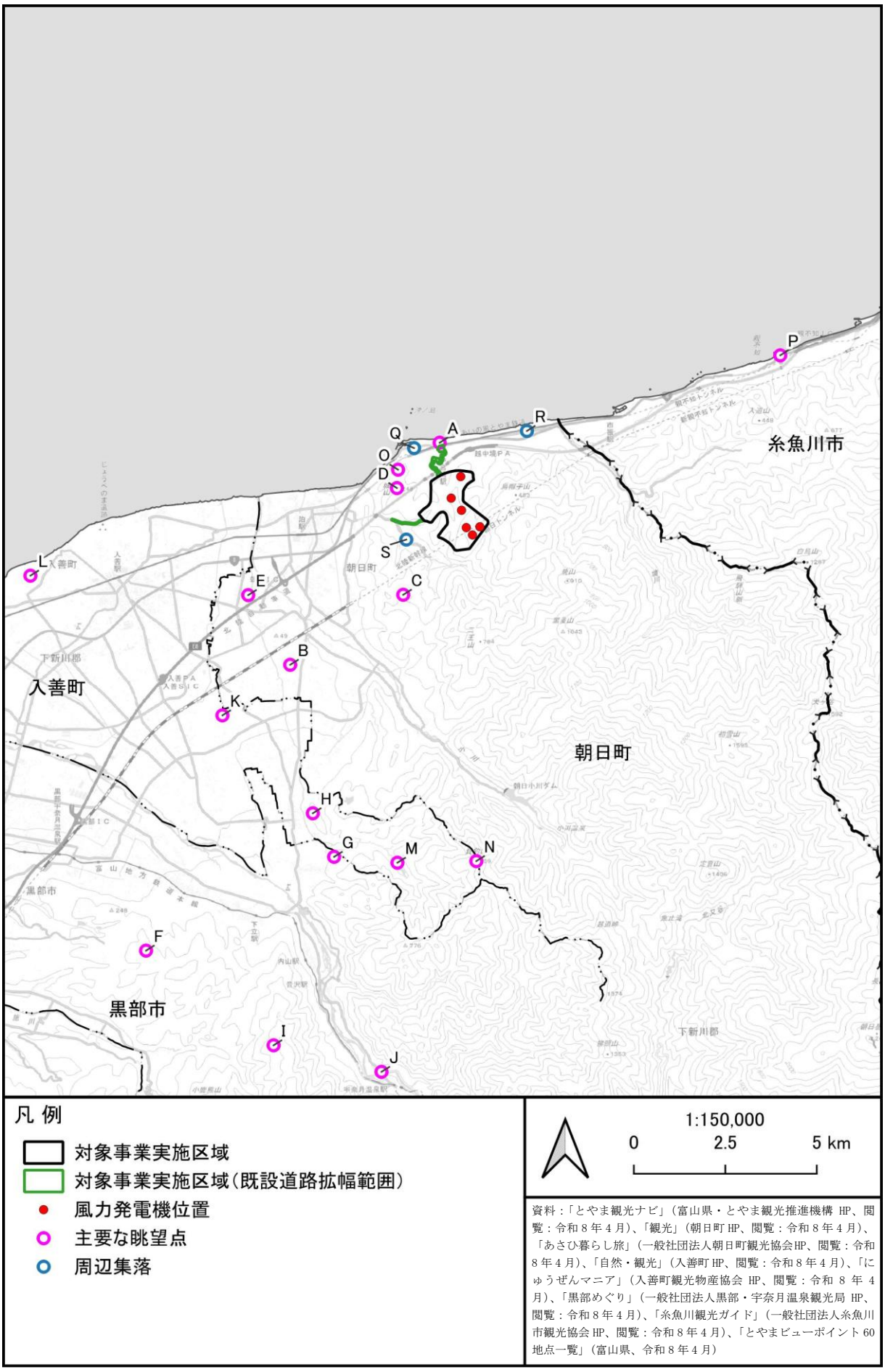


図 3.1-38　主要な眺望点等の位置

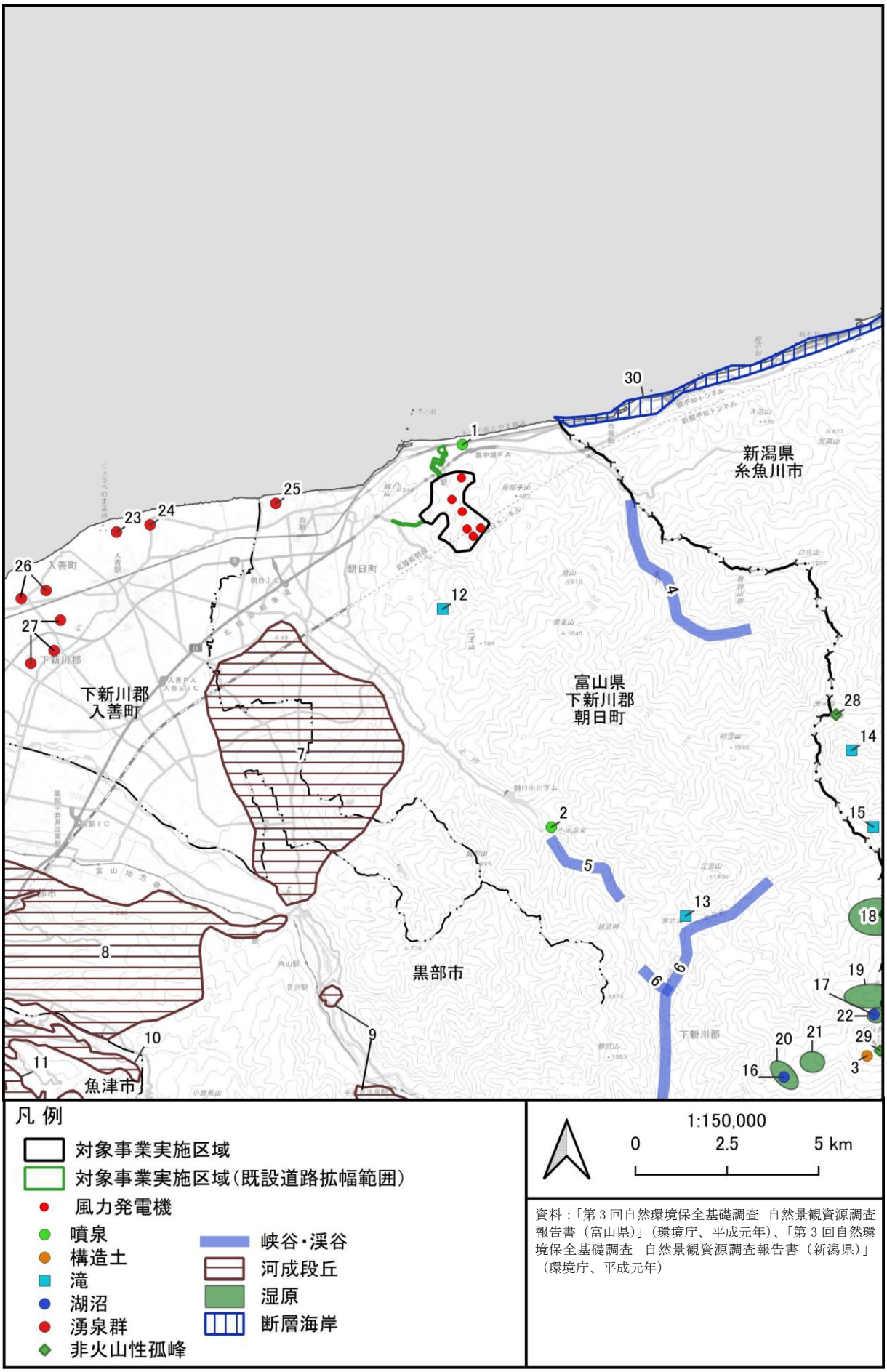
2)景観資源

対象事業実施区域及びその周囲の景観資源は表 3.1-58 及び図 3.1-39 に示すとおりであり、30 箇所存在している。

表 3.1-58 景観資源

No.	区分	名称
1	噴泉	境鉱泉
2		小川温泉
3	構造土	朝日岳の構造土
4	峡谷・渓谷	大平川渓谷
5		小川渓谷
6		北俣谷渓谷
7	河成段丘	舟見・棚山段丘
8		十二貫野段丘
9		音沢段丘
10		布施川左岸段丘
11		片貝川右岸段丘
12	滝	七重滝
13		魚留滝
14		滝（名称なし）
15		滝（名称なし）
16	湖沼	前朝日岳西斜面
17		朝日池（朝日岳北斜面）
18	湿原	長柵山北方湿原
19		長柵山西方湿原
20		前朝日岳西斜面の湿原
21		前朝日岳の湿原（夕日ヶ原）
22		朝日岳北斜面の湿原
23	湧泉群	黒部川扇状地入善湧水群
24		黒部川扇状地横山湧水群
25		黒部川扇状地泊湧水群
26		入善湧水帯
27		入善湧水帯（被圧水）
28	非火山性孤峰	犬ヶ岳
29		朝日岳
30	断層海岸	親不知～子不知海岸

資料：「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書（富山県）」（環境庁、平成元年）
「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書（新潟県）」（環境庁、平成元年）



資料：「第３回自然環境保全基礎調査　自然景観資源調査報告書（富山県）」（環境庁、平成元年）、「第３回自然環境保全基礎調査　自然景観資源調査報告書（新潟県）」（環境庁、平成元年）

図 3.1-39　景観資源の位置

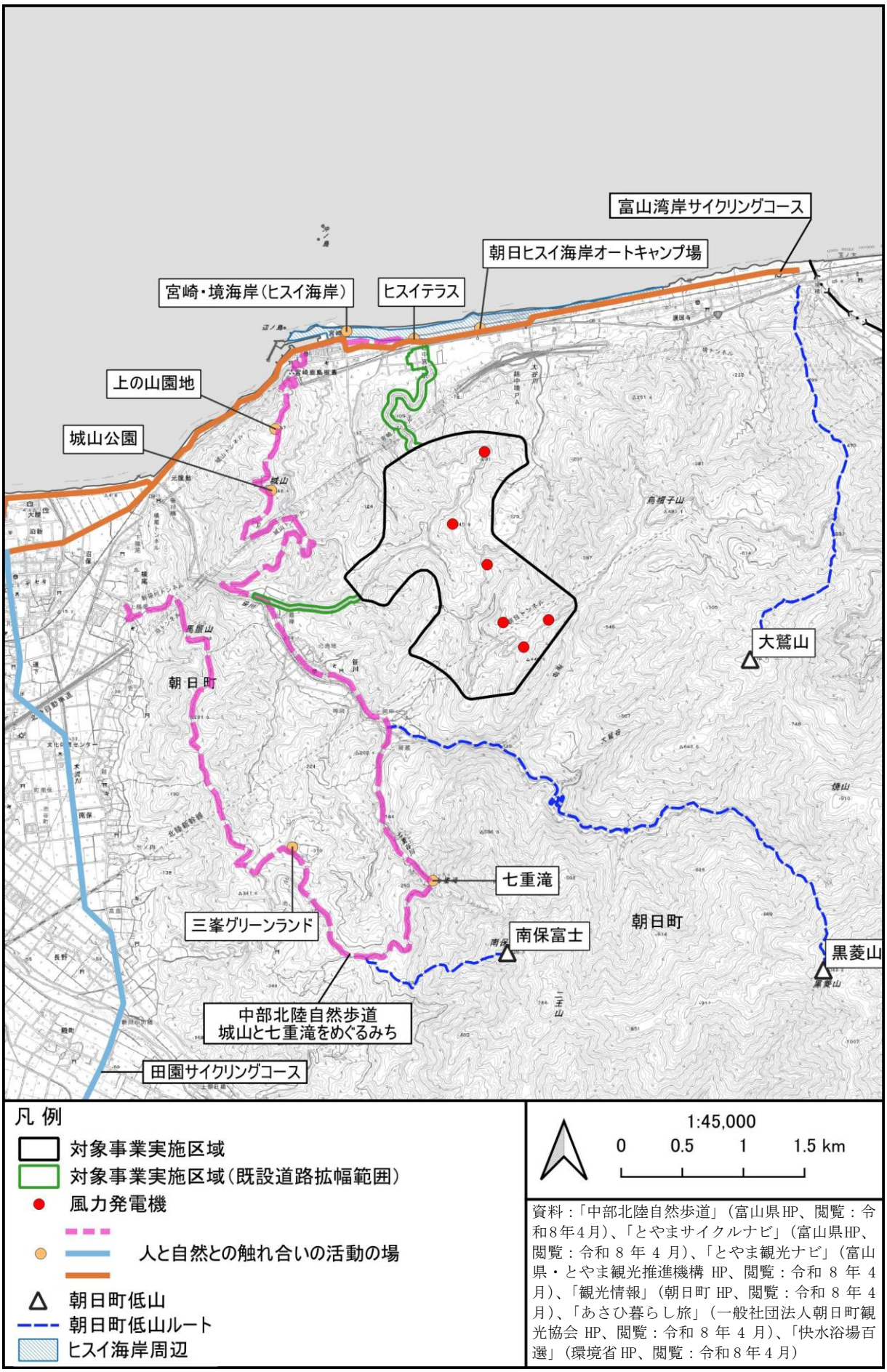
(2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の状況は、表 3.1-59 及び図 3.1-40 に示すとおりであり、人と自然との触れ合いの活動の場が 12 箇所存在する。

表 3.1-59　人と自然との触れ合いの活動の状況

名称		想定する主な活動	概　要
ヒスイ海岸周辺	ヒスイテラス	散策、自然鑑賞等	テラスや屋上からは、輝くヒスイ海岸の眺めを楽しみながらくつろぐことができる。
	朝日ヒスイ海岸オートキャンプ場	散策、キャンプ等	「日本の渚百選」のヒスイ海岸が目の前に広がり、宿泊施設も充実しているキャンプ場。 海岸に出て海岸の風景や日本海に沈む夕日を楽しんだり、海水浴、ヒスイ探し、海釣りなどの海のアクティビティを楽しむ海キャンプができる。
	宮崎・境海岸（ヒスイ海岸）	海水浴	間近に険しい山々の峰が迫り、夕暮れ時には夕日に染まる美しい海岸を見ることができる。
中部北陸自然歩道（城山と七重滝をめぐるみち）	上の山園地	散策、自然鑑賞等	面積が 6,000 ㎡ある広い芝生広場で、児童に人気の遊び場である。 休憩所、トイレ、ベンチなどのほかフィールドアスレチックもあり、家族連れで 1 日をのんびりと楽しく遊ぶことができる。
	城山公園	散策、自然鑑賞等	標高 248m に位置する歴史を秘めた城跡公園。富山湾、能登半島を一望に見渡すことができる。
	七重滝	散策、自然鑑賞等	断層にできた幅 2m、落差 60m の滝で、岩肌を 7 段にリズムを刻みながら流れ落ちる。
	三峯グリーンランド	散策、自然鑑賞等	森林地にある広大なキャンプ場である。
登山道	大鷲山	登山、自然鑑賞等	急登の杉野植林地帯を過ぎると、気持ちのよい広葉樹林の林となる。ブナやナラの樹林、細尾根を進むと頂上に着く。空気の澄んだ日には佐渡島まで見渡せる。
	黒菱山		ブナやミズナラの林の中を行くと主稜線に出る。ナナカマドなどの低木の緩い登りとなり山頂に着く。白馬連山、剣岳北方領線の山々、黒部扇状地から富山湾など壮大なパノラマが楽しめる。
	南保富士		カラマツの植林を過ぎると尾根に取りつき、海岸線と並行に伸びる稜線を小鳥の囀りを聴きながら登ると山頂に着く。富山湾から能登半島、朝日岳、剣岳、毛勝三山などの眺望が広がる。
富山湾岸サイクリングコース		サイクリング、自然鑑賞等	富山湾の美しい景色を楽しみながらサイクリングができる。
田園サイクリングコース		サイクリング、自然鑑賞等	立山連峰のパノラマ風景や沿線地域の観光施設を巡りながらサイクリングができる。

資料：「中部北陸自然歩道」（富山県 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「とやまサイクルナビ」（富山県 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「とやま観光ナビ」（富山県・とやま観光推進機構 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「観光情報」（朝日町 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「あさひ暮らし旅」（一般社団法人朝日町観光協会 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「快水浴場百選」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）



資料：「中部北陸自然歩道」（富山県HP、閲覧：令和8年4月）、「とやまサイクルナビ」（富山県HP、閲覧：令和 8 年 4 月）、「とやま観光ナビ」（富山県・とやま観光推進機構 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）、「観光情報」（朝日町 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）、「あさひ暮らし旅」（一般社団法人朝日町観光協会 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）、「快水浴場百選」（環境省 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）

図 3.1-40　主要な人と自然との触れ合いの活動の場の位置

3.1.7　一般環境中の放射性物質の状況

富山県では放射性物質のモニタリングポストを設置し、空間放射線量率の監視を行っている。

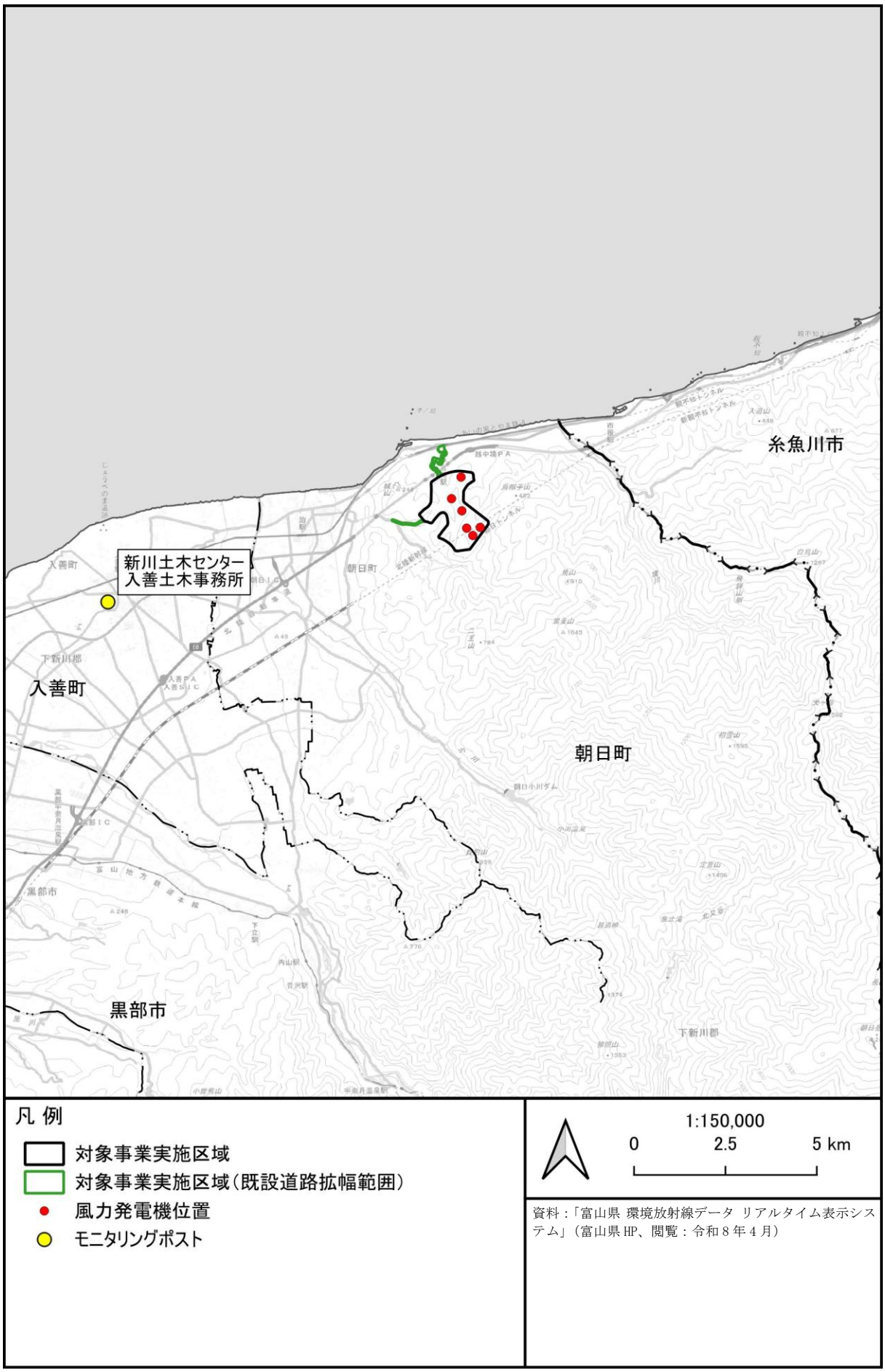
対象事業実施区域及びその周囲におけるモニタリングポストの概要及び空間線量率の測定結果は表 3.1-60 に、測定地点の位置は図 3.1-41 に示すとおりである。

表 3.1-60　モニタリングポストの概要及び空間線量率の測定結果

区分	測定場所	調査回数	測定結果（μSv/h）		
			令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
下新川郡入善町	新川土木センター 入善土木事務所	連続	0.034～0.095	0.030～0.075	0.029～0.078

注：資料では「nGy/h」の単位で表記されているが、「環境放射線モニタリング指針」（原子力安全委員会、平成 20 年 3 月（平成 22 年 4 月一部改訂））に示される外部被ばくによる実効線量の算定方法に準じて、「1nGy=0.0008μSv」として単位を換算した。

資料：「富山県 環境放射線データ リアルタイム表示システム」（富山県 HP、閲覧：令和 8 年 4 月）
「富山県の環境放射線監視体制の強化について」（富山県、平成 24 年 4 月）
「大気汚染の現況 身近な公害の現況（騒音･振動･悪臭）令和 7 年度版（令和 6 年度の実績）」（富山県、令和 7 年）



資料：「富山県 環境放射線データ リアルタイム表示システム」（富山県HP、閲覧：令和８年４月）

図 3.1-41　空間線量率の測定地点の位置

（白紙のページ）